管海官廳ハ調査上差支ナキトキハ申請書ニ添附スヘキ書類及圖面ノ添附ヲ省略セシメ又ハ其ノ記載ヲ簡約セシムルコトヲ得

第八條 管海官廳ハ必要アリト認ムルトキハ承認申請、承認更正申請又ハ竣工承認申請ニ付其ノ調査及工事施行ノ監督ヲ他ノ管海官廳ニ囑託スルコトヲ得

前項ノ囑託ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ其ノ旨申請者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル後申請者カ囑託事項ニ關シ提出スル承認更正申請書又ハ第十條ノ屆書ハ受託管海官廳ヲ經由スヘシ

第九條 管海官廳ハ承認申請、承認更正申請又ハ竣工承認申請ヲ正當ト認ムルトキハ申請者ニ承認書、承認更正書又ハ竣工承認書ヲ交付スヘシ

管海官廳ハ申請者ノ請求ニ因リ必要アリト認ムルトキハ承認書、承認更正書又ハ竣工承認書ノ數通又ハ副本ノ交付ヲ爲スコトヲ得

承認書、承認更正書及竣工承認書ハ輸入稅ノ免除ヲ受ケムトシ又ハ受ケタル物品ニ關スルモノ及奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル鋼材ニ關スルモノニ分チ第一號乃至第三號ノ書式ニ依リ之ヲ作成スヘシ

第十條 船舶建造又ハ修繕用物品ノ承認ヲ受ケタル者カ當該鐵鋼材ヲ輸入シタルトキ又ハ引渡ヲ受ケタルトキハ其ノ都度第六條第二項及第三項ノ規定ニ準シ其ノ種類及數量ヲ記載シタル屆書ヲ遲滯ナク當該管海官廳ニ提出スヘシ其ノ記載シタル事項ニ付變更アリタルトキ亦同シ

第十一條 一定期間内ニ使用スヘキ船舶修繕用物品ノ承認ヲ受ケタル者カ其ノ物品ヲ船舶ノ修繕ノ爲使用セムトスルトキハ工場ノ名稱及位置、船舶ノ位置、名稱、種類、所有者及總噸數竝修繕ノ箇所、著手期日及竣工期日ヲ記載シタル屆書ヲ當該管海官廳ニ提出スヘシ其ノ屆出テタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第十二條 承認書、承認更正書又ハ竣工承認書カ毀損又ハ滅失シタルトキハ管海官廳ハ申請者ノ請求ニ因リ其ノ書換又ハ再交付ヲ爲スコトヲ得

附　則

本令ハ大正十五年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ爲サレタル船舶建造用物品承認申請ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前ニ爲サレタル船舶修繕用物品承認申請ハ之ヲ本令ニ依リタルモノト看做ス

（第一號書式）

年　甲（又ハ乙若ハ乙特）第　號

附　則（昭和十二年遞信省令第八十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ爲サレタル船舶建造又ハ修繕用物品承認申請ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

船舶建造（又ハ修繕）用物品承認書

一　申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在地

二　工場ノ名稱及位置

三　船舶ノ製造番號及種類（又ハ一年ヲ超エサル一定期間若ハ船舶ノ位置、名稱及種類）

四　輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル物品又ハ奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル鋼材ノ種類及數量

五　起工期日（又ハ著手期日）及竣工期日

右申請者ノ申請ニ係ル物品ノ種類及數量ニ相當スル物品ハ前記工場及期日（又ハ期間）ニ於テ建造（又ハ修繕）スル船舶ニ使用スルニ必要ナルコトヲ承認ス

年　月　日　　管海官廳名印

備考

一　番號中ノ甲ハ船舶建造用物品承認書、乙ハ船舶修繕用物品承認書ニシテ一定期間内ニ於ケル船舶修繕用物品ニ關スルモノ、乙特ハ船舶修繕用物品承認書ニシテ特定船舶ノ修繕用物品ニ關スルモノニ附スヘキモノトス

二　第四號中鐵鋼材ノ種類及數量ハ第六條第一項ニ依リ記載シ尙奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノニハ鋼質及製造者名ヲモ參考ノ爲附記スベキモノトス

三　第五號ハ船舶修繕用物品承認書ニシテ一定期間内ニ於ケル船舶修繕用物品ニ關スルモノニハ記載セサルモノトス

（第二號書式）

年　甲（又ハ乙若ハ乙特）第　號

船舶建造（又ハ修繕）用物品承認更正書

申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在地

右申請者ニ　年　月　日交付シタル

年　甲（又ハ乙若ハ乙特）第　號船舶建造（又ハ修繕）用物品承認書中左ノ如ク更正ス

年　月　日　　管海官廳名印

備考

番號ハ當該承認書ト同一ノモノヲ付スヘキモノトス

（第三號書式）

年　甲（又ハ乙若ハ乙特）第　號

船舶建造（又ハ修繕）竣工承認書

一　申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主タル事務所所在地

二　工場ノ名稱及位置

三　船舶ノ製造番號及種類（又ハ位置、名稱及種類）

四　船舶ノ建造（又ハ修繕）ノ爲使用シタル物品ニシテ輸入稅ノ免除ヲ受ケタルモノ又ハ奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノノ種類及數量

五　竣工ノ年月日

右申請者ノ申請ニ係ル物品ノ種類及數量ニ相當スル物品ハ前記工場及年月日ニ於テ竣工シタル船舶ノ建造（又ハ修繕）ニ使用セラレタルコトヲ承認ス

年　月　日　　管海官廳名印

備考

一　番號ハ當該承認書ト同一ノモノヲ付スヘキモノトス

二　第四號中鐵鋼材ノ種類及數量ハ第六條第二項ニ依リ記載シ尙奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノニハ鋼質及製造者名ヲモ參考ノ爲附記スヘキモノトス

船舶建造及修繕用物品承認規則取扱手續

（大正十三年公達第四百二十七號）

改正　大正十五年公達第三百五十號

第一章　總則

第一條　大正十年勅令第二百三十九號及製鐵業奬勵法施行令ニ掲クル鐵鋼船ハ機械力又ハ帆ヲ以テ運航スル裝置ヲ有セサル船舶及艦船ヲ包含スルモノトス

第二條　管海官廳ハ船舶建造用物品承認申請書ヲ受理シタルトキハ「大正何年甲第何號」、船舶修繕用物品承認申請書ヲ受理シタルトキハ一定期間ニ關スルモノニ在リテハ「大正何年乙第何號」特定船舶ニ關スルモノニ在リテハ「大正何年乙特第何號」ナル受付番號ヲ之ニ附シ爾後當該申請ニ關聯セル承認更正申請書、竣工承認申請書又ハ屆書等ヲ受理シタルトキハ同一受附番號ヲ之ニ附スヘシ

受託管海官廳ハ囑託ニ關スル書類竝自廳ヲ經由スル承認更正申請書又ハ屆書等ヲ受理シタルトキハ「大正何年丙第何號」ナル受付番號ヲ之ニ附スヘシ

第二章　申請書及屆書作成方

第三條　申請書及屆書ニ記載セシムヘキ工場ノ名稱及位置ハ修繕ノ工事ヲ普通ノ工場ニ於テ爲ササルトキハ當該物品ヲ使用スル船舶又ハ申請者ノ住所若ハ事務所ヲ、建造又ハ修繕ノ工事ヲ爲ス工場二箇以上アルトキハ主ナル工場ヲ記載セシムヘシ

第四條　申請書ニ記載セシムヘキ物品ノ種類及數量ハ竣工承認申請書中ノ鐵鋼材ニ關スルモノヲ除クノ外第一號書式ニ依リ之ヲ記載セシムヘシ

第五條　承認規則第六條ニ掲クル鍛造品ハ旋削工事直前ノモノヲ謂ヒ成品ハ半成品及完成品ヲ包含スルモノトス

第六條　承認規則第六條ニ掲クル鋼質ハ塊及片ニ在リテハ普通鋼、ニツケル鋼、ニツケルクローム鋼又ハ其ノ他ノ鋼、條及竿ニ在リテハ普通鋼（高張力鋼ヲ含ム）、ターピンプレーデイング用ニツケル鋼、ターピンプレーデイング用ステンレス鋼又ハ其ノ他ノ鋼、板ニ在リテハ普通鋼、（高張力鋼ヲ含ム）又ハ其ノ他ノ鋼、筒及管ニ在リテハ冷間引拔繼目無鋼、熱間仕上繼目無鋼、又ハ其ノ他ノ鋼ニ區別シ之ヲ記載セシムヘシ

第七條　申請書及屆書ニ記載セシムヘキ船舶ノ位置ハ修繕ヲ爲ス船舶ノ所在スル港灣船、船渠等ノ名稱ヲ記載セシムヘシ

第八條　申請書及屆書ニ記載セシムヘキ起工期日及修繕ノ着手期日ハ承認ヲ受クヘキ物品ノ使用開始ノ日ヲ、竣工期日及竣工ノ年月日ハ承認ヲ受ケタル物品ヲ使用スル工事終了ノ日ヲ記載セシムヘシ

第九條　申請書及屆書ニ記載セシムヘキ修繕ノ箇所ハ修繕ノ範圍ヲ推知シ得ル程度ニ之ヲ記載セシムヘシ

第三章　申請書及屆書提出方

第十條　數人カ各別ニ船舶ノ一部ノ建造又ハ修繕ヲ爲ストキハ各別ニ承認申請ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條　承認規則第十一條ノ屆出ハ一定期間內ニ於ケル船舶修繕用物品トシテ承認ヲ受ケタルモノヲ特定船舶ニ對スル修繕用物品承認申請ヲ爲シタル船舶ノ修繕ニ使用

セムトスルトキト雖之ヲ爲サシムヘシ

第十二條 竣工承認申請ハ已ムヲ得サル事由ナキ限リ船舶ノ發航前之ヲ爲サシムヘシ

第四章　申請書及屆書ニ關スル調査監督ノ囑託

第十三條 管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ調査監督ノ囑託ヲ爲サムトスルトキハ其ノ囑託事項ニ關スル必要書類ヲ當該管海官廳ニ送付スヘシ

第十四條 管海官廳囑託ヲ爲シタルトキハ事由ヲ具シ遲滯ナク管船局ニ之ヲ報告スヘシ

囑託事項ノ處理要項ハ第十八條又ハ第十九條ノ規定ニ依リ管船局ニ提出スル報告書ニ之ヲ明ニスヘシ

第十五條 受託管海官廳ハ受託事項ニ付調査ヲ了リタルトキハ遲滯ナク囑託管海官廳ニ必要ナル書類及圖面ヲ添ヘ調査報告ヲ爲スヘシ

第五章　申請書及屆書ノ調査及報告

第十六條 管海官廳ハ申請又ハ屆出ヲ適當ト認メタルトキハ左ノ各號ニ依リ當該鐵鋼材類別表ヲ作成シ一件書類中ニ綴込ミ置クヘシ

一　承認更正申請書ノ調査ヲ了リタルトキ　承認更正鐵鋼材類別表

二　承認規則第十條ノ規定ニ依ル屆書ノ調査ヲ了リタルトキ　輸入引取鐵鋼材類別表

三　竣工承認申請書ノ調査ヲ了リタルトキ　使用鐵鋼材類別表及一定期間内ニ於ケル船舶修繕用鐵鋼材ニ關スル第二回以後ノ竣工承認ニ在リテハ使用鐵鋼材累計類別表

前項ノ鐵鋼材類別表ハ第二號書式ニ依ルヘシ

第十七條 鐵鋼材ノ種類及數量ヲ記載シタル書類ニハ前條ノ鐵鋼材類別表ト對照ノ爲「何類別表第何表對照」ト朱記スヘシ

第十八條 管海官廳ハ左ノ各號ノ場合ニ於テハ豫メ調査報告書ヲ管船局ニ提出シ其ノ指揮ヲ受クヘシ

一　船舶建造用物品承認書又ハ一定期間内ニ於ケル船舶修繕用物品承認書ヲ交付セムトスルトキ

二　前號ノ承認書ニ關聯セル承認更正書ヲ交付セムトスルトキ但シ更正事項ノ輕微ナル場合ヲ除ク

三　船舶建造竣工承認書ヲ交付セムトスルトキ

前項ノ調査報告書ニハ申請書（添附書類及圖面ヲ含ム）及鐵鋼材類別表ノ寫各一通ヲ添附スヘシ

第十九條 管海官廳ハ左ノ各號ノ場合ニ於テハ遲滯ナク調査報告書ヲ管船局ニ提出スヘシ

一　特定船舶ニ對スル船舶修繕用物品承認書ヲ交付シタルトキ

二　前條第一項第二號ノ規定ニ依リ豫メ管船局ノ指揮ヲ受クルヲ要セサル場合ニ於テ承認更正書ヲ交付シタルトキ

三　承認規則第十條ノ規定ニ依ル屆書提出アリタルトキ

四　船舶修繕竣工承認書ヲ交付シタルトキ

前項ノ調査報告書ニハ申請書（添附書類及圖面ヲ含ム）又ハ屆書及鐵鋼材類別表ノ寫各一通ヲ添附スヘシ

第六章　承認書、承認更正書及竣工承認書作成方

第二十條 承認書、承認更正書及竣工承認書ニハ申請書ノ受附番號ト同一番號ヲ附シ且其ノ番號ノ下ニ輸入稅ノ免除ヲ受ケムトシ又受ケタル物品ニ關スルモノニ在リテハ「輸」ノ字ヲ、奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル鋼材ニ關スルモノニ在リテハ「奬」ノ字ヲ添記シ尙各葉ニハ契印ヲ捺スヘシ

第二十一條 承認書、承認更正書及竣工承認書ニハ物品ノ種類及數量ノ記載ヲ省略シ申請者ヨリ提出セシメタル書類ヲ之ニ代用スルコトヲ得

第七章　書類ヲ保存

第二十二條 承認ニ關スル一件書類ハ當該手續終了シタル年ノ翌年ヨリ五年間管海官廳ニ之ヲ保存スヘシ

附　則

本公達ハ大正十三年六月十日ヨリ之ヲ施行ス

附　則

本公達ハ大正十五年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附　則

本公達ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十五年八月七日公布）

第一號書式

（甲）鐵鋼材ノ種類及數量

鐵鋼材ノ種類		免税鐵鋼材ノ數量	奬勵金交付鋼材		
			數量	鋼質	製造者名
船體用鐵鋼材	塊		素鍛成		
	片		素鍛成		
	條及竿				
	板				
	筒及管				
機關用鐵鋼材	塊		素鍛成		
	片		素鍛成		
	條及竿				
	板				
	筒及管				
艤裝品用鐵鋼材	塊		素鍛成		
	片		素鍛成		
	條及管				
	板				
	筒及管				

（乙）機關、機關部分品、艤裝品及艤裝品及艤裝品部分品ノ種類及數量

種類	數量	大正十年遞信省令第三十六號ニ依ル認許	
		通知年月日	番號

備考

一　奬勵金交付鋼材ノ數量欄中ノ塊及片ニ限リ其ノ製造者ヨリ引取ルヘキ狀態ニ應シ素材、鍛造品及成品ニ區別シテ「素」「鍛」又ハ「成」ノ字ヲ冠附シ各別ニ記入セシムヘシ

二　更正承認申請書ニ物品ノ種類及數量ヲ記載スルニハ更正セラルヘキ事項ニ「舊」ノ字ヲ、更正承認ヲ受ケムトスル事項ニ「新」ノ字ヲ冠附シ同一欄內ニ上下ニ對照列記セシムヘシ但シ新ニ物品ノ種類ヲ追加スル場合ニ於テハ「新」ノ字ヲ冠附シ更正承認ヲ受ケムトスル事項ノミヲ記載セシムヘシ

三　申請書ニ記載セル工場以外ノ工場ニ於テ船舶ノ建造又ハ修繕ノ工事ノ一部ヲ爲サムトスルトキハ其ノ工場ノ名稱及位置ヲ明ニシ其ノ工場ニ使用セムトスル物品ノ種類及數量ヲ本書式ニ準シ別途ニ記載シタル書類ヲ作成シ添附書類トシテ之ヲ提出セシムヘシ

第表　　表別類

承認番號		船舶ノ製造番號又ハ名稱及一定期間	工場ノ名稱
昭和　年第　號		自昭和　年　月　日 至昭和　年　月　日	

種類		數量 免稅鐵鋼材ノ重量	奬勵金交付鋼材ノ重量	全所要鐵鋼材ノ重量	摘要
船體用鐵鋼材					
內譯	塊		素鍛成		
	片		素鍛成		
	條及竿				
	板				
	筒及管				
機關用鐵鋼材					
內譯	塊		素鍛成		
	片		素鍛成		
	條及竿				
	板				
	筒及管				
艤裝品用鐵鋼材					
內譯	塊		素鍛成		
	片		素鍛成		
	條及竿				
	板				
	筒及管				

昭和　年　月　日作成

逓信局海事部　出張所

備考

一　「類別表」ノ前ニハ「承認更正鐵鋼材」、「輸入引取鐵鋼材」、「使用鐵鋼材」又ハ「使用鐵鋼材累計」ト記入スヘシ

二　「船舶ノ製造番號又ハ名稱及一定期間」欄中ノ一定期間ハ一定期間内ニ於ケル船舶修繕用鐵鋼材ニ關スル各類別表ニ限リ記入スヘシ

三　「全所要鐵鋼材ノ重量」欄ニハ船舶建造用鐵鋼材ニ關スル各鐵鋼材類別表（輸入引取鐵鋼材類別表ヲ除ク）ニ限リ記入スヘシ

四　「奬勵金交付鋼材ノ重量」欄中ノ塊及片ニ限リ其ノ製造者ヨリ引取ルヘキ又ハ引取リタル狀態ニ應シ素材、鍛造品及成品ニ區別シテ「素」、「鍛」又ハ「成」ノ字ヲ冠附シ各別ニ記入スヘシ

承認更正鐵鋼材類別表ノ各重量欄ニハ更正後ノ承認高ヲ、輸入引取鐵鋼材類別表ノ各重量欄ニハ最初ノ輸入又ハ引取後ノ全輸入高又ハ全引取高ヲ、使用鐵鋼材累計類別表ノ各重量欄ニハ當該承認期間開始後ノ全使用高ヲ累計記入スヘシ

五　「摘要」欄ニハ參考トナルヘキ事項ヲ記入スヘシ

六　「第　表」ハ同一承認番號ノモノ毎ニ各類別表ヲ通シ作成ノ順序ヲ示スヘキ數字ヲ記入スヘシ

關稅定率法（拔萃）

（明治四十三年法律第五十四號）
改正　大正十四年法律第五十六號

第一條　外國ヨリ輸入スル物品ニハ別表ニ依リ關稅ヲ課ス

第十條　船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用スル鐵鋼材、艤裝品、艤裝品部分品、機關又ハ機關部分品ニシテ命令ヲ以テ指定シタルモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輸入稅ヲ免除スルコトヲ得

關稅定率法第十條ニ依ル命令ノ件

（大正十年勅令第二百三十九號）

第一條　關稅定率法第十條ノ規定ニ依リ輸入稅ヲ免除スル物品ハ左ノ各號ニ揭クルモノニシテ鐵鋼船ノ建造又ハ修繕ニ使用スルモノニ限ル

一　鐵鋼材（船體用、機關用又ハ艤裝品用ノモノ）
　鋼塊及鋼片（鍛造用ノモノ）
　條及竿（テー形、アングル形等ノ形狀ヲ有スルモノ及タービンブレーディングヲ含ム）
　板
　筒及管（鑄タルモノヲ除ク）

二　艤裝品
　操舵用テレモーター及テレモータ付操舵裝置水壓式支水隔壁戸及其ノ裝置
　ウエリス式ボートダビツト及其ノ裝置
　クレートン式消火消毒裝置

クロノメーター
厨房裝置
洗濯裝置

三　機關部分品

タービン用ノフオージドインゴツト、フオージドデイスク、フオージドリング、ホローブルーム、ロートルドラム及エキスパンションリング、コンゲーテツドボイラーフアーネスチユーブ
ハウデン式フアーネスフロント
マツクネール式ノマンホールドア及マンホールドアサツドルプレート

四　新規發明品又ハ本邦ニ於テ製作困難ナル特殊ノ物品ニシテ遞信大臣ノ認許ヲ得タル艤裝品、艤裝品部分品機關又ハ機關部分品

第二條　前條ニ掲クル物品ヲ使用シテ鐵鋼船ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス者ハ大藏大臣ノ定ムル事項ニ付豫メ管海官廳ノ承認ヲ受ケ其ノ承認書ヲ輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル物品ノ輸入手數ヲ爲ス稅關ニ提出スヘシ承認ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三條　前條ニ規定スル者其ノ工場又ハ藏置場ニ稅關官吏ノ常時派出ヲ受クル場合ニ於テハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ納付スヘシ

第四條　第二條ニ規定スル者ハ船舶ノ建造又ハ修繕ノ工事施行ニ付テハ管海官廳、輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物品ノ取扱ニ付テハ稅關長ノ監督ヲ受クヘシ

第五條　船舶ノ建造又ハ修繕竣リタルトキハ第二條ニ規定スル者ハ其ノ旨管海官廳ニ申告シテ承認ヲ受ケ承認書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ物品ノ輸入免許ヲ取消シ又ハ輸入申告者ヨリ輸入稅ヲ追徵ス但シ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ稅關長ノ認許ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

一　承認ヲ受ケタル物品ヲ當該船舶ノ建造ニ使用セサルトキ
二　承認ヲ受ケタル竣工期限迄ニ船舶ノ建造竣ラサルトキ
三　承認ヲ受ケタル期間内ニ修繕ニ使用スヘキ物品ヲ使用セサルトキ

第七條　管海官廳又ハ稅關長ハ第二條ニ規定スル者ニ對シ船舶ノ建造又ハ修繕ニ關シ調査又ハ監督ニ必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得
當該官吏ハ隨時工場若ハ藏置場ニ就キ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物品ヲ檢査シ又ハ之ニ關スル帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

第八條　海軍工作廳ニ於テ建造又ハ修繕スル海軍艦船ニ付テハ第一條ノ規定ヲ除クノ外本令ヲ適用セス
海軍工作廳ニ非サル場所ニ於テ建造又ハ修繕スル海軍艦船ニ付テハ本令中管海官廳ノ職務ハ海軍官憲之ヲ行フ但シ其ノ建造又ハ修繕ニ使用スル官給品ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用ス

第九條　本令中大藏大臣及遞信大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督臺灣ニ在リテハ臺灣總督之ヲ行フ

附　則

本令ハ大正十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年勅令第二百三十九號施行ニ關スル件

大正十年勅令第二百三十九號施行ニ關スル件

（大正十年大藏省令第十九號）
改正　昭和十四年大藏省令第三十七號

第一條　大正十年勅令第二百三十九號第二條ニ依リ管海官廳ノ承認ヲ受クヘキ事項左ノ如シ

甲　船舶ノ建造ヲ爲サムトスル場合

一　船舶ノ製造番號及種類
二　輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル物品ノ種類及數量
三　工場ノ名稱及位置
四　起工期日及竣工期日

乙　船舶ノ修繕ヲ爲サムトスル場合

一　各工場ニ於テ一定期間内ニ特定セサル船舶ノ修繕ニ使用セムトスル物品ニシテ輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスルモノノ種類及數量又ハ特定セル船舶ノ修繕ニ使用セムトスル物品ニシテ輸入稅ノ免除ヲ受ケムト

スルモノノ種類、數量、船舶ノ名稱、種類、修繕ノ著手期日及竣工期日

二　工場ノ名稱、位置及修繕ヲ爲スヘキ場所

第二條　大正十年勅令第二百三十九號ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル物品ノ輸入申告ハ同勅令第二條ニ依リ管海官廳ノ承認ヲ受ケタル者ノ名ヲ以テシ且其ノ申告書ニハ承認書ノ番號ヲ附記スヘシ

第三條　輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物品ハ稅關ノ承認シタル場所ニ之ヲ藏置シ他ノ物品ト混淆セシメサルコトヲ要ス

前項ノ物品ヲ使用セムトスルトキハ稅關官吏ノ承認ヲ受クヘシ

第四條　大正十年勅令第二百三十九號第六條但書ノ規定ニ依リ輸入免許ノ取消又ハ輸入稅ノ追徵ヲ爲ササル場合左ノ如シ

一　承認ヲ受ケタル物品ヲ他ノ承認ヲ受ケタル用途ニ使用スル爲メ稅關長ノ認許ヲ受ケタルトキ

二　承認ヲ受ケタル竣工期限ノ延長ニ付稅關長ノ認許ヲ受ケタルトキ

三　一定期間內ニ特定セサル船舶修繕ニ使用スヘキ物品ヲ次期ニ繰越使用スル爲メ稅關長ノ認許ヲ受ケタルトキ

前項各號ノ認許ヲ受ケムトスル者ハ豫メ當該物品ノ名稱數量及同勅令第二條ニ依ル承認書ノ番號ヲ記シタル文書ヲ以テ稅關ニ申告スヘシ

第五條　大正十年勅令第二百三十九號第二條ニ規定スル者ハ工場每ニ帳簿ヲ備ヘ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物品ニ付左記事項ヲ記載スヘシ

一　工場ニ搬入シ又ハ工場ヨリ搬出シタル物品ノ種類、數量、輸入手數ヲ爲シタル稅關、輸入免狀番號、搬出入ノ年月日及搬出先

二　使用シタル物品ノ種類、數量、用途及之ヲ使用シタル船舶ノ製造番號又ハ船舶名竝右ニ關スル承認書ノ種類及番號

三　建造又ハ修繕シタル船舶ノ製造番號又ハ船舶名、其ノ起工又ハ著手及竣工ノ年月日、國籍、所有者、種類資格、總噸數竝機關ノ種類及箇數但シ海軍艦船ニ付テハ總噸數竝機關ノ種類及箇數ヲ除ク

附　則

本令ハ大正十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正十五年大藏省令第十九號）

本令ハ大正十五年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ管海官廳ノ承認ヲ受ケタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

大正十年勅令第二百三十九號第一條第四號ニ依ル物品認許ノ件

（大正十年遞信省令第三十六號）

改正　大正十三年遞信省令第二十四號

第一條　大正十年勅令第二百三十九號第一條第四號ニ定ムル遞信大臣ノ認許ヲ得ムトスル者ハ本令ニ依リ認許申請ヲ爲スヘシ

第二條　認許申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

甲　船舶ノ建造ニ使用セムトスル場合

一　申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所所在地

二　認許ヲ得ムトスル物品ノ種類及箇數

三　右物品カ新規發明品又ハ本邦ニ於テ製作困難ナル特殊品タルノ理由

四　右物品ヲ使用シテ建造セムトスル船舶ノ製造番號

五　工場ノ名稱及位置

乙　船舶ノ修繕ニ使用セムトスル場合

一　申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所所在地

二　認許ヲ得ムトスル物品ノ種類及箇數

三　右物品カ新規發明品又ハ本邦ニ於テ製作困難ナル特殊品タルノ理由

四　工場ノ名稱及位置

第三條　遞信大臣ハ認許申請ノ當否ニ基キ之ヲ認許シ又ハ認許セサリシトキハ其ノ旨申請者ニ通知スヘシ

第四條　認許ハ其ノ通知後三月內ニ申請者カ認許ヲ得タル物品ニ關シ船舶建造及修繕用物品承認規則又ハ海軍艦船建造及修繕用物品承認規則ニ依リ承認申請又ハ承認更正申請ヲ爲ササルトキ其ノ效力ヲ失フ但シ正當ナル理由アルトキハ申請者ノ請求ニ因リ其ノ期間ヲ延長スルコトアルヘシ

第五條　申請者カ認許ヲ得タル物品ニ關シ申請書ニ記載シ

タル用途、船舶又ハ工場ヲ變更シテ前條ノ承認申請又ハ承認更正申請ヲ爲サムトスルトキハ豫メ其ノ旨遞信大臣ニ屆出ツヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（本令ハ大正十年七月二十日公布）

大正十年勅令第二百三十九號第三條ニ依ル手數料

（昭和九年五月大藏省令第十八號）

大正十年勅令第二百二十九條第三條ニ依ル手數料ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ納付スベシ但シ赴任旅費ヲ要スルトキハ別ニ其ノ實費ヲ加フ

派出スル稅關官吏一人ニ付

一　事務官補、監視又ハ鑑査官補　一月迄每ニ　八十圓

二　監吏　一月迄每ニ　六十五圓

前項各號ノ稅關官吏大正十年大藏省令第八號交通至難ノ場所在勤者月手當給與細則別表ノ地域ニ派出スルトキノ手數料ハ前項各號ノ手數料ニ同細則ニ依リ支給スル月手當額ヲ加ヘタルモノトス

手數料ハ之ヲ前納スベシ但シ最初ノ一ヶ月分ハ稅關ガ派出ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ十日以內ニ之ヲ納付スベシ

手數料納付後稅關官吏派出ノ必要ナキニ至リタルトキハ其ノ派出セザル月分ニ限リ之ヲ還付ス

附　則

本令ハ昭和九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年大藏省令第二十八號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

海軍艦船建造及修繕用物品承認規則

（大正十五年六月海軍省令第九號）

改正　昭和十四年海軍省令第九號

第一條　海軍工作廳ニ非サル場所ニ於テ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ヲナス者大正十年勅令第二百三十九號ニ依リ海軍官憲ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ承認申請書ヲ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ

前項ノ承認申請ニ基キ承認ヲ受ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ承認更正申請書ヲ、承認ヲ受ケタル物品ヲ使用スル艦船ノ建造又ハ修繕ヲ竣リタルトキハ遲滯ナク竣工承認申請書ヲ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ

第二條　前條ノ申請書ハ艦船ノ建造又ハ修繕ヲナス工場所在地ニ在ル造船監督官ヲ經由スルコトヲ要ス

第三條　海軍艦船建造用物品承認申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所ノ所在地

二　工場ノ名稱及位置

三　艦船ノ製造番號、名稱又ハ假稱呼、種類（軍艦又ハ雜役船ニ區分）

四　輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル物品ノ種類及數量

五　起工期日及竣工期日

第四條　海軍艦船修繕用物品承認申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所ノ所在地

二　工場ノ名稱、位置及修繕ヲナスヘキ場所

三　艦船ノ名稱及種類（軍艦又ハ雜役船ニ區分）

四　輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスルモノノ種類及數量

五　修繕ノ著手期日及竣工期日

第五條　海軍艦船ノ建造竣工承認申請書及修繕竣工承認申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所ノ所在地

二　工場ノ名稱及位置

三　艦船ノ製造番號及名稱

四　艦船ノ建造又ハ修繕ノタメニ使用シタル物品ニシテ輸入稅ノ免除ヲ受ケタルモノノ種類及數量

五　竣工ノ年月日

第六條　承認申請書及承認更正申請書ニ物品ノ種類及數量ヲ記載スルニ當リテハ(一)船體用鐵鋼材(二)機關用鐵鋼材(三)艤裝品用鐵鋼材(四)機關、機關部分品、艤裝品及艤裝品部分品ニ四類別シ(一)(二)(三)ニ付テハ更ニ(イ)塊(ロ)片(ハ)條及竿(ニ)板、(ホ)筒及管ノ五種類ニ分チ各合計重量ヲ明ニスヘシ

竣工承認申請書ニ鐵鋼材ノ種類及數量ヲ記載スルニ當リテハ前項ノ類別及種類ニ依ルノ外塊、片ニ付テハ各品名箇數、使用重量及用途ヲ、條及竿、板、筒及管ニ付テハ

各品名、形狀、寸法、箇數、使用重量及用途ヲ明ニスヘシ

第七條 承認申請書ハ二通トシ署名捺印スルコトヲ要ス

第八條 海軍艦政本部長又ハ造船監督官ハ何時ニテモ申請書又ハ屆書ニ記載シタル事項若ハ添附シタル書類及圖面ノ補正ヲ命シ又ハ關係書類及圖面ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第九條 海軍艦船ノ建造又ハ修繕用物品ノ承認ヲ受ケタル者當該鐵鋼材ヲ輸入シタルトキハ其ノ都度第六條第二項ノ規定ニ準シ其ノ種類及數量ヲ記載シタル屆書ヲ遲滯ナク所在造船監督官ニ提出スヘシ其ノ記載シタル事項ニ付變更アリタルトキ亦同シ

第十條 海軍艦政本部長ハ申請書ヲ調査シ承認ヲナスヘキモノト認ムルトキハ申請書一通ノ末尾ニ承認ノ旨番號及年月日ヲ記入シ官印ヲ押捺シテ申請者ニ之ヲ交付スヘシ

附　則

本令ハ大正十五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

製鐵事業法（拔萃）

（昭和十二年八月法律第六十八號）

改正　昭和十五年法律第五十八號

第十四條 帝國內ニ於テ製造シタル鋼材ガ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セヲレタル場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ鋼材ノ製造者ニ對シ奬勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十五條 詐欺ノ行爲ヲ以テ前條ノ奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ヲ返還セシム

前項ノ規定ニ依ル返還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

製鐵事業法施行令（拔萃）

（昭和十二年九月勅令第五百七號）

改正　昭和十五年勅令第百六十四號

第十五條 製鐵事業法第十四條ノ奬勵金ハ左ニ揭グル鋼材ニシテ本令施行後ノ製造ニ係リ其ノ製造者又ハ其ノ製造者ヨリ之ヲ讓受ケタル者ガ鐵鋼船ノ建造又ハ修繕ニ使用シタルモノニ付之ヲ交付ス但シ國ノ工場ニ於テ製造セラレタル鋼材ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　鋼塊及鋼片（鍛造用ノモノ）

二　條及竿（丁形、山形等ノ形狀ヲ有スルモノ及タービンブレーデイングヲ含ム）

三　板

四　筒及管（鑄タルモノヲ除ク）

前項第一號ニ揭クル鋼材ヲ其ノ製造者カ加工シテ讓渡シタルトキハ其ノ素材タル鋼材ニ付奬勵金ヲ交付ス

第十六條 前條ノ奬勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ其ノ者ガ鋼材ヲ鐵鋼船ノ建造又ハ修繕ニ使用セントスル場合ニ在リテハ其ノ使用ノ前、其ノ他ノ場合ニ在リテハ鋼材引渡ノ前ニ其ノ鋼材ノ種類、數量、用途、製造時期及製造工場ヲ記載シタル屆書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

前項ノ屆書ニハ其ノ鋼材ガ海軍艦船以外ノ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラルル場合ニ於テハ造船者又ハ船舶修繕者ガ商工大臣ノ定ムル事項ニ付管海官廳ノ承認ヲ受ケタルコトヲ證スル書面ヲ添付スベシ

第一項ノ屆書ニ記載シタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ事項ニ付遲滯ナク商工大臣ニ屆出ヅベシ

第二項ノ管海官廳ノ承認ヲ受ケタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ事項ニ付造船者又ハ船舶修繕者ガ管海官廳ノ承認ヲ受ケタルコトヲ證スル書面ヲ添附シ遲滯ナク商工大臣ニ屆出ヅベシ

第十七條 第十五條ノ奬勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ前條ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲シタル鋼材ガ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタルトキハ海軍官憲ノ鋼材使用證明書ヲ添附シ、其ノ他ノ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セヲレタルトキハ鋼材使用說明書及造船者又ハ船舶修繕者ガ受ケタル管海官廳ノ竣工承認書ヲ添附シ奬勵金交付申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

第十八條 第十五條ノ奬勵金ノ金額ハ左ノ區別ニ依ル

一 鋼塊及鋼片 其ノ價額ノ一割五分以内

二 條及竿 一瓲ニ付二十四圓六十六錢以内

三 板

甲 厚サ三粍ヲ超エザルモノ 一瓲ニ付三十一圓五十錢以内

乙 其ノ他 一瓲ニ付二十四圓六十六錢以内

四 筒及管

甲 内經百五拾粍ヲ超エザルモノ 其ノ價額ノ一割八分以内

乙 其ノ他 其ノ價額ノ一割五分以内

五 關稅定率法別表輸入稅表第四六二號ノ二特殊鋼ニ該當スルモノ 其ノ價額ノ一割八分以内

前項第一號、第四號及第五號ノ價額ハ第十六條第一項ノ使用又ハ引渡ノ時ニ於ケル其ノ鋼材ト同種ノ鋼材ノ輸入ノ際ニ於ケル到著價格ヲ標準トシテ商工大臣之ヲ定ム

第二十三條 商工大臣必要アリト認ムルトキハ所得稅又ハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ノ免除ヲ受ケントスル者ニ對シ製鐵事業ニ關スル書類又ハ製鐵原料若ハ製品ノ試料ノ提出ヲ命ジ又ハ當該官吏ヲシテ製鐵事業ニ關スル設備帳簿其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得輸入稅ノ免除ヲ受ケ又ハ受ケントスル者ニ對シ亦同ジ

商工大臣必要アリト認ムルトキハ奬勵金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケントスル者ニ對シ前項ノ書類又ハ試料ノ提出ヲ命ジ、當該官吏ヲシテ前號ノ檢査ヲ爲サシメ其ノ他必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

製鐵事業法施行規則（拔萃）

（昭和十二年九月 商工省令第二十號）

改正 昭和十五年六月 商工省令第四十四號

第八條 製鐵事業法施行令第十六條第一項ノ屆出ヲ爲シタル者其ノ屆書ニ記載シタル鋼材ヲ引渡シタルトキハ遲滯ナク引取人ト連署ノ上其ノ種類、數量、用途、製造時期製造工場及引渡時期ヲ商工大臣ニ屆出ヅベシ

第九條 製鐵事業法施行令第十六條第二項ノ管海官廳ノ承認ヲ受クベキ事項ハ左ニ揭グルモノトス

甲 船舶建造ノ場合

一 造船者ノ商號又ハ氏名名稱及本店又ハ主タル事務所ノ所在地

二 工場ノ名稱及位置

三 船舶ノ製造番號

四 船舶ノ建造ニ使用スベキ鋼材ニシテ奬勵金ノ交付ヲ受クベキモノノ種類及數量

五 起工及竣工ノ年月日

乙 船舶修繕ノ場合

一 船舶修繕者ノ商號又ハ氏名名稱及本店又ハ主タル事務所ノ所在地

二 工場ノ名稱及位置

三 特定ノ船舶ノ修繕ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ名稱、其ノ他ノ場合ニ在リテハ一年ヲ超エザル一定ノ期間

四 前號ノ船舶修繕ノ爲使用スベキ鋼材又ハ前號ノ期間内ニ船舶修繕ノ爲使用スベキ鋼材ニシテ奬勵金ノ交付ヲ受クベキモノノ種類及數量

第十條 製鐵事業法施行令第十七條ノ鋼材使用說明書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

一 鋼材ノ使用者及使用工場名

二 船舶ノ建造ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ製造番號、船舶ノ修繕ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ名稱

三 使用鋼材ノ種類、數量、用途、製造時期及製造工場名

四 鋼材ノ製造者カ鋼材ヲ使用シタル場合ニ在リテハ鋼材使用ノ時期、其ノ他ノ場合ニ在リテハ鋼材引渡ノ時期

第十一條 製鐵事業法第十一條ノ規定ニ依ル所得稅若クハ所得ニ對スル法人稅及營業稅ノ免除又ハ同法第十四條ノ奬勵金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケントスル者ハ原料及燃料ノ取得及消費、製品ノ製造及販賣又ハ引渡其ノ他作業ノ狀況ヲ明ニスベキ帳簿書類ヲ其ノ工場ニ備ヘ置クベシ

製鐵事業法ノ一部ヲ朝鮮ニ施行スルノ件

（昭和十二年九月 勅令第五百八號）

製鐵事業法ハ第六條乃至第十三條、第十六條、第二十五條第四十二條及第四十三條ノ規定ヲ除キ之ヲ朝鮮ニ施行ス

附則

本令ハ製鐵事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船舶ノ建造又ハ修繕ノ爲使用スヘキ物品ノ承認ニ關スル件

（大正十五年六月朝鮮總督府令第五十七號）

船舶ノ建造又ハ修繕ノ爲使用スヘキ物品ノ承認ニ關シテハ大正十五年遞信省令第十五號船舶建造及修繕用物品承認規則ニ依ル

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船舶建造及修繕用物品承認規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行前爲シタル船舶建造用物品承認申請ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前爲シタル船舶修繕用物品承認申請ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

關稅定率法第十條施行ニ關スル件

（大正十五年四月朝鮮總督府令第三十七號）

改正　昭和十四年朝鮮總督府令第百五十號

第一條　大正十年勅令第二百三十九號第二條ノ規定ニ依リ管海官廳ノ承認ヲ受クヘキ事項左ノ如シ

甲　船舶ノ建造ヲ爲サムトスル場合

一　建造セムトスル船舶ニ使用スヘキ物品ノ種類及數量

二　前號ノ物品中輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスルモノノ種類及數量

三　工場ノ名稱及位置

四　起工日及竣工期限

乙　船舶ノ修繕ヲ爲サムトスル場合

一　各工場ニ於テ一定期間內ニ修繕ノ爲使用スヘキ物品ノ種類及數量

二　前號ノ物品中輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスルモノノ種類及數量

三　工場ノ名稱及位置

第二條　輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル物品ノ輸入申告ハ前條ノ承認ヲ受ケタル者ノ名ヲ以テシ其ノ申告書ニハ承認書ノ番號ヲ附記スヘシ

第三條　前條ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物品ハ稅關ノ承認シタル場所ニ之ヲ藏置シ他ノ物品ト混淆セシメサルコトヲ要ス

前項ノ物品ヲ使用セムトスルトキハ稅關官吏ノ承認ヲ受クヘシ

第四條　大正十年勅令第二百三十九號第六條但書ノ規定ニ依リ輸入免許ノ取消又ハ輸入稅ノ追徵ヲ爲ササル場合左ノ如シ

一　承認ヲ受ケタル物品ヲ他ノ承認ヲ受ケタル用途ニ使用スル爲稅關長ノ認許ヲ受ケタルトキ

二　承認ヲ受ケタル竣工期限ノ延長ニ付稅關長ノ認許ヲ受ケタルトキ

三　修繕ニ使用スヘキ物品ヲ次期ニ繰越使用スル爲稅關長ノ認許ヲ受ケタルトキ

前項各號ノ認許ヲ受ケムトスル者ハ當該物品ノ名稱、數量及前ニ承認ヲ受ケタル事項ノ變更ニ關スル承認更正書ノ番號ヲ記シタル文書ヲ以テ稅關ニ申請スヘシ

第五條　大正十年勅令第二百三十九號第二條ニ規定スル者ハ工場毎ニ帳簿ヲ備ヘ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物品ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　工場ニ搬入シ又ハ工場ヨリ搬出シタル物品ノ種類、數量、輸入手數ヲ爲シタル稅關搬出入ノ年月日及搬出先

二　使用シタル物品ノ種類、數量、用途及之ヲ使用シタル船舶名

三　建造又ハ修繕シタル船舶名、其ノ竣工年月日、國籍所有者及總噸數

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年勅令第二百三十九號第一條第四號ニ依ル物品認許ニ關スル件

（大正十年九月朝鮮總督府令第百三十五號）

第一條 大正十年勅令第二百三十九號第一條第四號ノ規定ニ依リ朝鮮總督ノ認許ヲ得ムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シタル申請書ヲ船舶ノ建造又ハ修繕ヲ爲ス工場ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由シテ提出スヘシ

一 申請者ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ事務所所在地

二 認許ヲ得ムトスル物品ノ種類及箇數

三 前號ノ物品カ新規發明品又ハ本邦ニ於テ製作困難ナル特殊ノ物品タルノ理由

四 第二號ノ物品ノ用途

五 工場ノ名稱及位置

尙船舶ノ建造ニ使用セムトスル場合ハ前各號ノ外前項第二號ノ物品ヲ使用シテ建造セムトスル船舶ノ製造番號ヲ記載スヘシ

第二條 認許ヲ得タル後三月內ニ申請者カ認許ヲ得タル物品ニ關シ船舶建造及修繕用物品承認規則ニ依リ承認申請又ハ承認更正申請ヲ爲ササルトキハ認許ハ其ノ効力ヲ失フ但シ正當ノ理由アルトキハ申請者ノ請求ニ因リ其ノ期間ヲ延長スルコトアルヘシ

第三條 申請者カ認許ヲ得タル物品ニ關シ第一條ノ申請書ニ記載シタル用途船舶又ハ工場ヲ變更シテ前條ノ承認申請又ハ承認更正申請ヲ爲サムトスルトキハ豫メ其ノ旨朝鮮總督ニ屆出ツヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

製鐵事業法施行規則（拔萃）

（昭和十二年九月朝鮮總督府令第百四十五號）

改正 昭和十三年朝鮮總督府令第九號

第五條 製鐵事業法施行令第十六條一項ノ屆出ヲ爲シタル者其ノ鋼材ヲ引渡シタルトキハ遲滯ナク鋼材ノ種類、數量、用途、製造時期、製造工場及引渡時期ヲ記載シタル屆書ニ引取人ト連署ノ上之ヲ朝鮮總督ニ提出スベシ

第六條 製鐵事業法施行令第十六條第二項ノ管海官廳ノ承認ヲ受クベキ事項左ノ如シ

甲 船舶建造ノ場合

一 造船者ノ商號又ハ氏名名稱及本店又ハ主タル事務所ノ所在地

二 工場ノ名稱及位置

三 船舶ノ製造番號

四 船舶ノ建造ニ使用スベキ鋼材ニシテ奬勵金ノ交付ヲ受クベキモノノ種類及數量

五 起工及竣工ノ年月日

乙 船舶修繕ノ場合

一 船舶修繕者ノ商號又ハ氏名名稱及本店又ハ主タル事務所ノ所在地

二 工場ノ名稱及位置

三 特定ノ船舶ノ修繕ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ名稱、其ノ他ノ場合ニ在リテハ一年ヲ超エザル一定ノ期間

四 前號ノ船舶修繕ノ爲使用スベキ鋼材又ハ前號ノ期間內ニ船舶修繕ノ爲使用スベキ鋼材ニシテ奬勵金ノ交付ヲ受クベキモノノ種類及數量

第七條 製鐵事業法施行令第十七條ノ鋼材使用說明書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スベシ

一 鋼材ノ使用者及使用工場名

二 船舶ノ建造ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ製造番號船舶ノ修繕ノ場合ニ在リテハ其ノ船舶ノ名稱

三 使用鋼材ノ種類、數量、用途、製造時期及製造工場名

四 鋼材ノ製造者カ鋼材ヲ使用シタル場合ニ在リテハ鋼材使用ノ時期其ノ他ノ場合ニ在リテハ鋼材引渡ノ時期

第八條 製鐵事業法第十四條ノ奬勵金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケントスル者ハ原料及燃料ノ取得及消費、製品ノ製造及販賣又ハ引渡シ其ノ他作業ノ狀況ヲ明ニスベキ帳簿書類ヲ其ノ工場ニ備ヘ置クベシ

大正十年勅令第二百三十九號ノ施行ニ關スル件

（昭和二年二月 臺灣總督府令第八號）

大正十年勅令第二百三十九號ノ施行ニ關シテハ大正十年遞信省令第三十六號及大正十五年遞信省令第十五號船舶建造及修繕用物品承認規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年府令第百二十一號ハ之ヲ廢止ス

第五輯　航　海

第一章　海上衝突豫防其ノ他航行取締

海上衝突豫防法

（明治二十五年六月 法律第五號）

改正　大正十四年三月 法律第三十八號

總　則

本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所トヲ問ハズ凡ソ航洋船ノ運航シ得ベキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス

本法中汽船ト雖帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用ヰザルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用ウルトキハ帆ヲ用ウルト用ヰザルトノ別ナク汽船ト看做スベシ

本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ

本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ坐礁、膠沙ニ非ザル場合ヲ謂フ

船　燈

本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ

第一條　船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セズ日沒ヨリ日出マデ必ズ遵守スベシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ揭グベカラズ

第二條　汽船ハ航行中必ズ左ノ燈ヲ揭グベシ

一　前檣若ハ其ノ前面ニ於テ又ハ前檣ヲ具ヘザルトキハ本船ノ前方ニ於テ船體上二十尺ヨリ低カラザル所ニ若船幅二十尺ヲ超ユルトキハ其ノ船幅ヨリ低カラザル所ニ亮明ノ白燈一箇ヲ揭グベシ然レドモ船體上四十尺以上ノ所ニ揭グルヲ要セズ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍔盤ノ二十點間ヲ照スベク製造シ其ノ射光ヲ左右舷外へ十點間ヅツ即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二點

マデ及ブベキ樣裝置シ且少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ベキモノヲ用ウベシ

二、右舷ニ綠燈ヲ揭グベシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍼盤ノ十點間ヲ照スベク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二點マデ及ブベキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキモノヲ用ウベシ

三、左舷ニ紅燈ヲ揭グベシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍼盤ノ十點間ヲ照スベク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二點マデ及ブベキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキモノヲ用ウベシ

四、本條第二項第三項ノ舷燈ニハ其ノ燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其ノ燈ノ內側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨリ、左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得ザル樣ニ爲スベシ

五、汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ增揭スルヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ兩燈ヲ龍骨線上前後ニ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ揭ゲ其ノ前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨリモ多キヲ要ス

第三條 汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ揭グルノ外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連揭スベシ此ノ白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ揭グルヲ要ス然レドモ二艘以上ヲ引キテ航行スルトキハ其ノ引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カルヽ船ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二箇ノ白燈ヨリ上方若ハ下方六尺ノ所ニ尙同種ノ白燈一箇ヲ增揭スベシ

本條ノ引船ハ引カルヽ船舶ノ操舵目標トシテ烟突若ハ後檣ノ後面ヘ小形ノ白燈一箇ヲ揭グルヲ得但シ此ノ白燈ハ本船正横ヨリ前面ニ見得ザル樣ニ爲スヲ要ス

第四條 事變ノ爲運轉自由ヲ得ザル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於テ最モ見得易キ所ニ（汽船ナレバ其ノ白燈ノ代リニ）二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連揭スベシ此ノ紅燈ハ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキモノタルヲ要ス又書間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黑色ノ形象二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連揭スベシ

海底電信船ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ（汽船ナレバ其ノ白燈ノ代リニ）三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヅヽヲ隔テ連揭スベシ但シ此ノ燈三箇ノ內上下ノ二箇ハ紅色中央ノ一箇ハ白色ニシテ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキモノタルヲ要ス又書間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヅヽヲ隔テ連揭シ其ノ上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用ヰ中央ノ一箇ハ白色竪菱形ヲ用ウベシ

本條ノ船舶全ク運行セザルトキハ舷燈ヲ揭グベカラズ然レドモ運行スルトキハ必ズ之ヲ揭グベシ

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得ズシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハザルノ信號ト認ムベシ

本條ノ信號ハ難船信號ト混同スベカラズ難船信號ハ第三十一條ニ於テ之ヲ規定ス

第五條 航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項第三項ノ舷燈ノミヲ揭グベシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ揭グベカラズ

第六條 小形船航行中天氣ノ模樣ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ揭置キ難キトキハ何時ニテモ使用シ得ベキ樣點火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防グニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ舷燈ヲ他船ヨリ最モ見得易キ樣各舷ニ表示スベシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ、紅光ハ右舷ヨリ見得ズ且成ルベク各舷正横後ノ二點ヨリ後方ヘ見得ザル樣ニ爲スヲ要ス

此ノ綠紅ノ各燈ヲ間違ヒナク容易ニ取扱フ爲綠燈ハ綠色紅燈ハ紅色ニテ外面ヲ塗リ且適當ノ隔板ヲ備置クベシ

第七條 總積量四十噸未滿ノ汽船總積量二十噸未滿ノ帆船及櫓櫂ヲ以テ運轉スル船航行中ハ必ズシモ第二條第一項第二項第三項ニ規定シタル燈ヲ揭グルヲ要セズ然レドモ若之ヲ揭ゲザルトキハ必ズ左ノ規定ニ依ルベシ

一　四十噸未滿ノ汽船

甲　船ノ前部又ハ烟突若ハ其前面ニ於テ舷緣上九尺ヨリ低カラズ且最モ見得易キ所ニ第二條第一項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ揭グベシ

乙　第二條第二項第三項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ベキ綠紅ノ二舷燈ヲ揭グルカ又ハ船首ヨリ各舷正横後ノ二點マデ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スベク製造シタル兩色燈一箇ヲ揭グベシ但シ此ノ燈ハ白燈ヨリ少クモ三尺下方ニ揭グルヲ要ス

二　汽艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷緣上九尺ノ所ヨリ下方ニ

揭グルヲ得然レドモ其ノ白燈ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キヲ要ス

三　二十噸未滿ノ帆船ハ帆ヲ用ウルト櫓櫂ヲ用ウルトニ拘ハラズ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヰタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防グニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スベシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得ザル樣ニ爲スヲ要ス

四　櫓櫂ヲ以テ運轉スル船ハ櫓櫂ヲ用ウルト帆ヲ用ウルトニ拘ハラズ白色ノ燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ衝突ヲ防グニ充分ナル時間ヲ見定メテ臨時之ヲ表示スベシ

本條ノ諸船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ揭グルニ及バズ

第八條　水先船水先業務ノ爲メ其營業所ニ在ル時ハ他船ニ要スル燈ヲ表示セズ周回ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ檣頭ニ揭ゲ且十五分時ヲ超エザル短時ノ間隙ヲ以テ閃火一箇若ハ數箇ヲ發スベシ

水先船ニハ點火シタル舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ短時ノ間隙ヲ以テ之ヲ表示スベシ

但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得ザル樣ニ爲スヲ要ス

水先人ヲ要招スル船舶ハ直付ケスベキ水先船ハ白燈ヲ檣頭ニ揭グル代リニ隨時之ヲ表示シ又前項ノ舷燈ノ代リニ一面ハ綠色、一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヰタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ前項ノ規定ニ依リ之ヲ使用スルヲ得

免許水先人ノ業務ニ專用スル水先汽船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアリテ碇泊セザルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ檣燈ノ下方八尺ノ所ニ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキ紅燈一箇ヲ增揭シ且航行中ノ船舶ニ要スル舷燈ヲ揭グベシ

前項ノ水先汽船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアリテ碇泊スルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ前項ノ規定ニ依リ紅燈ヲ增揭スベシ但シ舷燈ヲ揭グベカラズ

水先船其ノ營業所ニアルモ水先業務ニ從事セザルトキハ其ノ積量ニ相當スル他船ト同樣ノ燈ヲ揭グベシ

第九條　漁船ハ航行中特ニ本條ニ規定アル場合ヲ除ク外其ノ積量ニ相當スル航行中ノ船舶ニ對シテ規定シタル燈ヲ揭グルカ又ハ之ヲ表示スベシ

一　無甲板即チ全部張詰メタル甲板ニ因リテ海水ノ浸入ヲ防ガザル船夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出スル漁具ノ端ト本船トノ水平上ノ距離ガ百五十尺以內ナルトキハ周回ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ揭グベシ

無甲板船夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出スル漁具ノ端ト本船トノ水平上ノ距離ガ百五十尺ヲ超ユルトキハ周回ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ揭ゲ且我船ノ他船ニ近寄リ行クトキ又ハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルトキハ其ノ白燈ノ下方ニ少クモ三尺ヲ隔テ且漁具ノ結著シタル方向ニ於テ水平上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一箇ヲ增表スベシ

二　第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外流シ網ヲ用ヰテ漁業ニ從業スル船舶ハ網ノ全部又ハ一部水中ニ投下シアル間ハ最モ見得易キ所ニ白燈二箇ヲ揭グベシ此ノ兩燈ハ上下ノ距離六尺ヨリ少カラズ十五尺ヨリ多カラズ且龍骨線ニテ測リタル前後ノ距離五尺ヨリ少カラズ十尺ヨリ多カラザル樣其ノ一燈ヲ他燈ノ下方ニ裝置シ其ノ下燈ハ網ノ方向ニ揭グベシ此ノ兩燈ハ周回少クモ三海里ノ距離ヨリ見得ベキモノタルヲ要ス

總積量二十噸未滿ノ帆走漁船ハ地中海及日本國竝韓國ノ沿海ニ於テハ必シモ兩燈中其ノ下燈ヲ揭グルヲ要セズ然レドモ之ヲ揭ゲザルトキハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ同一ノ位置（網又ハ漁具ノ方向ニ於テ）ニ表示スベシ

三　第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外延繩ヲ用ヰテ漁業ニ從事スルニ當リ延繩ヲ結著シ又ハ之ヲ曳入ルル船舶ニシテ碇泊セズ又ハ第八ニ依リ停留セザルモノハ流シ網ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ト同一ノ燈ヲ揭グベシ其ノ延繩ヲ延ベ又ハ曳繩ヲ用ウルモノハ其ノ船ノ種類ニ應ジ航行中ノ汽船又ハ帆船ニ對シテ規定シタル燈ヲ揭グベシ

總積量二十噸未滿ノ帆走漁船ハ地中海及日本國竝韓國ノ沿海ニ於テハ必シモ兩燈中其ノ下燈ヲ揭グルヲ要セズ然レドモ之ヲ揭ゲザルトキハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ同一ノ位置（釣繩ノ方向ニ於テ）ニ表示スベシ

四　打タセ網（總テ海底ニ漁具ヲ曳クモノヲ包含ス）ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ハ左ノ規定ニ依ルベシ

甲　汽船ハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ三色ノ燈籠一箇ヲ掲ゲ尚其ノ下方六尺ヨリ少カラズ十二尺ヨリ多カラザル所ニ白色ノ燈籠一箇ヲ增掲スベシ此ノ三色燈ハ船ノ正首ヨリ左右各二點マデハ白色其レヨリ各舷正横後ノ二點マデ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スベク製造シ且裝置スルヲ要シ又白燈ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スベク製造シタルモノヲ要ス

乙　帆船ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スベク製造シタル白色ノ燈籠一箇ヲ掲ゲ且他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防グニ充分ナル時間ヲ見定メ最モ見得易キ所ニ白色ノ閃火又ハ炬火一箇ヲ表示スベシ

甲及ビ乙ニ規定シタル諸燈ハ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキモノタルヲ要ス

五　桁網ヲ用ヰテ牡蠣採取ニ從事スル船舶其ノ他桁網ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ハ打タセ網ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ト同一ノ燈ヲ掲ゲ及之ヲ表示スベシ

六　漁船ハ本條ニ規定シタル燈ヲ掲ゲ及之ヲ表示スル外何時ニテモ閃火ヲ用ヰ且漁業用ノ燈火ヲ用ウルヲ得

七　長サ百五十尺未滿ノ漁船碇泊中ハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ掲グベシ

長サ百五十尺以上ノ漁船碇泊中ハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ベキ白燈一箇ヲ掲ゲ且第十一條ニ規定シタル白燈一箇ヲ增掲スベシ

長サ百五十尺未滿ナルト百五十尺以上ナルトヲ問ハズ碇泊中ノ漁船漁網其ノ他ノ漁具ヲ結著シタルトキハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルトキ碇泊燈ノ下方少クモ三尺ヲ隔テ且漁網其ノ他ノ漁具ノ方向ニ於テ水平上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一箇ヲ增表スベシ

八　漁船漁業ニ從事中漁具ノ岩礁其ノ他障碍物ニ纏著シタル爲メ停留スルトキハ晝間ニアリテハ第十二規定スル晝間信號ヲ引下シ夜間ニアリテハ碇泊船ト同一ノ燈ヲ表示シ又霧中降雪其ノ他暴雨中ハ碇泊船ニ對シテ規定シタル霧中信號ヲ爲スベシ（第十五條第四項及末項參照）

九　霧中降雪其ノ他暴雨中流シ網打タセ網桁網又ハ延繩ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル總積量二十噸以上ノ船舶ハ汽船ニアリテハ汽笛若ハ汽角帆船ニアリテハ號角ヲ用ヰ一分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ一聲ヲ發シ之ニ續キテ號鐘ヲ鳴ラスベシ總積量二十噸未滿ノ漁船ハ必シモ此ノ信號ヲ爲スヲ要セズ然レドモ之ヲ爲サザルトキハ一分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ適宜他ノ有效ナル音響信號ヲ爲スベシ

十　網延繩又ハ打タセ網ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶航行中晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ籃其ノ他ノ信號ヲ掲ゲ近寄リ來ル他船ニ其ノ漁業中ナルコトヲ表示スベシ若シ碇泊中ノ船舶漁具ヲ投下セルトキハ他船ノ近寄リ來リタルトキ同樣ノ信號ヲ他船ノ航過シ得ル舷側ニ於テ表示スベシ

本條ニ依リ特ニ規定シタル燈ヲ掲ゲ又之ヲ表示スルヲ要スル船舶ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲グルニ及バズ

第十條　他船ニ追越サレムトスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スベシ

本條ニ從テ表示スベキ白燈ハ豫メ船尾ニ掲置クヲ得然レドモ此ノ燈ハ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ベキモノニシテ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ鍼盤ノ十二點間ヲ照スベク製造シ船ノ正後ヨリ左右ヘ六點間宛射光ノ及ブベキ樣隔板ヲ裝置シ成ルベク舷燈ト同一ノ高サニ掲グベシ

第十一條　長サ百五十尺未滿ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上ヨリ二十尺ヲ越エザル所ニ白燈一箇ヲ掲グベシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ベキモノタルヲ要ス

長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上二十尺以上四十尺以下ノ所ニ前項ノ白燈一箇ヲ掲ゲ且船尾若ハ其ノ最寄ニ於テ前方ノ燈ヨリ小クモ十五尺下方ニ同種ノ白燈一箇ヲ掲グベシ

本條船舶ノ長サハ本船船籍證書面ノ長サニ依ルベシ

航路若ハ其ノ最寄ニ於テ乘揚ゲタル船舶ハ本條白燈ノ外尚第四條第一項ニ規定シタル紅燈二箇ヲ掲グベシ

第十二條　各船他船ノ注意ヲ喚起スル爲必要ナリトスルトキハ本法ニ規定シタル船燈ノ外尚閃火ヲ發シ或ハ難船信號ト混同セザル爆裂信號ヲ發スルヲ得

第十三條　本法船燈ノ規定ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラルヽ船舶ニ增掲スル列位燈及信號燈ニ關シ各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ノ施行ヲ妨ゲズ又船舶所有主ニ於テ其ノ國政府ノ許可ヲ受ケ登簿公告ノ手續ヲ經テ私用スル識別信號ノ使用ヲ妨ゲズ

第十四條　汽船晝間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其ノ烟突ヲ

引下ゲザルトキハ前方ノ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黑色形象一箇ヲ掲グベシ

霧中信號

第十五條 航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用ウベシ

汽船ハ汽笛若ハ汽角

帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ霧中號角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ

汽船ハ汽力其ノ他之ニ代用スベキモノニ因リ發聲スル適當ノ汽笛若ハ汽角ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ裝置シ且號鐘及機關ノ作用ニ因リ發聲スル適當ノ霧中號角ヲ備フベシ

又總積量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同樣ノ號鐘及霧中號角ヲ備フベシ

霧中降雪其ノ他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタル信號ヲ爲スベシ

一 汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ長聲ヲ一發スベシ

二 汽船航行中運轉ヲ止メテ速力ヲ有タザルトキハ二分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發スベシ但シ其ノ二發ノ間隙ハ大約一秒時タルヲ要ス

三 帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ右舷開ナレバ一聲ヲ發シ左舷開ナレバ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スベシ

四 船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ大約五秒時間劇シク號鐘ヲ鳴ラスベシ

五 他船ヲ引キテ運航スル船舶、海底電信線ノ布設若ハ引揚ニ從事スル船舶及航行中運轉自由ヲ得ズシテ近寄リ來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハザルカ又ハ本法ニ遵テ運轉シ能ハザル船舶ハ本條第一項及第三項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ三聲ヲ連發シ即チ長聲ヲ發シタル後直ニ短聲ヲ二發スベシ又他船ニ引カレテ運航スル船舶モ此ノ信號ヲ爲スハ妨ナシト雖他ノ信號ヲ爲スベカラズ

總積量二十噸未滿ノ帆船ハ必ズシモ前數項ニ規定シタル信號ヲ爲スヲ要セズ然レドモ其ノ信號ヲ爲サザルトキハ一分時ヨリ多カラザル間隙ヲ以テ適宜他ノ音響信號ヲ爲スベシ

霧中速力

第十六條 霧中降雪其ノ他暴雨中ハ各船現時ノ狀況ニ注意シ適度ノ速力ヲ以テ進行スベシ

汽船其ノ正横ヨリ前面ニ方リテ他船ノ霧中信號ヲ聞キ其ノ所在ヲ定メ得ザルトキハ成ルベク機關ノ運轉ヲ止メ全ク衝突ノ虞ナキニ至ルマデ其ノ運航ニ注意スベシ

航方

衝突ノ危險ハ其ノ現況ニヨリ我船ニ近寄リ來ル他船ノ方位ヲ看守シテ之ヲ豫知スルヲ得若其ノ方位慥ニ變更スルヲ認メザルトキハ危險アルモノト知ルベシ

第十七條 二艘ノ帆船互ニ近寄リテ衝突ノ虞アルトキハ其ノ一船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避クベシ

一 一杯ニ開カザル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クベシ

二 左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クベシ

三 一杯ニ開カザル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同ジカラザルトキハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クベシ

四 一杯ニ開カザル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同ジキトキハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クベシ

五 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クベシ

第十八條 二艘ノ汽船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキハ兩船トモ鉞路ヲ右舷ニ轉ジ互ニ他船ノ左舷ノ方ニ行過スベシ

本條ハ兩船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキニ限リ適用スベシ兩船各々其ノ鉞路ヲ保チテ互ニ替リ行クトキニハ適用スベカラズ

本條ヲ應用スベキ場合ハ兩船共ニ正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢ヒタルトキ即チ晝間アリテハ我船ノ檣ト他船ノ檣ト一直線又ハ幾ント一直線ニ見ユルトキ夜間ニアリテハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルトキニ限ルベシ

本條ハ晝間他船ノ我鉞路ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユルトキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見ズシテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ヲ見ズシテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用スベカラズ

第十九條 二艘ノ汽船互ニ航路ヲ横切ヲ衝突ノ虞アルトキハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クベシ

第二十條 帆船ト汽船ト互ニ近寄リ衝突ノ虞アルトキハ汽船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クベシ

第二十一條 本法航方ニ依リ二船ノ内一船ヨリ他船ノ航路

ヲ避クルトキハ他船ニ於テ其ノ鍼路及速力ヲ保ツベシ但シ他船ニ於テ天氣密濛又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ航路ヲ避クル船ノ處置ノミニテハ衝突ヲ避ケ能ハザル程兩船接近シタルコトヲ認ムルトキハ自ラ亦臨機衝突ヲ避クルニ至當ノ處置ヲ爲スベシ

第二十二條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クベキ船ハ成ルベク他船ノ前面ヲ横切ルベカラズ

第二十三條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クベキ汽船ハ他船ニ近寄リタルトキ時宜ニ應ジテ速力ヲ緩メ若ハ運轉ヲ止メ又ハ後退スベシ

第二十四條 總テ他船ヲ追越ス船ハ本法航方中前數條ノ規定ニ拘ハラズ他船ノ航路ヲ避クベシ總テ他船ノ兩舷正横後ノ二點以外即チ夜間ニアリテ舷燈ヲ見難キ位置ヨリ其ノ船ヲ追越サントスル船舶ハ之ヲ追越船ト爲シ其ノ後兩船ノ位置ニ變更ヲ來スモ其ノ追越船ヲ以テ本法ノ航路横切船ト爲サズ故ニ其ノ船ハ他船ヲ全ク追越シ了ルマデ他船ノ航路ヲ避クベキモノトス

晝間他船ヲ追越サムトスル船舶ニシテ前項ニ記載シタル方位ノ内外ヲ辨知シ難キモノハ本船ヲ追越船ト看做シテ他船ノ航路ヲ避クベシ

第二十五條 汽船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキハ其ノ中流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スベシ

第二十六條 航行中ノ帆船ハ網或ハ繩ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル帆船ノ航路ヲ避クベシ但シ漁船ト雖猥ニ他船ノ通航スベキ線路ヲ妨グベカラズ

第二十七條 本法ヲ履行スルニ當リ運航及衝突ニ關シ百般ノ危險ニ注意スルハ勿論若危險切迫シテ本法ヲ履行シ能ハザル特殊ノ場合ニ於テハ其ノ危險ヲ避クル爲臨機ノ處置ヲ爲スコトニ注意スベシ

航路信號

第二十八條 本條中短聲トハ大約一秒時間ノ發聲ヲ謂フ

航行中ノ汽船他船ニ近寄リ鍼路ヲ變セムトスルトキハ汽笛若ハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ノ鍼路ヲ通知スベシ

短聲一發　我船鍼路ヲ右舷ニ取ル
短聲二發　我船鍼路ヲ左舷ニ取ル
短聲三發　我船全速力ニテ後退ス

懈怠ノ責

第二十九條 本法ハ點燈、信號又ハ見張ノ怠リ其ノ他海員ノ常務又ハ臨機ノ處置ニ必要ナル注意ノ怠リヨリ生ジタル結果ニ付船、船主、船長、海員ヲシテ其ノ責ヲ免レシメザルモノトス

特例

第三十條 本法ハ行政官廳ニ於テ規定シタル港、川其ノ他内海ノ運航ニ關スル特別要則ノ施行ヲ妨ゲズ

難船信號

第三十一條 危難ニ羅リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船舶ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別々ニ使用スベシ

晝間信號

一　大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其ノ他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス
二　萬國船舶信號書ニ掲載スルNCノ難船信號ヲ表示ス
三　方形旗ノ上又ハ下ニ球若ハ之ニ類似ノモノヲ掲グル

遠隔信號ヲ表示ス

四　霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

夜間信號

一　大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其ノ他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス
二　船上ノ發焔（タール桶、油樽等ヲ燃燒スルノ類）
三　星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一時一發ヅツ度度打揚グ
四　霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

附則

第三十二條 本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス

第三十三條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

第三十四條 明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則同十四年五月第三十三號布告同規則追加同十八年八月第二十七號布告同規則改正追加ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

海上衝突豫防法ヲ朝鮮ニ施行スルノ件

（大正三年四月勅令第四十九號）

海上衝突豫防法ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス（公布ノ日ヨリ施行）

附則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

海上衝突豫防法・海上衝突豫防法ヲ朝鮮ニ施行スルノ件

海上衝突豫防法ヲ臺灣ニ施行スルノ件

（明治三十三年二月 勅令第二十一號）

海上衝突豫防法ハ明治三十三年五月一日ヨリ之ヲ臺灣ニ施行ス

陸軍刑法、海軍刑法等ヲ樺太ニ施行スルノ件

（明治四十年七月 勅令第二百五十七號）

第一條 左ニ掲グル法律ハ之ヲ樺太ニ施行ス

一 陸軍刑法
二 海軍刑法
三 陸軍治罪法
四 海軍治罪法
五 陸海軍軍法會議私訴裁判强制執行法
六 陸軍軍人軍屬違警罪處分例
七 海軍軍人軍屬違警罪處分例
八 戒嚴令
九 軍機保護法
十 軍用電信法
十一 海上衝突豫防法
十二 徵發令
十三 陸地測量標條例

第二條 徵發令及陸地測量標條例中府縣知事ノ職務ハ樺太廳長官、郡長ノ職務ハ樺太廳支廳長、町村長ノ職務ハ樺太廳長官ノ指定シタル者之ヲ行フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

內海水道航行規則

（昭和四年二月 遞信省令第三號）
改正 昭和十五年六月 省令第三十二號

第一條 本令ハ備讃瀨戸、來島海峽、釣島水道及下關海峽ニ於ケル船舶ニ之ヲ適用ス

本令ニ於テ備讃瀨戸、來島海峽、釣島水道及下關海峽トハ左ノ水域ヲ謂フ

備讃瀨戸 男木島燈臺ヨリ**カナワ**岩燈標、高島ノ北端、大串埼、地藏埼、黑埼、豊島ノ南端、大槌島ノ頂、小與島ノ南端、本島**シヨケンボ**鼻及黑鼻、佐柳島ノ南西端、二面島ノ頂、高見島板持鼻、沖ノ洲挂燈浮標、牛島九五米山ノ頂、三ツ子島燈臺、小瀨居島ノ頂及小槌島ノ頂ヲ經テ男木島ノ南端ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域

來島海峽 蒼社川口ノ東岸ヨリ大島**タケノ**鼻ニ引キタル線竝大下島**アゴノ**鼻ヨリ梶取鼻及大島宮ノ鼻ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域但シ今治ノ港域ヲ除ク

海上衝突豫防法ヲ臺灣ニ施行スルノ件・陸軍刑法、海軍刑法等ヲ樺太ニ施行スルノ件・內海水道航行規則

釣島水道 釣島ノ北端ヨリ琴引鼻、頭埼、野忽那島燈臺甫埼及小市島ノ頂ヲ經テ釣島ノ北端ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域

下關海峽 部埼燈臺ヨリ四十五度（眞方位）二海里ノ點ヨリ部埼燈臺及滿珠島ノ頂ニ引キタル線、滿珠島ノ頂ヨリ串埼ニ引キタル線竝和合良島ノ頂ヨリ臺場鼻及堺鼻ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域但シ關門ノ港域中門司區下關區、田野浦區及小倉區並若松ノ港域ヲ除ク

第二條 船舶ハ左ノ各號ノ場合ヲ除クノ外航路筋ニ於テ碇泊又ハ停留スルコトヲ得ズ

一 衝突其ノ他急迫ノ危險ヲ避ケムトスルトキ
二 運轉自由ヲ得ザルトキ
三 人命又ハ船舶ノ救助ニ從事スルトキ
四 海底電信電話線又ハ航路標識ノ工事ニ從事スルトキ
五 水路ノ測量又ハ浚渫作業ニ從事スルトキ
六 所轄官廳ノ許可ヲ得テ難破物又ハ沈沒物等ノ引揚其ノ他海中ノ工事ニ從事スルトキ

前項第二號乃至第五號ノ船舶晝間ニ於テ航路筋ニ碇泊スルトキハ法令ニ特ニ規定セル場合ヲ除クノ外最モ見易キ場所ニ黑又ハ黑球色ノ形象一箇ヲ掲グベシ

第一項第六號ノ船舶晝間ニ於テ航路筋ニ碇泊スルトキハ最見易キ場所ニ紅色ノ方旗ヲ揭グベシ

前三項ノ規定ハ漁撈中ノ漁船ニ之ヲ適用セズ但シ備讃瀨戸中小與島ノ南端ヨリ小瀨居島ノ頂ニ引キタル線以西ノ水域、來島海峽及下關海峽ニ於テハ漁撈中ノ漁船ヨリ通航船舶ノ進路ヲ避クルコトヲ要ス

第三條　船舶ハ安全ニ替リ行ク餘地ヲ有スル場合ニ非ザレバ他ノ船舶ヲ追越スコトヲ得ズ

汽船他ノ汽船ノ右舷側ヲ航行シテ追越サムトスルトキハ汽笛又ハ汽角ヲ以テ一長聲ニ引續キ一短聲ヲ、其ノ左舷側ヲ航行シテ追越サムトスルトキハ一長聲ニ引續キ二短聲ヲ發スベシ

第四條　海上衝突豫防法第七條第一項第三號、第四號、同第九條第一項及同第十條第一項ノ規定ニ依リ臨機ニ表示スルヲ以テ足ル船燈ハ第一條ノ水域航行中ノ船舶ニ限リ常ニ之ヲ揭ゲ置クベシ

第四條ノ二　海上衝突豫防法第二條第五號ノ規定ニ依リ增揭スルコトヲ得ル白燈ハ第一條ノ水域航行中ノ長サ四五・七二**メートル**以上ノ汽船ニ限リ常ニ之ヲ揭ゲ置クベシ但シ船舶ノ構造上之ヲ揭グルコト能ハザルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第五條　汽船ハ備讃瀨戸及釣島水道ニ於テハ左ノ航法ニ依ルベシ

一　島嶼岬角等ノ爲前面ヲ望見スルコト困難ナル場所ニ於テハ其ノ島嶼岬角等ヲ右舷ニ見ル汽船ハ之ニ近寄リ左舷ニ見ル汽船ハ之ニ遠ザカリテ航行スルコト

二　海上衝突豫防法第二十五條ノ適用ヲ受ケザル場所ニ於テモ尙同條ニ規定スル航法ニ依ルコト

三　波節岩ハ東行又ハ西行スル汽船ハ之ヲ左舷ニ見テ航行スルコト

第六條　汽船ハ來島海峽ニ於テハ左ノ航法ニ依ルベシ

一　中水道ハ順潮ノ場合ニ限リ又西水道ハ逆潮ノ場合ニ限リ通航スルコト但シ小島波止濱間ノ水道ヲ通航スル汽船ハ順潮ノ場合ト雖西水道ヲ通航スルコトヲ妨ゲズ

二　前號ノ規定ニ依リ中水道ヲ通航スル汽船ハ龍神島、津島及**アゴノ**鼻ニ近寄リ又西水道ヲ通航スル汽船ハ之ニ遠ザカリテ航行スルコト即チ行逢汽船ニ在リテハ南流ニ於テ互ニ右舷ヲ北流ニ於テ互ニ左舷ヲ相對シテ航過スルモノトス

三　第一號但書ノ規定ニ該當スル汽船ハ海峽ノ西側（今治港防波堤燈臺、大濱燈臺、來島白石燈標）ニ近寄リテ航行スルコト

四　中水道若ハ東水道ヨリ今治方面ニ向ケ又ハ今治方面ヨリ中水道若ハ東水道ニ向ケ航行スル汽船ハ中水道若ハ西水道ヲ通航シテ東行若ハ西行スル汽船ノ進路ヲ避クベシ

中水道又ハ西水道ヲ通航スル汽船ハ轉流時ニ在リテハ一ノ瀨鼻又ハ龍神島ニ並航シタルトキヨリ中水道又ハ西水道ヲ通過シ終ル迄汽笛又ハ汽角ヲ以テ數回左ノ信號ヲ爲スベシ

中水道通航汽船　一長聲
西水道通航汽船　二長聲

小島、波止濱間ノ水道ヲ通航スル汽船ハ來島又ハ龍神島ニ並航シタルトキヨリ西水道ヲ通過シ終ル迄汽笛又ハ汽角ヲ以テ數回三長聲ヲ發スベシ

中水道若ハ東水道ヨリ今治方面ニ向ケ航行スル汽船ハ中渡島ニ並航シタルトキヨリ今治港防波止堤燈臺ノ沖合迄又今治方面ヨリ中水道若ハ東水道ニ向ケ航行スル汽船ハ今治港防堤燈臺ノ沖合ヨリ中渡島ニ並航スル迄晝間ニ在リテハ汽笛又ハ汽角ヲ以テ數回四長聲ヲ發スベシ

第七條　前條ノ潮流ノ流向ニ付テハ中渡島潮流信號所ノ潮流信號ニ又之ニ依リ難キ場合ハ水路部刊行潮汐表ニ依ルモノトス

第八條　汽船ハ下關海峽ニ於テハ左ノ航法ニ依ルベシ

一　早鞆瀨戸（柁ケ鼻ヨリ下關低燈ニ引キタル線及鴎ケ鼻ヨリ火ノ山ノ頂ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域）ヲ西行セントスル汽船ハ火ノ山ノ頂ヨリ蔦ケ巢鼻ニ引キタル線ニ達スル前門司埼燈標ヨリ滿珠島ノ頂ニ引キタル線以北ノ水域ニ入ルコト又早鞆瀨戸ヲ東行セントスル汽船ハ下關高燈ヨリ三角山ノ頂ニ引キタル線ニ達スル前門司埼燈標ヨリ巖流島南端ニ引キタル線以北ノ水域ニ入ルコト

二　總噸數百噸未滿ノ汽船ハ前號ノ規定ニ依ラザルコトヲ得此ノ場合ニ於テ出來得ル近リ門司埼ニ近寄リテ航行シ行逢ヒタルトキハ東流ノ場合ニ在リテハ互ニ右舷ヲ相對シ其ノ他ノ場合ニ在リテハ互ニ左舷ヲ相對シテ航過スルコト（若シ門司埼ニ近寄リテ航行シ能ハザルトキハ前號ノ規定ニ依リテ航行スルコト）

三　第一號ノ汽船行逢ヒタルトキハ互ニ左舷ヲ相對シテ航過スルコト

四　第一號ノ規定ニ依リ早鞆瀬戸ヲ東行中ノ汽船ハ第二號ノ規定ニ依リ同瀬戸ヲ通航中ノ汽船ヲ常ニ右舷ニ見西行中ノ汽船ハ之ヲ常ニ左舷ニ見テ航過スルコト又第二號ノ規定ニ依リ早鞆瀬戸ヲ西行中ノ汽船ハ第一號ノ規定ニ依リ同瀬戸ヲ通航中ノ汽船ヲ常ニ右舷ニ見、東行中ノ汽船ハ之ヲ常ニ左舷ニ見テ航過スルコト

五　潮流ニ遡リ早鞆瀬戸ヲ通航スル汽船ハ潮流ノ速度（水路部刊行潮汐表及下關海峽潮流圖ニ依ル）ヲ超ヘ一時間三海里以上ノ速力ヲ保ツコト

六　下關高燈附近ト山底ノ鼻附近トノ間ニ於テハ航行ニ因リ生ズル波浪ノ爲海難其ノ他ノ事故ヲ生ゼザル程度ノ速力ニテ航行スルコト

帆船ハ早鞆瀬戸ニ於テハ縫航スベカラズ

第九條　船舶ハ船首ヲ回轉スル爲下關海峽ニ於テ投錨スルトキハ晝間ニ在リテハ黑球又ハ黑色ノ形象一箇ヲ、夜間ニ在リテハ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ニ加ヘテ紅燈一箇ヲ最見易キ場所ニ掲グベシ

第十條　關門港若ハ若松港ヲ出入シ又ハ下關海峽ヲ通過スル船舶ハ部埼附近及六連島附近ノ間ヲ航行中前檣又ハ最見易キ場所ニ左ノ信號旗ヲ掲揚スベシ但シ平水ノ航行區域ヲ有スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　下關海峽東口ニ向ケ出港スルモノハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニE

二　下關海峽西口ニ向ケ出港スルモノハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニW

三　門司區ニ入港スルモノニシテ錨地指定ニ關スル特定信號ヲ掲ゲザルモノハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニM

四　下關區ニ入港スルモノニシテ錨地指定ニ關スル特定信號ヲ掲ゲザルモノハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニS

五　田野浦區ニ入港スルモノニシテ錨地指定ニ關スル特定信號ヲ掲ゲザルモノハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニT

六　小倉區ニ入港スルモノニシテ錨地指定ニ關スル特定信號ヲ掲ゲザルモノハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニK

七　若松港ニ入港スルモノハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニY

八　下關海峽ヲ通過スルモノハ國旗、信號符字及國際信號KPK

附　則

本令ハ昭和四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

海軍ニ於テ實驗ノ爲危險物ヲ海中ニ沈置スルニ當リ施行スベキ手續

（明治三十五年七月　海軍省令第七號）

海軍ニ於テ實驗ノ爲危險物ヲ海中ニ沈置スルニ當リ施行スベキ手續左ノ通定ム

第一　危險物沈置區域ハ常ニ白色ノ浮標ヲ以テ之ヲ表示シ且附近適當ノ位置ニハ常ニ番船ヲ碇置シ所要ニ際シテハ通航ノ船舶及漁船等ニ對シ相當ノ指導並注意ヲ爲サシム但シ時宜ニ依リ水路標導船ヲ置キ番船ノ職務ヲ兼ネシムルコトアルベシ

第二　前項ノ番船ニハ晝間ハ赤旗及萬國船舶信號旗ノV旗ヲ掲揚シ夜間ハ上下ニ約三尺ヲ隔テテ紅燈三箇ヲ連掲ス

第三　天候其ノ他ノ爲番船ヲ碇置スルコト能ハザルトキハ最近隣上ニ見張所ヲ設ケ相當ノ注意ヲ爲サシムルコトアリ

海軍ニ於テ實驗ノ爲危險物ヲ海中ニ沈置スルニ當リ施行スベキ手續・帝國領海內及其ノ附近ニ於ケル潛水艦所在ノ海面ヲ通航シ若ハ同海面附近ニ作業スル船舶ノ注意方

附　則

本令ノ手續ヲ施行スル場合ニ限リ危險物沈置區域並其ノ期間等ニ關シテハ從來ノ如ク官報ヲ以テ告示セズ

帝國領海內及其ノ附近ニ於ケル潛水艦所在ノ海面ヲ通航シ若ハ同海面附近ニ作業スル船舶ノ注意方

（大正十三年四月　海軍省令第四號）

改正　昭和十年　海軍省令第十一號

大正七年海軍省令第九號ヲ左ノ通リ改正ス

帝國領海內及其ノ附近ニ於テ潛水艦作業中認識困難ヨリ生ズル衝突等ノ危害ヲ豫防スル爲潛水艦所在ノ海面ヲ通航シ若ハ同海面附近ニ作業スル船舶ハ左ノ諸號ニ注意スベシ

一　潛水艦潛航中ハ一般水上船舶ニ對シ自艦ノ所在ヲ表示スル爲潛望鏡頂又ハ假製檣頂ニ適宜帆布製又ハ金屬製ノ赤色方形標識ヲ掲グ

潛水艦作業中之ヲ隨伴スル艦船アルトキハ該艦船ニ於テB旗（赤旗）二箇ヲ連綴檣頭又ハ桁端ニ掲揚シ以テ附近五浬以内ニ潛水艦作業中ナルヲ示シ又必要アルトキハ國際通信書（信號篇）ニ依リ自船ヲ基點トシテ潛水艦ノ所在方位ヲ示ス

二　一般船舶前號ノ標識又ハ前號ノ信號ヲ掲揚スル艦船ヲ認メタルトキハ該標識又ハ該艦船ノ動靜及信號ニ注意シ且水面ノ見張ヲ最嚴ニシテ行動スベシ

三　潛水艦ハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外一般船舶ノ常用航路ヲ避ケ行動スベキニ依リ一般船舶ハ可成常用航路以外ニ逸セザル樣勉ムベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

帝國海軍艦船、航空機作業等ニ從事中信號掲揚方

（大正十五年十二月海軍省令第二十號）

帝國海軍艦船、航空機作業、掃海作業、曳船作業及測量作業ニ從事中ハ衝突等ノ危險ヲ豫防スル爲左記ノ信號ヲ爲シ該艦船ノ運動自由ナラザルカ針路ノ變換困難ナルカヲ表示スルヲ以テ其ノ附近海面ヲ通航シ又ハ同海面ニ於テ作業スル船舶ハ之ニ注意スベシ

一　航空機發著作業ニ從事中ノ艦船ハ晝間最見エ易キ所ニ左圖ノ如キ吹流一箇掲揚ス

前項ノ信號ヲ爲セル艦船航進中ナルトキハ航空機發著作業中ナルヲ以テ其ノ前路ニ接近スルハ危險ナリ又該艦船停止セルトキハ航空機發著又ハ出入作業中ナルヲ以テ其ノ千米以内ニ接近スルハ危險ナリ

二　掃海作業中ノ艦船ハ最見エ易キ所ニ晝間ニ在リテハ直徑二尺ノ黑球一箇ヲ掲揚シ夜間二雙以上ノ場合ニ在リテハ周圍少クトモ二海里ノ距離ヨリ見得ベキ（白）（紅）三箇ノ燈ヲ上下ニ少クトモ四尺宛ヲ隔テ連掲ス

前項ノ信號ヲ爲セル艦船單艦（艇）ノ場合ニハ掃海索ヲ其ノ左右斜後ニ曳航スルヲ以テ其ノ五百米以内ニ接近スルハ危險ナリ又該艦船對艦（艇）又ハ群艦（艇）ノ場合ニハ翼端及後尾ノモノヨリ五百米以内ニ接近スルハ危險ナリ

對艦（艇）ノ間ヲ航過セザル樣特ニ注意スルヲ要ス

三　艦船他ノ艦艇又ハ艦砲射擊用標的等ヲ曳航中又ハ其ノ曳索ヲ揚收中ハ晝間最見エ易キ所ニ直徑二尺ノ黑球三箇ヲ上下ニ少クトモ六尺宛ヲ隔テ連掲ス

前項ノ場合ニ於テ曳索上ヲ航過スルハ最危險ナリ

四　測量ノ爲停止中又ハ一定釘路ヲ航行中ノ艦船ハ晝間見エ易キ所ニ直徑二尺ノ黑球ノ下ニ少クトモ六尺ヲ隔テ

艦船速力試驗施行中船舶航行注意ニ關スル件

（昭和十年十月海軍省令第十二號）

回答旗ノ下ニA旗ヲ連綴檣頭又ハ桁端ニ掲揚シ航走スル艦船ハ現ニ速力試驗施行中ナルヲ以テ船舶ハ總テ之ニ近寄ラザル樣注意スベシ

附　則

大正七年海軍省令第七號ハ之ヲ廢止ス

船舶ノ運航ニ關スル取締規則制定改廢報告方

（明治四十四年三月遞信省訓令第一號）

船舶（艀船及通船ヲ包含ス）ノ運航ニ關シ取締規則ヲ制定シ又ハ之ヲ改廢シタルトキハ其ノ都度遲滯ナク其ノ寫ヲ添

ヘテ遞信省ニ之ヲ報告スベシ但シ既ニ公布ニ係ル現行規則ハ來四月三十日迄ニ其ノ寫ヲ送付スベシ

關東州ニ於ケル船舶ノ海上衝突豫防ニ關スル件

（明治四十三年六月 關東都督府令第十八號）

關東州ニ於ケル船舶ノ海上衝突豫防ニ關シテハ海上衝突豫防法ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二章　船舶信號及通報

船舶信號ニ關スル件

（明治三十四年十月 勅令第百八十八號）

日本船舶ハ遞信省ニ於テ發行スル船舶信號書ニ據リ普通信號ヲ爲スベシ

附則

明治八年第百四十四號布告ハ之ヲ廢止ス

日本船舶國際通信書使用ノ件

（昭和八年八月 遞信省令第三十四號）

日本船舶ハ左ノ國際通信書（國際通信書若ハ英和對譯國際通信書）ヲ使用スベシ

關東州ニ於ケル船舶ノ海上衝突豫防ニ關スル件（關東州）・船舶信號ニ關スル件・日本船舶國際通信書使用ノ件・國際信號旗ノ寸法ニ關スル件

國際通信書　信號篇
國際通信書　電信篇
英和對譯國際通信書　信號篇
英和對譯國際通信書　電信篇

附則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年十月遞信省令第四十四號ハ之ヲ廢止ス

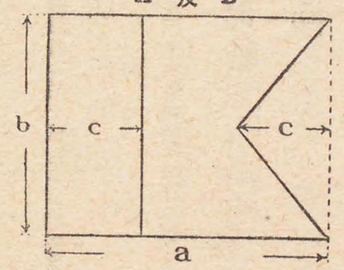
國際信號旗ノ寸法ニ關スル件

（昭和八年十二月 遞信省令第五十一號）

國際通信書掲載ノ國際信號旗ハ左ノ寸法ノモノノ中何レカヲ使用スベシ

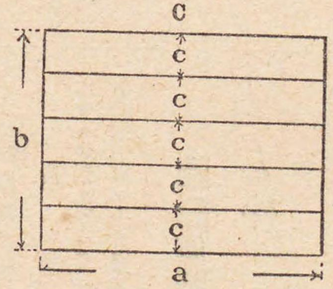
文字旗

A及B



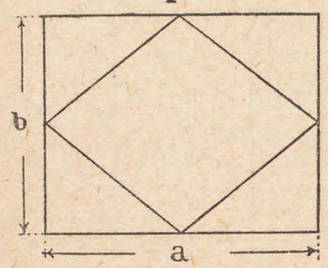
大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	244.0	198.0	81.3
中	168.0	137.0	56.0
小	91.0	76.0	30.3

C



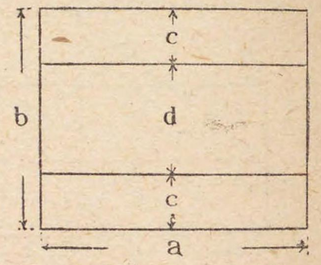
大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	244.0	198.0	39.6
中	168.0	137.0	27.4
小	91.0	76.0	15.2

F



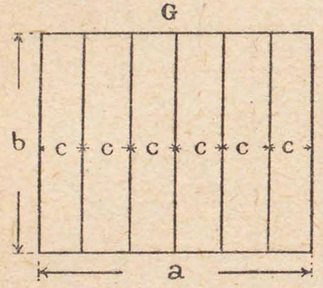
大サ	a 糎	b 糎
大	244.0	198.0
中	168.0	137.0
小	91.0	76.0

D



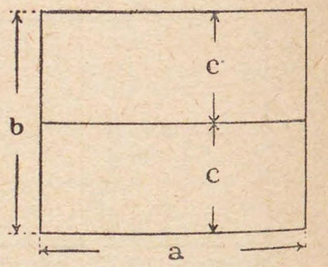
大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎
大	244.0	198.0	49.5	99.0
中	168.0	137.0	34.2	68.6
小	91.0	76.0	19.0	38.0

G



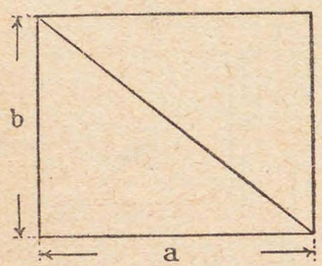
大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	244.0	198.0	40.7
中	168.0	137.0	28.0
小	91.0	76.0	15.2

E



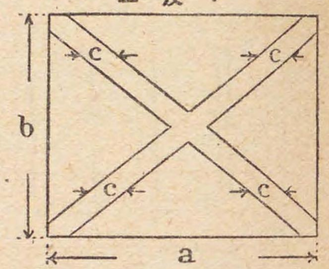
大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	244.0	198.0	99.0
中	168.0	137.0	68.7
小	91.0	76.0	38.0

O



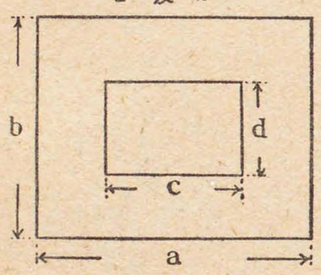
大サ	a 横	b 縦
大	244.0	198.0
中	168.0	137.0
小	91.0	76.0

M 及 V



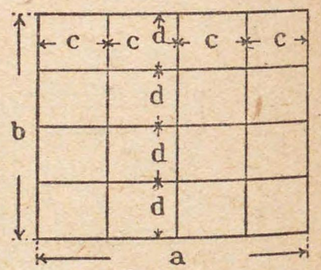
大サ	a 横	b 縦	c 横
大	244.0	198.0	33.0
中	168.0	137.0	22.9
小	91.0	76.0	12.7

P 及 S



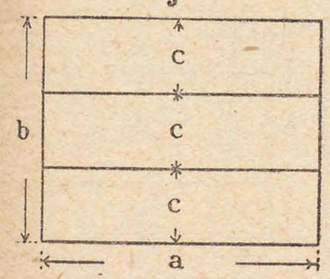
大サ	a 横	b 縦	c 横	d 縦
大	244.0	198.0	122.0	82.6
中	168.0	137.0	84.0	57.2
小	91.0	76.0	45.5	31.8

N



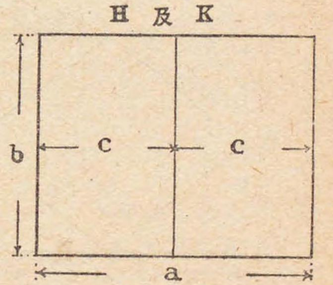
大サ	a 横	b 縦	c 横	d 縦
大	244.0	198.0	61.0	49.5
中	168.0	137.0	42.0	34.3
小	91.0	76.0	22.8	19.0

J



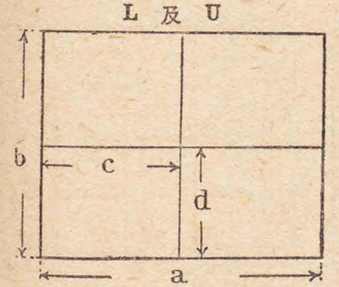
大サ	a 横	b 縦	c 横
大	244.0	198.0	66.0
中	168.0	137.0	45.7
小	91.0	76.0	25.3

H 及 K



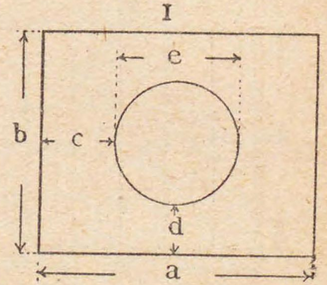
大サ	a 横	b 縦	c 横
大	244.0	198.0	122.0
中	168.0	137.0	84.0
小	91.0	76.0	45.5

L 及 U



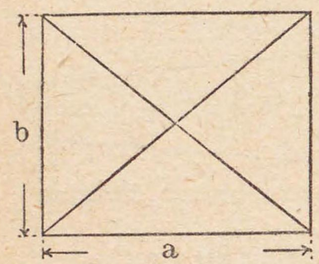
大サ	a 横	b 縦	c 横	d 縦
大	244.0	198.0	122.0	99.0
中	168.0	137.0	84.0	68.5
小	91.0	76.0	45.5	38.0

I



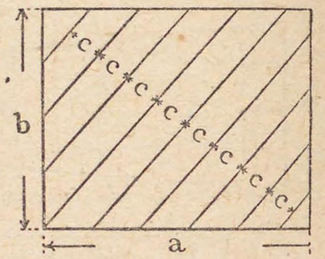
大サ	a 横	b 縦	c 横	d 縦	e 縦
大	244.0	198.0	66.1	43.1	111.8
中	168.0	137.0	45.9	30.4	76.2
小	91.0	76.0	25.2	17.7	40.6

Z



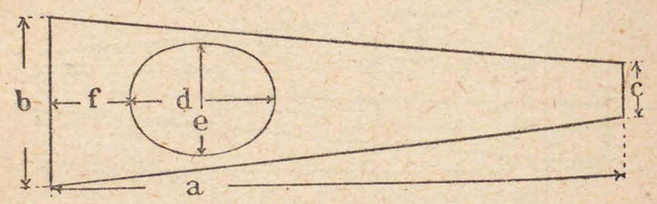
大サ	a 糎	b 糎
大	244.0	198.0
中	168.0	137.0
小	91.0	76.0

Y



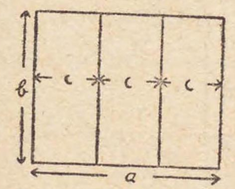
大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	244.0	198.0	33.0
中	168.0	137.0	22.9
小	91.0	76.0	12.7

1 及 2　　數字旗



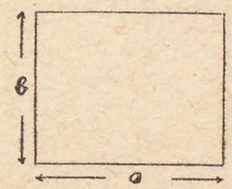
大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎	e 糎	f 糎
大	511.0	152.0	46.0	127.0	101.6	71.1
中	389.0	114.0	31.0	96.5	76.2	55.9
小	259.0	76.0	20.0	64.8	50.8	36.8

T



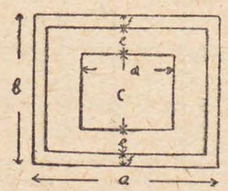
大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	244.0	198.0	81.3
中	168.0	137.0	56.0
小	91.0	76.0	30.3

Q



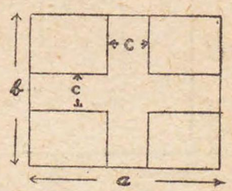
大サ	a 糎	b 糎
大	244.0	198.0
中	169.0	137.0
小	91.0	76.0

W



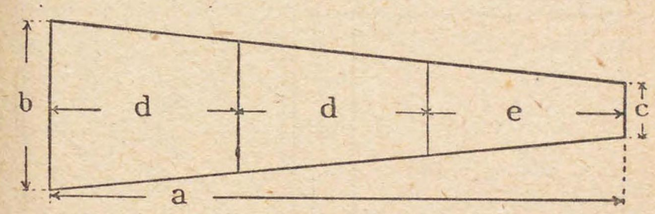
大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎	e 糎	f 糎
大	244.0	198.0	99.0	121.9	33.0	16.5
中	168.0	137.0	68.4	83.8	22.9	11.4
小	91.0	76.0	37.8	45.7	12.7	6.4

R 及 X



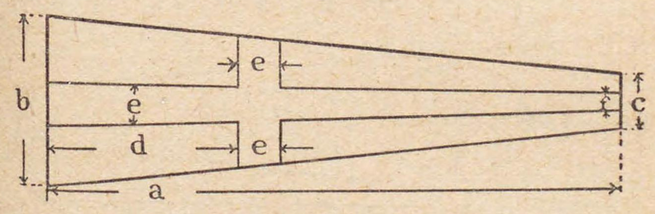
大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	244.0	198.0	49.5
中	168.0	137.0	34.3
小	91.0	76.0	19.1

3 及 0



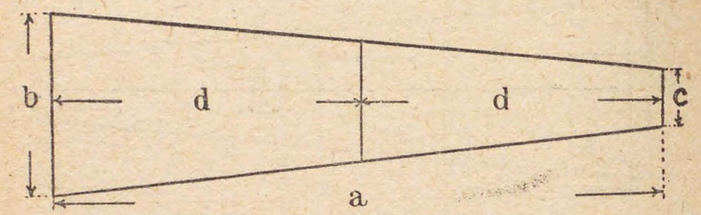
大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎	e 糎
大	511.0	152.0	46.0	167.6	175.8
中	389.0	114.0	31.0	128.3	132.4
小	259.0	76.0	20.0	85.1	88.8

4 及 8



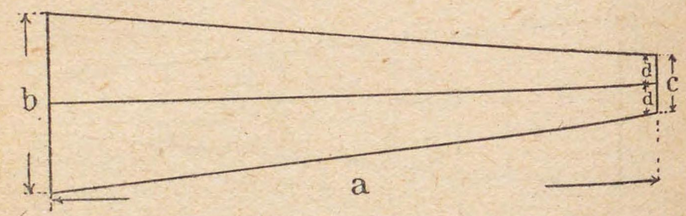
大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎	e 糎	f 糎
大	511.0	152.0	46.0	170.2	36.8	15.3
中	389.0	114.0	31.0	129.5	27.9	10.3
小	259.0	76.0	20.0	86.4	19.1	6.7

5

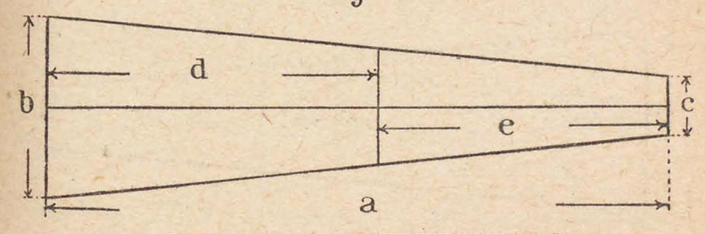


大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎
大	511.0	152.0	46.0	255.5
中	389.0	114.0	31.0	194.5
小	259.0	76.0	20.0	129.5

6 及 7

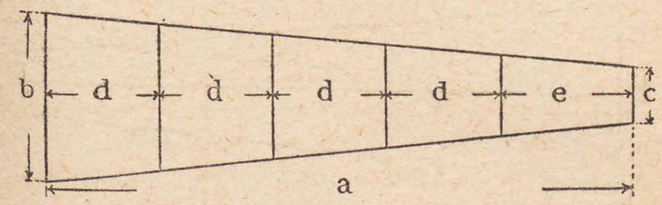


大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎
大	511.0	152.0	46.0	23.0
中	389.0	114.0	31.0	15.5
小	259.0	76.0	20.0	10.0



大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎	e 糎
大	511.0	152.0	46.0	274.3	236.7
中	389.0	114.0	31.0	205.7	183.3
小	259.0	76.0	20.0	137.2	121.8

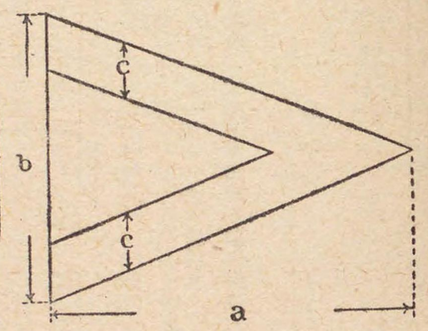
回　答　旗



大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎	e 糎
大	511.0	152.0	46.0	99.1	114.6
中	389.0	114.0	31.0	76.2	84.2
小	259.0	76.0	20.0	50.8	55.8

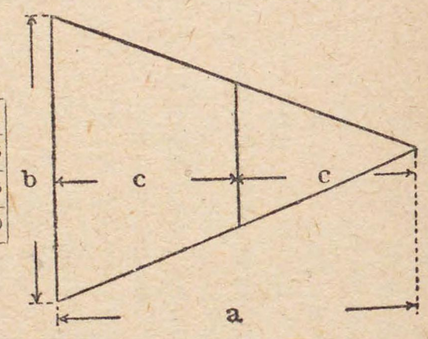
代　表　旗

第一代表旗



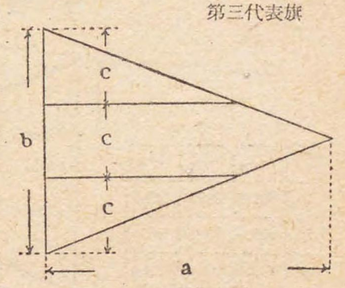
大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	305.0	244.0	48.5
中	229.0	183.0	37.0
小	152.0	122.0	24.0

第二代表旗



大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	305.0	244.0	152.5
中	229.0	183.0	114.5
小	152.0	122.0	76.0

第三代表旗



大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	305.0	244.0	81.3
中	229.0	183.0	61.0
小	152.0	122.0	40.7

附則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ使用スル萬國船舶信號旗ハ其ノ寸法本令ニ適合セザルモノト雖當分ノ内之ヲ使用スルコトヲ得

内海沿岸船舶通航信號、潮流信號方

（明治四十二年七月遞信省告示第六百七十三號）

改正　昭和十五年十月遞信省告示第二千八百六十九號

内海沿岸中特ニ指定スル場所ニ信號所ヲ置キ通過船舶ニ對シ左記ノ規定ニ依リ船舶通航信號、潮流信號又ハ兩信號ヲ爲サシム

信號所ノ位置、信號開始ノ日等ハ別ニ之ヲ告示ス

一　船舶通航信號ハ信號所ノ附近ニ於ケル船舶ノ動靜ニ關シ之ヲ爲ス但シ各信號所ニ付テ特ニ定ムル場合、縱帆ノミヲ裝置スル帆船カ群走セザル場合及櫓櫂ヲ以テ運轉スル船ニ關スル場合ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

二　船舶通航信號ハ左ノ二種ニ分チ晝間ニ在テハ黑色ノ船舶通航信號塔ニ白色ノ記號ヲ表示シ夜間ニ在テハ該塔ニ燈ヲ揭ゲテ之ヲ爲ス（附圖參照）

第一種　晝間ニ在テハ圓形板ヲ上端トシテ桿ガ約三十度ニ傾斜シ夜間ニ在テハ紅白不等分互光燈ヲ揭グルモノ

第二種　晝間ニ在テハ中央塔ニ三角形ヲ表示シ夜間ニ在テハ該塔ニ明暗紅色燈ヲ揭グルモノ

前塔ト稱スルハ信號所見張所ノ上部ニ在ルモノ、中央塔ト稱スルハ前塔ノ後方ニ在ルモノ、後塔ト稱スルハ最後ニ在ルモノヲ謂フ

三　潮流信號ハ左ノ四種ニ分チ晝間ニ在テハ白色柱ノ頂ニ於テ一端ニ紅色圓形板、他端ニ黑色矩形板ヲ有スル白色桿ノ位置ヲ轉換シ夜間ニ在テハ白色ノ潮流信號塔ニ燈ヲ揭ゲテ之ヲ爲ス（附圖參照）

第一種　晝間ニ在テハ矩形板ヲ上端トシテ桿ガ約三十度ニ傾斜シ夜間ニ在テハ白色不等分明暗燈ヲ揭グルモノ

第二種　晝間ニ在テハ矩形板ヲ上端トシテ桿ガ約七十度ニ傾斜シ夜間ニ在テハ白色等分明暗燈ヲ揭グルモノ

第三種　晝間ニ在テハ圓形板ヲ上端トシテ桿ガ約三十度ニ傾斜シ夜間ニ在テハ紅白不等分互光燈ヲ揭グルモノ

第四種　晝間ニ在テハ矩形板ヲ上端トシテ桿ガ約七十

度ニ傾斜シ夜間ニ在テハ紅白等分互光燈ヲ揚グルモノ

四　潮流信號ハ同方向ノ潮流ガ流レ始メテヨリ流レ止ムマデノ間ニ於テ最初ノ約三分ノ一ニ相當スル期間ヲ初期、次ノ約三分ノ一ニ相當スル期間ヲ中央期、最後ノ約三分ノ一ニ相當スル期間ヲ末期トシテ之ヲ爲ス

五　信號機ノ故障其ノ他ノ事由ニ依リ信號ヲ爲スコトヲ得ザルトキハ左ニ定ムル所ニ從ヒ信號ヲ爲ス

船舶通航信號ヲ爲スコトヲ得ザルトキ

晝間　後塔ニ紅色ノ方形ヲ表示ス

夜間　紅燈一箇ヲ前塔ニ揭グ

潮流信號ヲ爲スコトヲ得ザルトキ

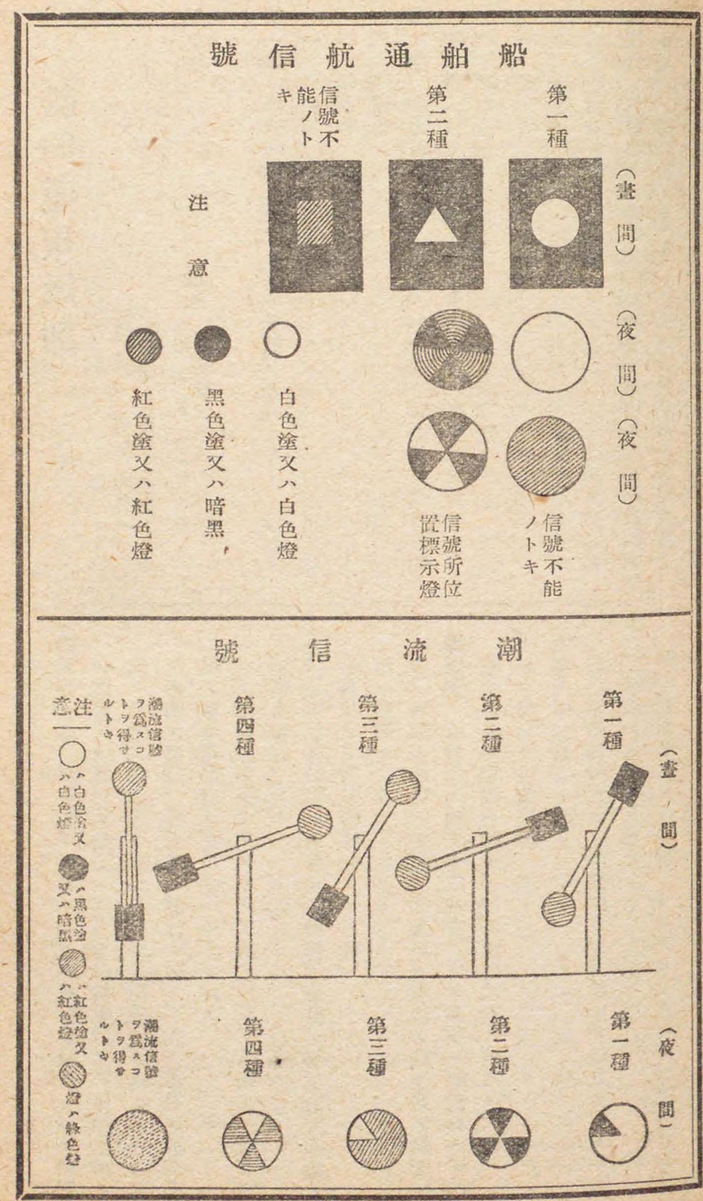
晝間　圓形板ヲ上端トシテ桿ヲ直立ス

夜間　綠燈一箇ヲ潮流信號塔ニ揭グ

火ノ山下及赤坂船舶通航信號所ニ於テハ夜間信號所ノ位置ヲ示ス爲メ後塔ニ明暗白色燈ヲ揭グ

七　航路ニ異變アルトキ航行危險ノ虞アルトキ其ノ他船舶ノ航行ニ關シ必要アルトキハ信號所ハ晝間ニ限リ萬國船舶信號法ニ依リ信號ヲ爲スコトアルベシ

（附圖）



船舶通報規則

（明治四十年九月遞信省令第四十四號）
改正　昭和九年三月遞信省令第三十五號

第一條　船舶通報ヲ別チテ左ノ三種トス
一　通過報
二　信號報
三　海難報

第二條　通過報トハ特ニ指定スル燈臺ノ沿海ヲ通過スル船舶ニ關シ和文電報ヲ以テ請求者ニ左ノ事項ヲ通知スルモノヲ謂フ
一　船名
二　通過時分
三　通過ノ方向

第三條　信號報トハ船舶ノ所有者又ハ賃借人ト當該船舶ノ船長トノ間ニ於ケル通信ニシテ特ニ指定スル燈臺ニ於テ其ノ沿海ヲ通過スル當該船舶ト信號ニ依リ送受スルモノヲ謂フ

第三條ノ二　海難報トハ特ニ指定スル電信局所ニ於テ船舶ノ遭難又ハ航行ノ安全ニ關スル無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信（特定人ニ宛ツルモノヲ除ク）ニ依リ知得シタル船舶ノ遭難、委棄又ハ漂流ニ關スル左ノ事項ヲ和文電報ヲ以テ請求者ニ通知スルモノヲ謂フ
一　船名（必要アルトキハ船舶ノ種類、國籍又ハ所有者名ヲ附記ス）
二　災厄ノ日時（遭難ノ日時又ハ遭難、委棄若ハ漂流ノ事項ノ事實ヲ知得シタル日時）
三　船舶ノ位置
四　災厄ノ狀況（遭難、委棄又ハ漂流ノ別及其ノ狀況）

第四條　通過報ノ取扱ヲ望ム者ハ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ其ノ電報ヲ配達スベキ電信局所ニ差出スベシ
一　船名及信號符字
二　國籍
三　船舶所有者名（若船舶ガ賃貸借中ノモノナルトキハ船舶ノ賃借人名）
四　燈臺名

五　請求者（若請求者ガ受信者ニ非ザルトキハ併セテ受信者）ノ住所氏名

前項ノ場合ニ於テ請求者ガ該船舶ノ所有者又ハ賃借人ニ非ザルトキハ第十九條第一項ノ規定ニ依リ國旗及信號符字ヲ揭グル旨記載シタル船舶所有者（該船舶ガ賃貸借中ノモノナルトキハ其ノ賃借人）ノ承諾書ヲ添付スベシ

臨時ニ通過報ノ取扱ヲ望ム者ハ第一項各號ノ事項ノ外尙豫定通過日時ヲ記載スベシ

第五條　通過報ノ取扱ヲ望ム者ハ登記料トシテ一會計年度毎ニ金二圓ヲ前條ノ電信局所ニ納付スベシ但シ臨時ニ其ノ取扱ヲ望ム者ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ登記料ハ毎年度分ヲ其ノ前年度ノ末日十五日前迄ニ納付スベシ但シ初年度分ハ請求書差出ノ際之ヲ納付スベシ

第六條　通過報ノ料金左ノ如シ
一　登記料ヲ納付シタル者ニ對シテハ一通毎ニ
　内地　相互間　金二十錢
　内地臺灣樺太及朝鮮相互間　金二十五錢
二　登記料ヲ納付セザル者ニ對シテハ一通毎ニ
　内地　相互間　金三十錢
　内地臺灣樺太及朝鮮相互間　金四十錢
　夜間（日沒ヨリ日出マデヲ謂フ）通過ノ船舶ニ對スル通過料ノ料金ハ前項料金ノ二倍トス

前二項ノ料金ハ配達ノ際受信者ヨリ之ヲ徵收ス

第七條　第四條ノ請求ヲ受ケタル電信局所ニ於テ豫定通過時日切迫ノ爲燈臺ニ電報ヲ以テ通知ヲ要スルトキハ請求者ハ其ノ電報ノ料金ヲ前納スベシ

第八條　第四條ノ請求書ニ記載セル船舶ガ燈臺ノ沿海ヲ通過シタル場合ト雖該燈臺ニ於テ其ノ船名ヲ知リ得ザリシトキ又ハ全ク船舶ノ通過ヲ知リ得ザリシトキハ通過報ヲ發セザルコトアルベシ

第九條　信號報ノ取扱ヲ望ム船舶所有者又ハ賃借人ハ豫メ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ其ノ電報ヲ配達スベキ電信局所ニ差出スベシ
一　船名及信號符字
二　國籍
三　船舶所有者名（若船舶ガ賃貸借中ノモノナルトキハ船舶ノ賃借人名）
四　燈臺名
五　請求者ノ住所氏名

第十條 信號報ノ取扱ヲ望ム者ハ登記料トシテ一會計年度毎ニ金二圓ヲ前條ノ電信局所ニ納付スベシ

前項ノ登記料ハ毎年度ノ末日十五日前迄ニ納付スベシ但シ初年度分ハ請求書差出ノ際之ヲ納付スベシ

第十一條 信號報ノ料金左ノ如シ

信號料	一通ニ付 金一圓
電報料又ハ郵便料	實費

船舶ヨリ發スル信號報ノ料金ハ之ヲ受信者ヨリ徴收ス

第十二條 船舶所有者又ハ賃借人信號報ヲ發セムトスルトキハ和文電報書法ニ從モ相當事項ヲ賴信紙ニ記載シ之ヲ第九條ノ電信局所ニ差出スベシ但シ之ニ關スル郵便切手ハ賴信紙ニ貼附スベカラズ

前項ノ場合ニ於テ郵便ニ依リ燈臺ニ送達ヲ望ムトキハ同時ニ其ノ旨ヲ申出ヅベシ此ノ場合ニ於テハ適宜ノ用紙ニ記載スルコトヲ得

第十三條 電信局所ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ指定ノ方法ニ依リ之ヲ燈臺ニ傳送シ燈臺ニ於テ之ヲ船舶ニ通達ス

第十四條 船舶ニ於テ信號報ヲ發セムトスルトキハ其ノ旨ヲ燈臺ニ信號スベシ但シ信號報ノ受信者ハ第十條ノ登記料ヲ納付シタル者ニ限ル

第十五條 燈臺ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ和文電報ヲ以テ之ヲ第九條ノ電信局所ニ傳送シ電信局所ハ之ヲ受信者ニ配達ス

第十六條 燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ十日以内ニ限ル

第十七條 船舶ニ通達シ能ハザル信號報ノ料金中信號料ハ納付人ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス

第十八條 燈臺ト船舶トノ間ニ於ケル信號ハ晝間ニ限リ之ヲ行ヒ其ノ方法ハ國際通信書ノ定ムル所ニ依ル但シ船舶所有者又ハ賃借人ノ請求ニ依リ燈臺ニ於テ夜間通過ノ信號ヲ受クルコトアルベシ

第十九條 通過報又ハ信號報ニ關係ヲ有スル海上ノ船舶ハ特ニ指定シタル燈臺ニ接近シタルトキハ國旗及信號符字ヲ揚グベシ

前條但書ニ依リ夜間通過ノ信號ヲ爲サムトスルトキハ船舶所有者又ハ賃借人ハ特定信號ヲ定メ豫メ燈臺局ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

第十九條ノ二 海難報ノ取扱ヲ望ム者ハ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ其ノ電報ヲ配達スベキ電信局所ニ差出スベシ

一 船名及信號符字
二 國籍
三 船舶所有者名（若船舶ガ賃貸借中ノモノナルトキハ船舶ノ賃借人名）
四 發信電信局所名
五 請求者ノ住所氏名

第十九條ノ三 第十條ノ規定ハ海難報ニ之ヲ準用ス

第十九條ノ四 海難報ノ料金ハ電報ノ字數ニ應ジ一般私報ノ料金ヲ課ス

前項ノ料金ハ配達ノ際受信者ヨリ之ヲ徴收ス

第十九條ノ五 電信局所ニ於テ第三條ノ二各號ノ事項中知得シ得ザルモノアルトキハ當該事項ノ通報ヲ爲サズ又ハ海難報ヲ發セザルコトアルベシ

第二十條 本令中料金ノ徴收又ハ還附ニ關シ明文ナキ事項ハ凡テ明治三十三年九月遞信省令第四十六號電報規則ノ規定ヲ準用ス

第二十一條 第四條第一項、第九條又ハ第十九條ノ二ノ各號ニ揚グル事項ニ異動ヲ生ジタルトキ又ハ船舶通報ノ請求者其ノ取扱ヲ罷メムトスルトキハ請求書ヲ差出シタル電信局所ニ其旨ヲ屆出ヅベシ

受信者住所ノ異動ニ依リ配達電信局所ヲ異ニスルニ至リタルトキハ其ノ船舶通報取扱ノ請求ハ消滅シタルモノト看做ス但シ同一市町村内ニ於ケル受信者住所ノ異動ニ依リ配達電信局所ヲ異ニスルニ至リタルトキハ此限ニ在ラズ

第二十二條 船舶通報ハ內地（小笠原島ヲ除ク）相互間及內地（小笠原島ヲ除ク）臺灣、樺太及朝鮮相互間ニ發受スルモノニ限ル

第二十三條 燈臺以外ノ場所ニ於テ通過報又ハ信號報ノ取扱ヲ爲ストキハ本令ヲ準用ス

附則

第二十四條 本令ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

船舶氣象觀測報告規則

（昭和十一年六月文部、遞信省令第一號）

改正　昭和十五年九月文部、遞信省令第一號

第一條　公衆通信ヲ取扱フ無線電信ノ施設ヲ有スル船舶及主務大臣ノ特ニ指定スル船舶ハ東經百度ヨリ百八十度ヲ經テ西經百六十度ニ至ル迄北緯零度ヨリ六十五度迄ノ海面ニシテ本邦海岸局ノ通信距離内ヲ航行中毎日中央標準時（以下同ジ）午前六時、正午及午後六時ニ氣象觀測ヲ爲スベシ

第二條　海上氣象特報海上暴風警報電報ニ依リ中心示度七百四十粍以下ノ颱風ノ中心ヨリ千粁以内ヲ航行中ナルコトヲ知リタル場合ニ於テハ前條ノ時刻外ニ正午、午前三時、午前九時、午後三時及午後九時ノ氣象觀測ヲモ爲スベシ

前項ノ外天候異常ノ場合ニ於テ特ニ必要ト認メタルトキハ前項及前條ノ時刻外ト雖モ氣象觀測ヲ爲スベシ

第三條　前二條ノ場合ニ於テ編隊又ハ集團シテ同一行動ヲ取ル船舶ニ在リテハ各其ノ中ノ便宜ノ一隻ニ於テ氣象觀測ヲ爲スヘシ

第四條　前各條ノ場合ニ於テ内地又ハ朝鮮（何レモ離レ島ヲ除ク）ノ海岸ヨリ五十粁以内ヲ航行中ナルトキハ船舶安全法第四條第一項第一號及第二號ニ該當スル船舶ヲ除クノ外本規則ニ定ムル氣象觀測ヲ爲スヲ要セズ

第五條　第一條乃至第三條ノ氣象觀測ヲ爲シタルトキハ直ニ中央氣象臺宛電報ヲ以テ之ヲ報告スベシ

第六條　前條ノ報告ハ中央氣象臺ノ告示スル船舶氣象電報式ニ依ルベシ

附　則

本令ハ昭和十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ信號ニ關スル件

（昭和八年九月朝鮮總督府令第百四號）

朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ハ遞信省ニ於テ編纂スル國際通信書（英和對譯國際通信書信號篇、國際通信書電信篇又ハ英和對譯國際通信篇電信篇）ニ依リ普通信號ヲ爲スベシ

附　則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年朝鮮總督府令第八十六號ハ之ヲ廢止ス

朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ國際信號旗ノ寸法ニ關スル件

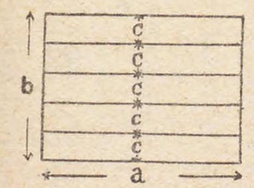
（昭和九年一月三十日朝鮮總督府令第八號）

朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ國際信號旗ノ寸法ニ關スル件左ノ通定ム

昭和八年朝鮮總督府令第百四號（朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ信號ニ關スル件）ニ依リ朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ガ信號ヲ爲ス場合ニ於テ使用スル國際通信書掲載ノ國際信號旗ハ左ノ寸法ノモノノ中何レカニ依ルベシ

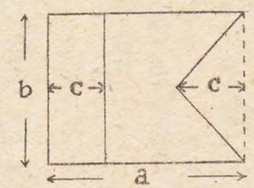
文字旗

C



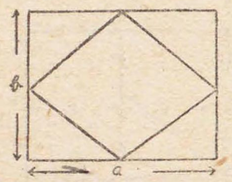
大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	244.0	198.0	39.6
中	168.0	137.0	27.4
小	91.0	76.0	15.2

A 及 B



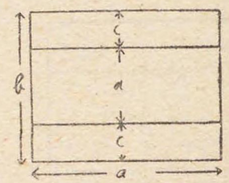
大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	244.0	198.0	81.3
中	168.0	137.0	56.0
小	91.0	76.0	30.3

F



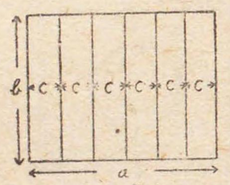
大サ	a 糎	b 糎
大	244.0	198.0
中	168.0	137.0
小	91.0	76.0

D



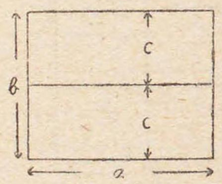
大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎
大	244.0	198.0	49.5	99.0
中	168.0	137.0	34.2	68.6
小	91.0	76.0	19.0	38.0

G



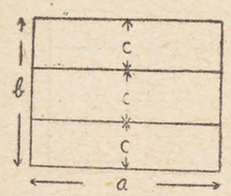
大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	244.0	198.0	40.7
中	168.0	137.0	28.0
小	91.0	76.0	15.2

E



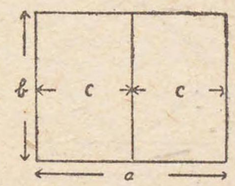
大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	244.0	198.0	99.0
中	168.0	137.0	68.5
小	91.0	76.0	38.0

J



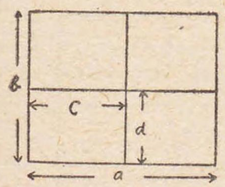
大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	244.0	198.0	66.0
中	168.0	137.0	45.7
小	91.0	76.0	25.3

H及K



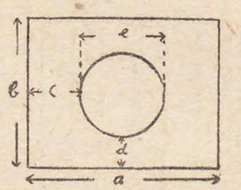
大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	244.0	198.0	122.0
中	168.0	137.0	84.0
小	91.0	76.0	45.5

L及U



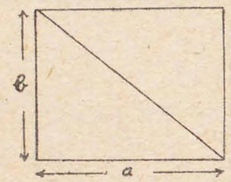
大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎
大	244.0	198.0	122.0	99.0
中	168.0	137.0	84.0	68.5
小	91.0	76.0	45.5	38.0

I



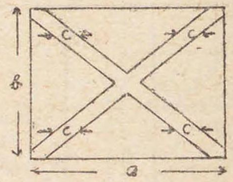
大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎	e 糎
大	244.0	198.0	66.1	43.1	111.8
中	168.0	137.0	45.9	30.2	76.2
小	91.0	76.0	25.2	17.7	40.6

O



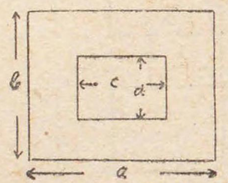
大サ	a 糎	b 糎
大	244.0	198.0
中	168.0	137.0
小	91.0	76.0

M及V



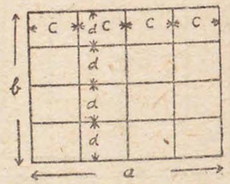
大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	244.0	198.0	33.0
中	168.0	137.0	22.9
小	61.0	76.0	12.7

P及S



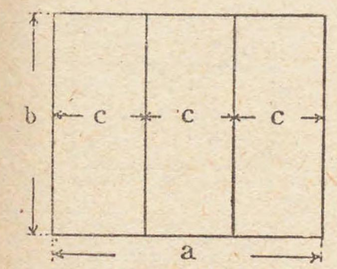
大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎
大	244.0	198.0	122.0	82.6
中	168.0	137.0	84.0	57.2
小	91.0	76.0	45.5	31.8

N



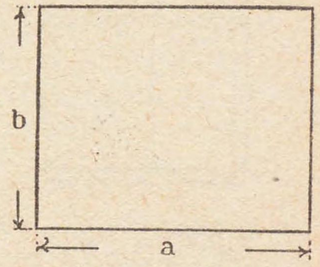
大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎
大	244.0	198.0	61.0	49.5
中	168.0	137.0	42.0	34.3
小	91.0	76.0	22.8	19.0

T



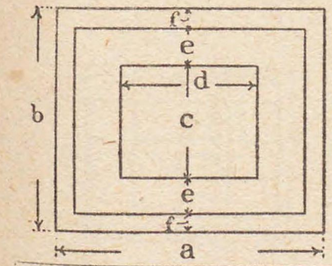
大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	244.0	198.0	81.3
中	168.0	137.0	56.0
小	91.0	76.0	30.3

Q



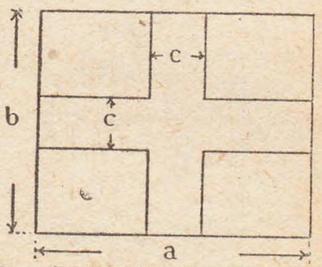
大サ	a 糎	b 糎
大	244.0	198.0
中	168.0	137.0
小	91.0	76.0

W



大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎	e 糎	f 糎
大	244.0	198.0	99.0	121.9	33.0	16.5
中	168.0	137.0	68.4	83.8	22.9	11.4
小	91.0	76.0	37.8	45.7	12.7	6.4

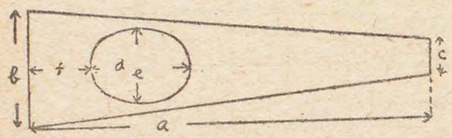
R 及 X



大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	244.0	198.0	49.5
中	168.0	137.0	34.3
小	91.0	76.0	19.1

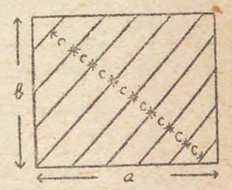
數字旗

1 及 2



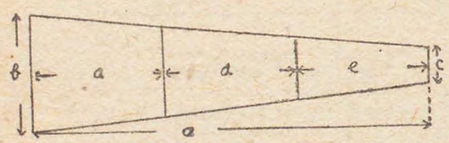
大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎	e 糎	f 糎
大	511.0	152.0	46.0	127.0	101.6	71.1
中	389.0	114.0	31.0	96.5	76.2	55.9
小	359.0	76.0	20.0	64.8	50.8	36.8

Y



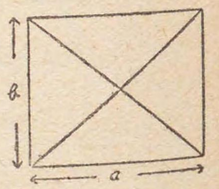
大サ	a 糎	b 糎	c 糎
大	244.0	198.0	33.0
中	168.0	137.0	22.9
小	91.0	76.0	12.7

3 及 0



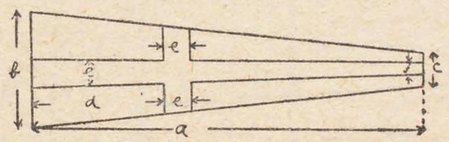
大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎	e 糎
大	511.0	152.0	46.0	167.6	175.8
中	389.0	114.0	31.0	128.3	132.4
小	259.0	76.0	20.0	85.1	88.8

Z



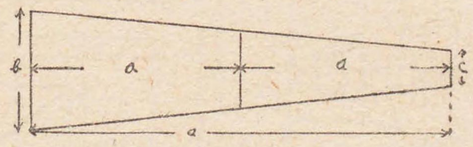
大サ	a 糎	b 糎
大	244.0	198.0
中	168.0	137.0
小	91.0	76.0

4 及 8



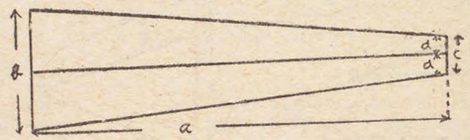
大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎	e 糎	f 糎
大	511.0	152.0	46.0	170.2	36.8	15.3
中	389.0	114.0	31.0	129.5	27.9	10.3
小	259.0	76.0	20.0	86.4	19.1	6.7

5



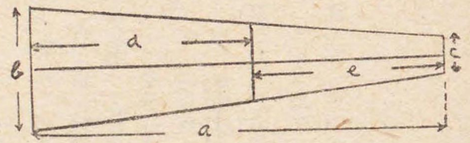
大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎
大	511.0	152.0	46.0	255.5
中	389.0	114.0	31.0	194.5
小	259.0	76.0	20.0	129.5

6 及 7



大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎
大	511.0	152.0	46.0	23.0
中	389.0	114·0	31.0	15.5
小	359.0	76·0	20.0	10.0

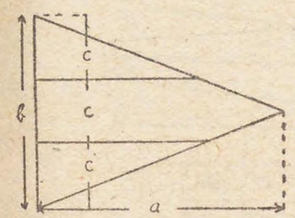
9



大サ	a 糎	b 糎	c 糎	d 糎	e 糎
大	511.0	152.0	46.0	274.3	236.7
中	389.0	114.0	31.0	205.7	183.3
小	259.0	76.0	20.0	137.2	121.8

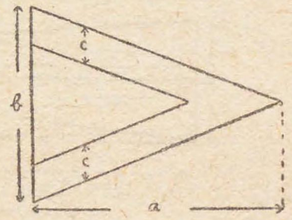
代表旗

第3代表旗



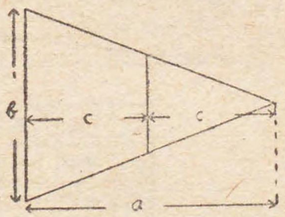
大サ	a糎	b糎	c糎
大	305.0	244.0	81.3
中	229.0	183.0	61.0
小	152.0	122.0	40.7

第1代表旗



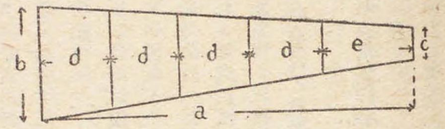
大サ	a糎	b糎	c糎
大	305.0	244.0	48.5
中	229.0	183.0	37.0
小	152.0	122.0	24.0

第2代表旗



大サ	a糎	b糎	c糎
大	305.0	244.0	152.5
中	229.0	183.0	114.5
小	152.0	122.0	76.0

回答旗



大サ	a糎	b糎	c糎	d糎	e糎
大	511.0	152.0	46.0	99.1	114.6
中	389.0	114.0	31.0	76.2	84.2
小	259.0	76.0	20.0	50.8	55.8

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ所持スル萬國船舶信號旗ハ其ノ寸法本令ニ適合セザルモノト雖モ當分ノ内之ヲ使用スルコトヲ得

朝鮮船舶通報規則

（大正四年三月朝鮮總督府令第二十三號）

改正　昭和九年十一月朝鮮總督府令第百八號

第一條　朝鮮内並朝鮮ト内地（小笠原島ヲ除ク）臺灣及樺太間ニ發受スル船舶通報ノ取扱ニ關シテハ本令ニ依ル

第二條　船舶通報ヲ分チテ左ノ三種トス

一　通過報
二　信號報
三　海難報

第三條　通過報トハ特ニ指定スル燈臺ノ附近ヲ通過スル船舶ニ關シ和文電報ヲ以テ請求者ニ左ノ事項ヲ通知スルモノヲ謂フ

一　船名
二　通過時分
三　通過方向

第四條　信號報トハ船舶ノ所有者又ハ賃借人ト船長トノ間

ニ於ケル通信ニシテ特ニ指定スル燈臺ニ於テ其ノ附近ヲ通過スル船舶ト信號ニ依リ送受スルモノヲ謂フ

第四條ノ二 海難報トハ特ニ指定スル電信局所ニ於テ船舶ノ遭難又ハ航行ノ安全ニ關スル無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信（特定人ニ宛ツルモノヲ除ク）ニ依リ知得シタル船舶ノ遭難、委棄又ハ漂流ニ關スル左ノ事項ヲ和文電報ヲ以テ請求者ニ通知スルモノヲ謂フ

一 船名（必要アルトキハ船舶ノ種類、國籍又ハ所有者名ヲ附記ス

二 災厄ノ日時（遭難ノ日時又ハ遭難、委棄若ハ漂流ノ事實ヲ知得シタル日時）

三 船舶ノ位置

四 災厄ノ狀況（遭難、委棄又ハ漂流ノ別及其ノ狀況）

第五條 通過報ノ取扱ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ通過報ヲ配達スベキ電信局所ニ差出スベシ

一 船名及信號符字

二 國籍

三 船舶所有者名（船舶ガ賃貸借中ノモノナルトキハ船舶ノ賃借人名以下之ニ同ジ）

四 燈臺名

五 通過方向

六 請求者（請求者ガ受信者ニ非ザルトキハ併セテ受信者）ノ住所氏名

前項ノ場合ニ於テ請求者ガ船舶ノ所有者又ハ賃借人ニ非ザルトキハ當該船舶ニ於テ第二十條ノ規定ニ依リ國旗及信號符字ヲ揚グル旨ノ船舶ノ所有者又ハ賃借人ノ承諾書ヲ差出スベシ

臨時ニ通過報ノ取扱ヲ受ケントスル者ハ第一項各號ノ事項ノ外船舶ノ豫定通過日時ヲ記載スベシ

第六條 通過報ノ取扱ヲ受ケムトスル者ハ船舶數及請求度數ニ拘ラズ登記料トシテ一會計年度毎ニ貳圓ヲ前條ノ電信局所ニ納付スベシ但シ臨時ニ其ノ取扱ヲ受ケントスル者ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ登記料ハ毎年度分ヲ其ノ前年度ノ末日十五日前迄ニ納付スベシ但シ初年度分ハ請求書提出ノ際之ヲ納付スベシ

第七條 通過報ノ料金左ノ如シ

一 登記料ヲ納付シタル者ニ對シテハ

一通毎ニ

朝鮮内 二十錢

朝鮮ト内地、臺灣及樺太相互間 二十五錢

二 登記料ヲ納付セザル者ニ對シテハ

一通毎ニ

朝鮮内 三十錢

朝鮮ト内地、臺灣及樺太相互間 四十錢

夜間（日沒ヨリ日出迄ヲ謂フ）通過ノ船舶ニ對スル通過報ノ料金ハ前項料金ノ二倍トス、

前二項ノ料金ハ通過報配達ノ際受信者ヨリ之ヲ徵收ス

第八條 第五條第三項ノ請求者豫定通過日時切迫ノ爲電信局所ヨリ燈臺ニ電報ヲ以テ通知ヲ要求スルトキハ其ノ電報ノ料金ヲ前納スベシ

第九條 第五條ノ請求書ニ記載シタル船舶ガ燈臺ノ附近ヲ通過スル場合ト雖該燈臺ニ於テ其ノ通過又ハ船名ヲ知リ得ザルトキハ通過報ヲ發セズ

第十條 信號報ノ取扱ヲ受ケントスル船舶ノ所有者又ハ賃借人ハ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ信號報ヲ配達スベキ電信局所ニ差出スベシ

一 船名及信號符字

二 國籍

三 船舶所有者名

四 燈臺名

五 請求者ノ住所氏名

第十一條 信號報ノ取扱ヲ受ケントスル者ハ船舶數及請求度數ニ拘ラズ登記料トシテ一會計年度毎ニ貳圓ヲ前條ノ電信局所ニ納付スベシ

前項ノ登記料ハ毎年度分ヲ其ノ前年度ノ末日十五日前迄ニ納付スベシ但シ初年度分ハ請求書提出ノ際之ヲ納付スベシ

第十二條 信號報ノ料金左ノ如シ

信號料	一通毎ニ 一圓
電報料又ハ郵便料	實費

船舶ヨリ發スル信號報ノ料金ハ之ヲ受信者ヨリ徵收ス

第十三條 船舶ノ所有者又ハ賃借人信號報ヲ發セントスルトキハ和文電報書法ニ依リ相當事項ヲ賴信紙ニ記載シ之ヲ第十條ノ電信局所ニ提出スベシ但シ之ニ關スル郵便切手ハ賴信紙ニ貼附スベカラズ

信號報ヲ發セントスル場合ニ於テ郵便ニ依リ燈臺ニ送達ヲ望ムトキハ同時ニ其ノ旨ヲ申出ヅベシ此ノ場合ニ於テハ適宜ノ用紙ニ記載スルコトヲ得

第十四條 電信局所ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ指定ノ方法ニ依リ之ヲ燈臺ニ傳送シ燈臺ニ於テ之ヲ船舶ニ通達ス

第十五條 船舶ニ於テ信號報ヲ發セントスルトキハ其ノ旨ヲ燈臺ニ信號スベシ但シ信號報ノ受信者ハ第十一條ノ登記料ヲ納付シタル者ニ限ル

第十六條 燈臺ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ和文電報ヲ以テ之ヲ第十條ノ電信局所ニ傳送シ電信局所ハ之ヲ受信者ニ配達ス

第十七條 燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ十日以内ニ限ル

第十八條 信號報ヲ船舶ニ通達シ能ハザルトキハ之ヲ發信者ニ通知ス

前項ノ場合ニ於テ信號料ハ納付人ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス

第十九條 燈臺ト船舶トノ間ニ於ケル信號ハ晝間ニ限リ之ヲ行ヒ其ノ方法ハ國際通信書ノ定ムル所ニ依ル但シ船舶ノ所有者又ハ賃借人ノ請求ニ依リ通過報ノ夜間信號ハ船舶ノ所有者又ハ賃借人ニ於テ時定信號ヲ定メ豫メ朝鮮總督府遞信局ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

第二十條 通過報又ハ信號報ニ關係ヲ有スル船舶特ニ指定シタル燈臺ニ接近シタルトキハ國旗及信號符字ヲ掲グベシ

第二十條ノ二 海難報ノ取扱ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ海難報ヲ配達スベキ電信局所ニ差出スベシ

一 船名及信號符字
二 國籍
三 船舶所有者名
四 發信電信局所名
五 請求者ノ住所氏名

海難報ノ取扱ヲ受クベキ船舶ハ之ヲ指定セザルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ請求書ニ其ノ旨ヲ記載スベシ

第二十條ノ三 海難報ノ取扱ヲ受ケントスル者ハ船舶數及海難報ノ配達ヲ受ケル度數ニ拘ラズ登記料トシテ一會計年度毎ニ貳圓ヲ前條ノ電信局所ニ納付スベシ

前項ノ登記料ハ毎會計年度分ヲ其ノ前年度ノ末日十五日前迄ニ之ヲ納付スベシ但シ初年度分ハ請求書提出ノ際之ヲ納付スベシ

第二十條ノ四 海難報ノ通知ニ要スル電報ノ料金ハ實費トス

前項ノ料金ハ海難報配達ノ際其ノ受信者ヨリ之ヲ徴收ス

第二十條ノ五 電信局所ニ於テ海難報ニ關スル通知ヲ爲スベキ場合ニ於テ第四條ノ二各號ノ事項ヲ知得シ得ザルトキハ當該事項ノ通知ヲ爲サズ

第二十一條 本令中料金ノ徴收又ハ還付ニ關シ明文ナキ事項ハ總テ電報規則ヲ準用ス

第二十二條 第五條第一項、第十條又ハ第二十條ノ二、第一項ノ各號ニ掲グル事項ニ異動ヲ生ジタルトキ又ハ船舶通報ノ請求者其ノ取扱ヲ能メントスルトキハ請求書ヲ提出シタル電信局所ニ其ノ旨ヲ屆出ヅベシ

受信者住所ノ異動ニ依リ配達電信局所ヲ異ニスルニ至リタルトキハ其ノ船舶通報取扱ノ請求ハ消滅シタルモノト看做ス但シ同一府邑面内ニ於ケル受信者住所ノ異動ニ依リ配達電信局所ヲ異ニスルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 燈臺以外ノ場所ニ於テ通過報又ハ信號報ノ取扱ヲ爲ストキハ本令ヲ準用ス

附則

本令ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮船舶氣象觀測報告規則（朝鮮）

朝鮮船舶氣象觀測報告規則

（昭和十一年九月朝鮮總督府令第八十四號）

改正 昭和十四年朝鮮總督府令第九十六號

第一條 公衆通信ヲ取扱フ無線電信ノ施設ヲ有スル船舶及朝鮮總督ノ特ニ指定スル船舶ハ東經百度ヨリ百八十度ヲ經テ西經百六十度ニ至リ北緯零度ヨリ六十五度ニ至ル海面ニシテ本邦海岸局ノ通信距離内ヲ航行中毎日中央標準時午前六時、正午及午後六時ニ氣象觀測ヲ爲スベシ

第二條 海上氣象特報電報又ハ海上暴風警報電報ニ依リ中心示度七百三十ミリメートル以下ノ颱風ノ中心ヨリ八百キロメートル以内ヲ航行中ナルコトヲ知リタル船舶ハ前條ノ時刻ノ外中央標準時正子、午前三時、午前九時、午後三時及午後九時ニモ氣象觀測ヲ爲スベシ

天候異常ノ場合ニ於テ特ニ必要ト認ムルトキハ前項及前條ノ時刻外ト雖モ氣象觀測ヲ爲スベシ

第三條 前二條ノ場合ニ於テ編隊又ハ集團シテ航行中ノ船舶ニ在リテハ各其ノ中ノ便宜ノ一隻ニ於テ氣象觀測ヲ爲スベシ

第四條 內地又ハ朝鮮（何レモ離島ヲ除ク）ノ海岸ヨリ五十キロメートル以內ヲ航行中ノ船舶ハ本令ニ依ル氣象觀測ヲ爲スコトヲ要セズ

第五條 第一條乃至第三條ノ規定ニ依リ氣象觀測ヲ爲シタル船舶ハ直ニ朝鮮總督府氣象臺及中央氣象臺宛電報ニ依リ之ヲ報告スベシ

第六條 前條ノ報告ハ中央氣象臺ノ告示シタル船舶氣象電報式ニ依ルベシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國際通信書使用方ノ件

（昭和八年十一月 臺灣總督府令第百十四號）

日本船舶ハ左ノ國際通信書（國際通信書若ハ英和對照國際通信書）ヲ使用スベシ

國際通信書　信號編
國際通信書　電信編
英和對譯國際通信書　信號編
英和對譯國際通信書　電信編

附則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

國際信號旗ノ寸法ニ關スル件

（昭和九年二月 臺灣總督府令第二號）

國際通信書掲載ノ國際信號旗ノ寸法ニ關シテハ昭和八年遞信省令第五十一號ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ使用スル萬國船舶信號旗ハ其寸法本令ニ適合セザルモノト雖モ當分ノ內之ヲ使用スルコトヲ得

國際通信書使用方ノ件

（昭和八年十一月 關東廳令第五十四號）

關東州船籍令ニ依ル日本船舶ハ遞信省ニ於テ編纂スル左ノ國際通信書ニ依リ普通信號ヲ爲スベシ

國際通信書　信號篇
國際通信書　電信篇
英和對譯國際通信書　信號篇
英和對譯國際通信書　電信篇

附則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

國際信號旗ノ寸法ニ關スル件

（昭和九年四月 關東廳令第十九號）

昭和八年關東廳令第五十四號ニ依リ關東州船籍令ニ依ル日本船舶ガ信號ヲ爲ス場合ニ於テ使用スル國際通信書掲載ノ國際信號旗ノ寸法ニ關シテハ昭和八年遞信省令第五十一號ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ使用スル萬國船舶信號旗ハ其ノ寸法本令ニ適合セザルモノト雖モ當分ノ內之ヲ使用スルコトヲ得

國際通信書使用方ノ件（臺灣）・國際信號旗ノ寸法ニ關スル件（臺灣）・國際通信書使用方ノ件（關東州）・國際信號旗ノ寸法ニ關スル件（關東州）

第三章　航路標識

航路標識條例

（明治二十一年十月　勅令第六十七號）

第一條　航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲メ政府ニ於テ之ヲ設置スルモノトス

第二條　土地ノ形狀又ハ情況ニ由リテハ地方稅又ハ區町村費ヲ以テ航路標識ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ地方長官ニ於テ遞信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

從來私設ノ航路標識ハ免許年限間之ヲ繼續スルコトヲ得遞信大臣ニ於テ前二項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト認メタルトキハ之ヲ變更又ハ撤去セシムルコトヲ得

政府ニ於テ直接管理ヲ必要トスルトキハ相當ノ價格ヲ以テ第一項、第二項ノ航路標識ヲ買上ルコトヲ得

第三條　航路標識ヲ損壞シ又ハ移轉シ又ハ其性質ヲ變更シ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲナシ又ハ遞信大臣ノ指定シタル區域內ニ於テ航路標識ノ燈光若クハ警號ト誤認シ易キ所爲ヲナシタル者ハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條　航路標識ニ船筏其他ノ物ヲ繫ギ又ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

公設航路標識業務規則

（昭和七年八月　遞信省令第二十七號）

改正　昭和十二年　遞信省令第九十四號

第一條　道府縣又ハ市町村ノ管理スル航路標識（以下公設航路標識ト稱ス）ノ業務ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外本令ニ依リ之ヲ執行スヘシ

第二條　公設航路標識ニ於テハ晝標（燈火ヲ點セサル航路標識ニシテ霧信號ニ非サルモノヲ謂フ以下是ニ倣フ）ヲ除クノ外燈臺長及一名以上ノ燈臺員ヲ置キ當該航路標識ノ業務ヲ執行セシムヘシ但シ使用機器ノ種類又ハ建設若ハ碇置場所ノ關係等ニ依リ燈臺局ノ認可ヲ受ケ燈臺長一名ノミヲ置キ又ハ附近航路標識ノ管理ニ屬セシムルコト

ヲ得

第三條　燈臺長ハ當該航路標識ノ從業員ヲ監督シ諸般ノ事務ヲ掌理ス

燈臺長ハ燈臺局又ハ同局ノ指定スル燈臺ニ於テ航路標識業務ノ傳習ヲ受ケ成業シタルモノナルコトヲ要ス但シ同局ニ於テ特ニ其ノ必要ナキモノト認定シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　前條第二項ニ定ムル航路標識業務ノ傳習ヲ受ケ成業シタル者ニハ適任證ヲ付與ス

前條第二項但書ニ定ムル認定ヲ受ケタル者ニハ認定證ヲ付與ス

適任證及認定證ノ書式ハ別表ニ依ル

第五條　第三條ノ傳習期間ハ一ケ月以上三ケ月以内トス但シ時宜ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ

第六條　傳習ニ要スル一切ノ費用ハ本人若ハ當該道府縣市町村之ヲ負擔スルモノトス

第七條　燈臺長、燈臺員又ハ看視人ヲ採用シタルトキハ遲滯ナク燈臺局ニ屆出ツヘシ之ヲ解免シタルトキ亦同シ

前項ノ採用屆ニハ履歴書ノ寫ヲ添付スヘシ燈臺長ニ付テハ適任證若ハ認定證ノ寫ヲモ添付スヘシ

第八條　公設航路標識用品中左ニ掲クルモノハ燈臺局ノ檢定又ハ認可ヲ經タルモノニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

燈籠、燈器（但シ電球ヲ除ク）、照光器、回轉裝置、點滅裝置、瓦斯發生裝置、浮標體、霧信號用機器

前項ニ依リ檢定又ハ認可ヲ經タル機器ニシテ其ノ要部ヲ修繕シ又ハ之ニ加工シタルトキ亦前項ニ同シ

第九條　公設航路標識中夜標（燈火ヲ點スル航路標識ヲ謂フ）ニハ豫備燈器一組ヲ備付クヘシ但シ同種ノ機器ヲ用ウル二基以上ノ航路標識ヲ管理スル場合ニ在リテハ二基ニ對シ豫備燈器一組ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

電燈ヲ光源トスル公設航路標識ニハ非常用トシテ適當ナル燈器ヲ備付クヘシ

第十條　公設航路標識業務ノ開始、廢止、休止又ハ標識異變ノ發生及復舊ハ其ノ都度燈臺局ヘ電報スヘシ

第十一條　公設航路標識外部ノ定色塗裝ハ褪色又ハ剝脫ノ爲認識困難トナラサル前ニ施行スヘシ

第十二條　浮標ハ常時其ノ位置及現狀ニ注意シ必要ニ應シ復舊交換又ハ修補スヘシ

第十三條　航路標識業務ニ關シ本令ニ規定ナキ事項ハ總テ燈臺局及同局派遣視察官吏ノ指示スル處ニ依ルヘシ

附　則

本令ハ昭和七年八月二十日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十二年三月遞信省令第三號北海道廳府縣及區町村立航路標識看守條規ハ之ヲ廢止ス

從前ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル證書ハ本令施行ノ日ヨリ六月以内ニ所持ノ證書ニ履歴書及戸籍抄本ヲ添付燈臺局ヘ提出シ本令ノ定ムル證書ノ交付ヲ受クヘシ

附　則（昭和十二年遞信省令第九十四號）

本令ハ昭年十二年十月二十七日ヨリ之ヲ適用ス

從前ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル適任證及認定證ハ本令ニ依リ交付ヲ受ケタルモノト看做ス

（別表ノ一）

第　號　適　任　證

族籍　氏　名

年　月　日生

右者當局（當局所管何燈臺）ニ於テ航路標識業務傳習ヲ卒ヘタルヲ以テ何縣（道府市町村）立何燈臺（標、竿）燈臺長ニ適任ノ者ナルコトヲ證ス

年　月　日　燈臺局印

（別表ノ二）

第　號　認　定　證

族籍　氏　名

年　月　日生

右者何縣（道府市町村）立何燈臺（標、竿）燈臺長トシテ任用シ得ル者ト認定ス

年　月　日　燈臺局印

府縣區町村費ヲ以テ航路標識設置變更等具申及報告方ノ件

（明治二十一年十月 遞信省訓令第十號）

第一條 航路標識條例第二條第一項ニ依リ地方稅又ハ區町村費ヲ以テ航路標識ヲ設置セントシ地方長官ニ於テ遞信大臣ノ許可ヲ請フトキハ左ノ書類ヲ具スヘシ

一 航路標識設置位置及其近傍實測地圖

二 航路標識圖面及其構造方法並費用調書

三 一箇年間入港スヘキ日本形船西洋形船員數及其石數噸數並其最大船舶石數又ハ噸數概算調書

其位置ヲ變更セントスルトキハ第一項ノ書類又其性質ヲ變更セントスルトキハ第二項ノ書類ヲ具シ遞信大臣ニ經伺ノ上之ヲ變更スヘシ

第二條 前條航路標識ヲ設置シ若ハ其位置又ハ性質ヲ變更シ或ハ之ヲ停止若ハ廢止スルトキハ當省ヨリ告示スヘキヲ以テ地方長官ハ豫メ其ノ實施期限ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ

第三條 船舶繫留等ノ爲メ棧橋又ハ埠頭ニ設置スル標識ハ航路標識ト誤認シ易キ虞アルヲ以テ其設置變更等ハ總テ地方長官ニ於テ遞信大臣ニ經伺ノ上若シ航路ニ障碍アリト認ムルトキハ變更又ハ撤去ヲ命スヘキ旨ヲ以テ之ヲ許可スヘシ

私設航路標識取締條規

（明治二十二年三月 遞信省令第二號）

從來私設ノ航路標識取締ニ關シ左ノ條規ヲ定ム

第一條 私設航路標識運設人ニ於テ標識ノ位置又ハ性質ヲ變更セント欲スルトキハ其事由ヲ具シ管轄廳ヲ經由シテ遞信大臣ニ願出スヘシ

第二條 前條航路標識ノ位置又ハ性質ヲ變更シ或ハ之ヲ停止若ハ廢止セントスルトキハ其實施期限ヲ定メ二箇月以前管轄廳ヲ經由シテ遞信大臣ニ屆出スヘシ

第三條 私設航路標識運設人ハ標識看守上ニ付遞信省燈臺局又ハ同局派遣ノ視察官吏ヨリ教示スルコトアルトキハ之ヲ遵守スヘシ

第四條 私設航路標識ニシテ燈費ヲ徵收スルモノハ建設人ニ於テ帳簿ヲ備ヘ其徵收額及維持費支出額ヲ記載シ置キ遞信省燈臺局派遣視察官吏ノ檢閱ヲ受クベシ

私築燈標ノ燈費ニ關スル件

（明治十九年六月 遞信省令第十八號）

私築燈標ノ燈費ハ海軍艦船及燈臺視察船ヨリ取立ルヲ得ス

朝鮮航路標識規則

（大正七年十月 朝鮮總督府令第百號）

改正 昭和七年三月 朝鮮總督府令第三十號

第一條 朝鮮ニ於ケル航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲府縣區町村費ヲ以テ航路標識設置變更等具申及報告方ノ件・私設航路標識取締條規・私築燈標ノ燈費ニ關スル件・朝鮮航路標識規則（朝鮮）ヲ開始セムトスルトキハ其ノ期日十四日前ニ之ヲ朝鮮總督府ニ於テ之ヲ設置ス

第二條 土地ノ狀況ニ因リ公共團體又ハ私人ノ費用ヲ以テ航路標識ヲ設置スルコトヲ得

前項ニ依リ航路標識ヲ設置セムトスルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クベシ設置者ヲ變更シ又ハ航路標識ノ位置若ハ性質ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三條 航路標識ノ設置ノ許可申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一 位置ヲ記載シタル書面

二 構造方法書

三 工事費概算書

四 工事設計圖

五 位置及附近ノ狀況ヲ示セル圖面

六 最近一年間ニ於ケル通過又ハ出入ノ船舶數調書

七 管理及維持方法書

航路標識ノ位置變更ノ許可申請書ニハ前項第一號及第五號ノ書類及圖面ヲ、性質變更ノ許可申請書ニハ第二號乃至第四號及第七號ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

第四條 航路標識ノ設置又ハ變更ノ許可ヲ受ケタル者併用ヲ開始セムトスルトキハ其ノ期日十四日前ニ之ヲ朝鮮總

督府遞信局長ニ屆出ツヘシ

第五條　第二條ノ航路標識ヲ停止又ハ廢止セムトスルトキハ其ノ期日ヲ定メ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第六條　第二條ノ航路標識ノ看守ニ從事セシムル爲設置者ハ其ノ費用ヲ以テ看守員ヲ置クヘシ

前項ノ航路標識看守員ヲ採用シタルトキハ其ノ履歷書ヲ具シ朝鮮總督府遞信局長ニ屆出ツヘシ

第七條　第二條ノ航路標識ニ於テ使用スル燈油其ノ他點燈用ノ消耗品ニ付テハ豫メ朝鮮總督府遞信局長ノ承認ヲ受クヘシ

第八條　朝鮮總督ニ於テ第二條ノ航路標識不完全ニシテ危險ノ虞アリト認ムルトキハ其ノ廢止修理其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトアルヘシ

朝鮮總督府遞信局長ハ第二條ノ航路標識ニ付必要アリト認ムルトキハ檢査官ヲ派遣シテ檢査ヲ爲サシメ又ハ設置者ニ對シテ報告書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第九條　航路標識ヲ損壞シ若ハ移轉シ又ハ其ノ性質ヲ變更シ又ハ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲ爲シ又ハ朝鮮總督ノ指定シタル區域內ニ於テ航路標識ノ燈光若ハ警號ト誤認シ易キ所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　航路標識ニ船筏其ノ他ノ物ヲ繫留シ若ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ若ハ之ヲ汚穢シタルモノハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ大正七年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣航路標識規則

（明治三十一年五月
臺灣總督府令第二十六號）

第一條　臺灣島及澎湖列島ニ於ケル航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲臺灣總督府ニ於テ之ヲ設置スルモノトス

第二條　土地ノ形狀又ハ情況ニ由リ一個人又ハ公共團體ノ費用ヲ以テ航路標識ヲ設置セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ但船舶ニ對シ其費用ヲ徵收スルコトヲ許サス

臺灣總督ニ於テ前項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト認メタルトキハ之ヲ變更シ又ハ撤去セシムルコトアルヘシ

臺灣總督府ニ於テ直接管理ヲ必要トスルトキハ相當ノ價

格ヲ以テ前項ノ航路標識ヲ買上ルコトアルヘシ

第三條　航路標識ヲ損壞シ又ハ移轉シ又ハ其性質ヲ變更シ又ハ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲ爲シ又ハ臺灣總督ノ指定シタル區域內ニ於テ航路標識ノ燈光若ハ警號ト誤認シ易キ所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條　航路標識ニ船筏其ノ他ノ物ヲ繫キ又ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

關東廳航路標識使用料規則

（大正十四年十二月
關東廳令第六十九號）
改正　昭和八年十月
關東廳令第五十二號

第一條　船舶關東州外ノ港ニ入港シタルトキハ本令ニ依リ航路標識使用料ヲ徵收ス但シ內外國艦艇及日本官公署ノ所屬船舶ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　航路標識使用料ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ徵收ス但シ一噸又ハ一石未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

一　噸數船

登簿噸數五十噸未滿ノ船舶　金五十錢

登簿噸數五十噸以上ノ船舶　一噸ニ付金一錢

二　石數船

積石數百石未滿ノ船舶　金五十錢

積石數二百石未滿ノ船舶　金一圓

積石數二百石以上ノ船舶　金二圓

關東州ニ船簿ヲ有スル登簿噸數二十噸未滿ノ汽船及積石數五百石未滿ノ帆船ニシテ一月二回以上同一港ニ入港スルトキハ三回以後ノ入港ニ付テハ航路標識使用料ノ徵收ヲ免除ス

第三條　關東州ト測度方法ヲ異ニスル船舶ノ積量ハ關東州ニ於テ定ムル測度法ニ依リ之ヲ換算ス

第四條　海難其ノ他ノ事故ニ因リ入港シタル船舶ニシテ關東廳海務局長又ハ同支局長ニ於テ事情已ムヲ得サルモノト認メタルトキハ航路標識使用料ハ之ヲ免除ス

第五條　航路標識使用料ハ關東廳海務局長又ハ同支局長ヲシテ之ヲ徵收セシム

第六條　航路標識使用料ハ船舶ノ船長之ヲ納入スヘシ

第七條 航路標識使用料ノ遺脱ヲ圖リ又ハ納付ヲ怠リ出航シタル船舶ノ船長ハ使用料金額ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ罰金額二百圓ヲ超ユルトキハ二百圓トシ科料額十圓ヲ下ルトキハ十圓トス

附　則

本令ハ大正十五年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ當分ノ内大連港旅順港及普蘭店港以外ニ入港シタル船舶ニハ之ヲ適用セス

南洋群島航路標識規則

（大正十四年十月　南洋廳令第十三號）

第一條 南洋群島ニ於ケル航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲南洋廳ニ於テ之ヲ設置ス

第二條 土地ノ狀況ニ依リ官以外ノ者ノ費用ヲ以テ航路標識ヲ設置セムトスルトキハ所轄支廳長ヲ經由シテ南洋廳長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ位置又ハ性質ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

南洋廳長官ニ於テ前項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト認メタルトキハ之ヲ變更シ又ハ撤去セシムルコトアルヘシ

第三條 前條ノ航路標識ヲ停止又ハ廢止セムトスルトキハ其ノ期日ヲ定メ所轄支廳長ヲ經由シテ南洋廳長官ニ屆出ツヘシ

第四條 航路標識ヲ損壞シ若ハ移轉シ又其ノ性質ヲ變更シ又ハ之ヲ蔽遮スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ南洋廳長官ノ指定シタル區域内ニ於テ航路標識ノ燈光ト誤認シ易キ所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 航路標識ニ船筏其ノ他ノ物ヲ繫キ若ハ衝突セシメ又ハ攀踏シ若ハ之ヲ汚穢シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四章　水難救護

水難救護法

（明治三十二年三月　法律第九十五號）
改正　明治三十三年三月　法律第六十六號

第一章　遭難船舶

第一條 遭難船舶救護ノ事務ハ最初ニ事件ヲ認知シタル市町村長之ヲ行フ

第二條 遭難船舶アルコトヲ發見シタル者ハ遲滯ナク最近地ノ市町村長又ハ警察官吏ニ報告スヘシ

警察官吏ニ於テ報告ニ接シタルトキハ市町村長ニ通知スヘシ

第三條 遭難船舶アルコトヲ認知シタルトキハ市町村長ハ直ニ現場ニ臨ミ救護ニ必要ナル處分ヲ爲スヘシ

第四條 警察官吏ハ救護ノ事務ニ關シ市町村長ヲ助ケ市町村長現場ニ在ラサルトキハ之ニ代リ其ノ職務ヲ執行スヘシ

第五條 救護ハ船長ノ意ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ船長ノ人命ヲ保護スル手段ヲ不充分ナリト認メ又ハ船長ニ惡意アリト認メタル場合ニハ之ヲ適用セス

第六條 市町村長ハ救護ノ爲人ヲ招集シ船舶車馬其ノ他ノ物件ヲ徵用シ又ハ他人ノ所有地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ招集セラレタル者ハ市町村長ノ指揮ニ從ヒ救護ニ從事スヘシ

第七條 市町村長ハ救護ニ際シ必要ナラスト認ムル者、妨害ヲ爲シタル者又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者ヲ退去セシムルコトヲ得

市町村長ハ救護ニ際シ暴行ヲ爲シタル者ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

市町村長前項ノ處分ヲ爲スニ當リ助力ヲ命セラレタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 市町村長ハ救護ニ際シ遭難物件ヲ隱匿シタル者ア

リト認ムルトキハ其ノ物件ヲ捜索シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第九條 市町村長ハ遭難船舶其ノ他ノ救上ケタル物件及前條ノ規定ニ依リ差押ヘタル物件ヲ保管スヘシ

前項ノ物件中ニ郵便物アルトキハ市町村長ハ遲滯ナク最近ノ郵便局ニ引渡スヘシ

第十條 船長ハ遭難後遲滯ナク船難報告書ヲ作リ市町村長ニ差出スヘシ但シ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セサル船舶又ハ湖川港灣ノミヲ限リ航行スル船舶ノ遭難ニ付テハ此ノ限ニアラス

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査シ相當ト認ムルトキハ船長ノ請求ニ依リ認證ヲ與フヘシ

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査スル爲船内書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其ノ他船中ニ在リタル者ヲ呼出シ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十一條 市町村長ハ救上ケタル物件左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スト認メタルトキハ之ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ

一 物件久ニ耐ヘ難キコト又ハ著シク其ノ價格ヲ減スル虞アルコト

二 爆發物、容易ニ燃燒スヘキ物又ハ其ノ他ノ物件ニシテ保管上危險ノ虞アルコト

三 保管ノ費用其ノ物件ノ價格ニ超過シ又ハ其ノ價格ニ比シ不相當ナルコト

前項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲サントスル場合ニ於テ船長其ノ地ニ在ルトキハ市町村長ハ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ市町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ供シテ物件ノ引渡ヲ請求セサルトキハ公賣ニ付スヘキ旨ヲ船長ニ告知スヘシ

遭難船舶ノ所在地船籍港ナルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ

船長又ハ船舶所有者ニ於テ第二項ノ規定ニ依リ物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ公賣ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 救護ニ關係シタル者ハ市町村長ヨリ救護費用ノ支給ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ左ニ掲クル者ニハ之ヲ適用セス

一 救護セラレタル船舶ノ所有者又ハ其ノ船舶ノ船員

二 故意、懈怠又ハ過失ニ因リ遭難ヲ惹起シタル者

三 第五條ノ規定ニ違反シテ救護シタル者

四 救護ニ際シ妨害ヲ爲シ又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者

五 遭難物件ヲ持去リ又ハ其ノ引渡ヲ拒ミタル者

第十三條 左ニ掲クルモノヲ以テ救護費用トス

一 救護ニ關係シタル者ノ勞務ノ報酬

二 第六條ノ規定ニ依ル土地ノ使用又ハ物件ノ徵用ニ對スル補償

三 救上ケタル物件ノ運搬、保管又ハ公賣ニ要シタル費用

第十四條 救護費用ノ支給ヲ受ケントスル者ハ市町村長ノ指定スル期間内ニ其ノ金額ヲ申立ツヘシ

前項ノ手續ヲ爲ササル者ハ救護費用ノ支給ヲ受クコトヲ得ス

第十五條 救護費用ノ金額ハ命令ノ規定ニ依リ市町村長之ヲ定ム

市町村長ハ救護費用ノ金額ヲ船長ニ告知シ期間ヲ定メテ之ヲ納付セシムヘシ

遭難船舶ノ所在地船籍港ナルトキ又ハ船長在ラサルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ

第十六條 船長又ハ船舶所有者ハ救護費用ヲ納付シテ市町村長ノ保管ニ係ル金錢其ノ他ノ物件ノ引渡ヲ受クヘシ

船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ供スルトキハ前項ノ金錢其ノ他ノ物件ノ全部若クハ一部ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

左ニ掲クル物件ハ前二項ノ規定ニ拘ラス其ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

一 船員ノ所持品

二 船員及旅客ノ食料

三 運送賃ヲ支拂フコトナクシテ船中ニ携帶スル旅客ノ手荷物

四 第十七條第二項ニ掲クル物件

市町村長ノ保管スル船舶又ハ積荷ヲ賣却シ抵當ト爲シ又ハ質入セントスルトキハ市町村長ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ市町村長必要アリト認ムルトキハ之ニ立會フヘシ

前項ノ處分ニ因リ取得シタル金錢其ノ他ノ物件ハ市町村長之ヲ保管スヘシ

市町村長ニ於テ第十一條又ハ前項ノ規定ニ依リ金錢ヲ保管スル場合ニ其ノ金錢救護費用ノ金額ニ達シタルトキハ直ニ其ノ金錢ヲ以テ救護費用ヲ支辨シ其ノ殘額ハ保管ニ係ル他ノ物件ト共ニ船長又ハ船舶所有者ニ引渡スヘシ

第十七條 船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ定メタル期間内ニ救護費用ヲ納付セサルトキハ市長村長ハ保管ノ

物件又ハ擔保トシテ差出シタル物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ

前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ公賣ヲ爲スモ其ノ代金ヲ以テ公賣ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタル物件ニハ之ヲ適用セス

第十八條 市町村長ハ納付ヲ受ケタル金額又ハ其保管ニ係ル金錢ヲ以テ救護費用ヲ支辨スヘシ

第十九條 救護其ノ效ヲ奏セサルトキハ救護費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

船長又ハ船舶所有者救護費用ヲ納付セサル場合ニ於テ第十七條ニ定ムル手續ヲ爲シタル後市町村長ノ保管ニ係ル金錢ヲ以テ救護費用ヲ支辨スルニ足ラサルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給シ殘金アルトキハ船長又ハ船舶所有者ニ之ヲ還付ス

第二十條 本章ノ規定ハ市町村長ノ招集ヲ待タスシテ救護ニ從事シタル者ニ亦之ヲ適用ス但シ市町村長ニ於テ救護ニ干與セサルトキハ此ノ限ニアラス

第二十一條 本章中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス

第二十二條 第一條乃至第四條第五條第一項、第六條乃至第九條、第十二條乃至第十四條、第十五條第一項第二項、第十八條、第十九條第一項、第二十條及第二十一條ノ規定ハ海軍艦船其ノ他官廳ノ所有スル船舶ニ亦之ヲ準用ス

第二十三條 本章ノ規定ハ條約ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第二章　漂流物及沈沒品

第二十四條 漂流物又ハ沈沒品ヲ拾得シタル者ハ遲滯ナク之ヲ市町村長ニ引渡スヘシ但シ其ノ物件ノ所有者分明ナル場合ニ於テハ拾得ノ日ヨリ七日以內ニ限リ直ニ其ノ所有者ニ引渡スコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ拾得者ハ所有者ヨリ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ十分ノ一、沈沒品ニ在リテハ其物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額以內ノ報酬ヲ受クルコトヲ得

第二十五條 市町村長ハ引渡ヲ受ケタル物件ヲ保管スヘシ

市町村長ハ前項ノ物件ヲ所有者ニ引渡スヘキコトヲ公告スヘシ但シ其ノ所有者知レタルトキハ公告スヘキ事項ヲ直ニ其ノ所有者ニ告知スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ヲ須

キサルコトヲ得

第二十六條 第十一條第一項ノ規定ハ漂流物及沈沒品ニ之ヲ準用ス

第二十七條 市町村長ニ於テ第二十五條ノ公告又ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一箇年以內ニ限リ所有者ハ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其物件ノ價格ノ十分ノ一、沒沈品ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額並公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用ヲ市町村長ニ納付シテ物件ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ拾得者ニ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其物件ノ價格ノ十分ノ一、沒沈品ニ在リテハ其物件ノ價格ハ市町村長之ヲ定ム但シ鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシムルコトヲ得

第二十八條 前條ノ期間內ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求セサルトキ又ハ物件ノ引渡ヲ請求セサル意思ヲ表示シタルトキハ市町村長ハ期間ヲ定メ其ノ期間內ニ物件ノ引渡ヲ受クヘキコトヲ拾得者ニ告知スヘシ

拾得者ハ前項ノ期間內ニ公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用ヲ市町村長ニ納付シ物件ノ引渡ヲ受クルニ因リテ其ノ所有權ヲ取得ス

拾得者ニ於テ前項ノ期間內ニ物件ノ引渡ヲ受ケサルトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公賣シ其ノ代金ヨリ前項ノ費用ヲ控除スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ノ取得トシ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給ス

第二十九條 警察官吏ニ於テ航路、錨地又ハ建造物ノ障害ヲ爲スト認メタル漂流物又ハ沈沒品ヲ取除キタル場合ニ於テハ警察官吏ハ其ノ物件ヲ市町村長ニ引渡スヘシ

前項ニ依リ市町村長ニ於テ引渡ヲ受ケタル物件ニ付テハ第十一條第一項及第二十五條第二項ノ規定ヲ適用ス

第三十條 前條ニ依リ公告若ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一箇年以內ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ市町村長ハ所有者ヲシテ取除、保管及公告ニ要シタル費用ヲ納付セシメ之ニ其ノ物件ヲ引渡スヘシ

前項ノ期間內ニ物件ノ引渡ヲ請求スル者ナキトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ以テ取除、保管、公告及公賣ニ要シタル費用ヲ支辨スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ノ取得トシ不足アルトキハ國庫ヨリ之

ヲ補給ス

第三章　罰　則

第三十一條　遭難船舶救護ノ場合ニ於テ左ノ各號ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　正當ノ理由ナクシテ市町村長ノ招集ニ應セス又ハ物件ノ徵用若クハ土地ノ使用ヲ拒ミタル者

二　第六條第二項ノ規定ニ違反シタル者

三　第七條第三項ノ規定ニ違反シタル者

第三十二條　遭難船舶救護ノ場合ニ於テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十三條　第十條第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ怠リタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　詐僞ノ所爲ヲ以テ船難報告書ニ認證ヲ受ケタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條ノ一　刑法第三百八十五條及第三百八十七條ノ規定ハ沈沒品ニ亦之ヲ適用ス

第三十五條ノ二　漂流ノ物件ニ對シ現存スル記號ヲ塗抹毀損シ若ハ新ニ附記押捺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第三十六條　此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十二年七月勅令第三五七號ヲ以テ同年八月四日ヨリ施行）

第三十七條　明治三年二月二十九日（不開港場規則難船救助）心得方條目、明治四年四月二十二日外國船漂著ノ節取扱方、明治八年第六十六號布告及明治十年第五十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十八條　此ノ法律施行ノ際明治八年第六十六號布告ニ依リ處分中ノ事件ニ付テハ其ノ處分ヲ終ルマテ該布告ノ規定ヲ適用ス

第三十九條　此ノ法律ニ於ケル市町村長ノ事務ハ東京市、京都市及大阪市ニ於テハ區長之ヲ行ヒ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

水難救護法等ヲ樺太ニ施行スルノ件

（明治四十三年三月勅令第二十七號）

第一條　左ニ揭グル法律ハ之ヲ樺太ニ施行ス

一　古物商取締法

一　遺失物法

一　水難救護法

一　傳染病豫防法但シ費用ノ負擔補助及市町村市町村會ニ關スル規定ヲ除ク

一　種痘法但シ第五條ヲ除ク

一　明治三十三年法律第十五號

第二條　水難救護法及種痘法中市町村長ノ職務ハ樺太廳支廳出張所長之ヲ行フ

附　則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

水難救護法施行細則

（明治三十二年七月遞信省令第三十五號）

第一章　遭難船舶

第一條　水難救護法第十條ニ定メタル船難報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印スヘシ

一　船舶ノ種類及名稱

二　總噸數又ハ積石數

三　船籍港

四　船舶所有者ノ氏名又ハ名稱

五　發航港、寄航港、到達港及遭難ノ場所

六　遭難及救護ノ顚末

七　船舶ノ損害

八　死傷者ノ氏名

九　減失若クハ毀損シタル積荷ノ種類、重量若クハ容積其荷造ノ種類、箇數、記號及傭船者若クハ荷造人ノ氏名若クハ名稱

第二條　船難報告書ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又

ハ削除シタルトキハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ船長之ニ認印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ樣字體ヲ存スヘシ

第三條 船長船難報告書ニ認證ヲ受ケントスルトキハ該報告書二通ヲ差出スヘシ

第四條 市町村長船難報告書ニ記載シタル事實ヲ正當ナリト認メタルトキハ其一通ノ末尾ニ記載事項ノ相違ナキコトヲ認證スル旨及年月日ヲ附記シ署名捺印ノ上船長ニ還付シ他ノ一通ハ當該役場ニ保存スヘシ

第五條 市町村長ニ於テ水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ指定スル期間ハ救護ノ終リタル後直ニ救護人ヲ集メテ之ニ告知シ又ハ遲滯ナク一定ノ場所ニ之ヲ掲示スルモノトス

第六條 水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ救護費用ノ金額ヲ申立ツルニハ書面又ハ口頭ヲ以テ其金額及之ヲ算出シタル事由ヲ示スヘシ

第七條 市町村長ハ地方習慣上ノ賃錢ヲ基礎トシ各人ノ爲シタル勞務ノ種類、時間ノ長短、危險ノ程度及被害ノ大小ヲ斟酌シテ勞務ノ報酬ヲ定ムヘシ

地方習慣上ノ賃錢ハ市町村長ニ於テ豫メ之ヲ定メ當該地方長官ノ認可ヲ受ケ其金額ヲ定率ト爲スヘシ

市町村長ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ前項ノ定率ヲ變更スルコトヲ得

第八條 海軍艦船其他官廳ノ所有スル船舶ノ救護費用ヲ請求セントスルトキハ市町村長ハ救護費用計算書ヲ調製シ之ヲ其艦長又ハ船長ニ差出スヘシ

第九條 船長、船舶所有者其他利害關係人ハ救護費用ノ算定ニ關シ市町村長ノ調製シタル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第二章 漂流物及沈没品

第十條 水難救護法第二十四條第一項ノ市長村長トハ拾得地ノ市町村長ヲ謂ヒ航海中ニ拾得シタル場合ニ在リテハ其後最初ニ到著シタル地ノ市町村長ヲ謂フ

第十一條 水難救護法第二十五條第二項ニ定メタル公告ハ物件ノ品質及價格ニ準シ掲示又ハ新聞紙掲載其他市町村長ノ適當ト認ムル方法ニ依リ品名、數量、拾得ノ日時及場所ヲ明示スヘシ

第十二條 水難救護法第二十七條第一項ノ規定ニ依リ所有者ニ於テ物件ノ引渡ヲ申請スルトキハ其物件ニ對スル自己ノ權利ヲ市町村長ニ疏明スヘシ

第三章 公賣

第十三條 水難救護法第十一條第一項、第十七條第一項、第二十八條第三項及第三十條第二項ニ規定スル公賣ハ入札ノ方法ヲ以テ行フヘシ

第十四條 市町村長公賣ヲ爲サントスルトキハ豫メ左ノ事項ヲ公告スヘシ

一 物件ノ種類、數量及品質

二 公賣ノ場所及年月日時

公告ノ方法ニ付テハ第十一條ノ規定ニ依ル

第十五條 水難救護法第十七條第一項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ遭難船舶ノ船長又ハ所有者ハ公賣ニ立會フコトヲ得

附則

第十六條 本則ハ水難救護法施行ノ日ヨリ施行ス

第十七條 明治九年（十二月）第百十七號達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

水難救護法取扱手續

（明治三十二年七月遞信省訓令第六號）
改正 大正五年十月遞信省訓令第三號

第一章 遭難船舶

第一條 遭難船舶救護ノ場合ニ於テ人ノ招集、物件ノ徵用其他一般ノ處分ニ付テハ救護ノ目的ヲ達スルニ必要ナル程度ヲ限トシ救護費用ノ增加セサル樣注意スヘシ

第二條 救護ハ人命ヲ先ニシ逐次郵便物、船内書類其他ノ物件ニ及ホスヘシ

第三條 市町村長ハ救護ニ關係シタル者ノ勞務ノ種類、危險ノ程度及救護ニ從事シタル時間ノ長短ニ留意スヘシ

第四條 遭難船舶外國ノ國籍ニ屬スルモノナルトキハ市町村長ハ事件ヲ認知シタル後遲滯ナク地方長官ニ左ノ事項ヲ通知スヘシ

一 船舶ノ國籍及名稱

二 遭難ノ事由、場所及年月日

第五條 市町村長ニ於テ水難救護法第十四條第一項ノ期間

ヲ指定スルニハ救護ニ關係シタル者ニ於テ其金額ヲ申立テ得ヘキ時間ヲ標準トスヘシ

第六條 救護ヲ爲シタル市町村長ハ左ノ事項ヲ記載シタル救護始末書ヲ調製スヘシ

一 遭難船舶ノ種類、名稱及積量竝ニ外國ノ船舶ナルトキハ其國籍

二 船籍港

三 船舶所有者ノ住所、氏名若クハ名稱

四 船長ノ氏名竝ニ海技免狀ヲ有スル者ナルトキハ其種類及番號

五 遭難ノ事由、年月日時及場所

六 救護ノ狀況

七 救護ニ關係シタル者ノ氏名、勞務ノ種類、時間、水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ申立タル金額及市町村長ノ定メタル救護費用、水難救護法第十二條各號ニ揭ケタル者アルトキハ其事項

八 徵用シタル物件及使用シタル土地ノ種類、所有者ノ氏名若クハ名稱、使用ノ時間、損傷ノ有無及程度、水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ申立タル金額、市町村長ノ定メタル救護費用

九 船員及旅客ノ員數、死傷者ノ住所氏名

十 救上ケタル物件ノ種類及數量

十一 公賣ヲ爲シタル物件ノ種類、數量及公賣代金

十二 物件ノ運搬、保管又ハ公賣ニ要シタル費用

第七條 市町村長ニ於テ水難救護法第十五條第二項ノ期間ヲ指定スルニハ船長又ハ船舶所有者ニ於テ救護費用ヲ納付シ得ヘキ時間ヲ標準トスヘシ

第八條 遭難船舶外國ノ國籍ニ屬スル場合ニ於テ市町村長水難救護法第十五條第二項及第三項ノ手續ヲ爲サントスルモ船長、船舶所有者又ハ其代理人內國ニ在ラサルトキハ市町村長ハ救護費用ノ金額及之ヲ納付スヘキ期間ヲ地方長官ニ申立ツヘシ

地方長官ハ前項ノ金額及期間ヲ最近地ニ駐在スル當該國ノ領事官ニ通知スヘシ

第九條 船長又ハ船舶所有者ニ於テ救護費用ヲ納付シ又ハ擔保ヲ供シタルトキハ市町村長ハ領收書ヲ交付スヘシ船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ保管スル金錢又ハ物件ノ引渡ヲ受ケタルトキハ領收書ヲ差出サシムヘシ

第十條 市町村長救護費用ヲ支辨ゼントスルトキハ之ヲ領

收スヘキ者ヲ呼出シテ其金額ヲ交付シ又ハ便宜ニ依リ直ニ其ノ金額ヲ送付スヘシ

第十一條 市町村長水難救護法第十九條ノ規定ニ依リ國庫ヨリ救護費用ノ全部又ハ一部ノ支給ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ記載シタル救護費用補給請求書ニ救護始末書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ之ヲ遞信大臣ニ差出スヘシ

第十二條 市町村長ハ救護事務終了シタルトキハ一箇月以內ニ救護始末書ノ謄本ヲ當該地方長官ニ差出スヘシ

第十二條ノ二 市町村長水難救護法第九條第一項ノ規定ニ依リ物件ヲ保管スル場合ニ於テ該物件煙草專賣法第三十四條第一項ニ該當スルモノナルトキハ其ノ種類、數量及荷主、船長船舶所有者等分明ナル場合ニ在リテハ其ノ住所竝ニ氏名ヲ直ニ最寄專賣支局又ハ同出張所ニ通知スヘシ

第二章 漂流物及沈沒品

第十三條 市町村長拾得者ヨリ漂流物又ハ沈沒品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ拾得ノ日時、場所竝ニ物件ノ存在セシ狀況ヲ訊問スヘシ

第十四條 市町村長ハ漂流物又ハ沈沒品ノ件名書ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 物件ノ名稱、數量、品質其他必要ナル表示

二 拾得ノ日時及場所

三 物件ノ引渡ヲ受ケタル日時

四 拾得者ノ住所、氏名

五 公告ノ方法、公告又ハ告知ヲ爲シタル年月日

六 物件ノ評價額

七 公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用

八 拾得者ニ支給スヘキ分一金額

九 所有者ノ住所、氏名

十 水難救護法第二十八條第三項ノ場合ニ於ケル國庫ノ取得額又ハ補給金額

第十五條 市町村長所有者又ハ拾得者ニ物件ヲ引渡シタルトキハ件名書中其氏名ノ項ニ何年何月何日引渡ト附記シ氏名ノ下ニ捺印セシムヘシ

第十六條 水難救護法第二十八條第三項又ハ第三十條第二項ノ場合ニ於テ國庫ノ取得トスヘキ殘餘ヲ生シ又ハ國庫ノ補給ヲ受クヘキ不足ヲ生シタルトキハ市町村長ハ左ノ事項ヲ記載シタル漂流物又ハ沈沒品計算書ヲ調製シ地方長官ヲ經由シテ遞信大臣ニ之ヲ差出スヘシ

一　物件ノ名稱、數量及品質
二　公賣代金
三　公告、保管及公賣ノ費用
四　殘餘又ハ不足ノ金額

第十七條　市町村長ハ毎年一回附錄第一號書式ニ從ヒ漂流物及沈沒品件數表ヲ調製シ翌年四月三十日マテニ地方官廳ニ差出スヘシ

地方長官ハ市町村長ヨリ差出シタル件數表ヲ統計シ同一ノ書式ニ依リテ更ニ漂流物及沈沒品件數表ヲ調製シ其年六月三十日マテニ之ヲ遞信大臣ニ差出スヘシ

地方長官ハ市町村長ヨリ差出シタル救護始末書ノ謄本ニ依リ毎年一回附錄第二號書式ニ從ヒ遭難船舶取扱表ヲ調製シ翌年四月三十日マテニ之ヲ遞信大臣ニ差出スヘシ

補　則

第十八條　市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ保管スル物件ヲ公賣シ又ハ拾得者ニ引渡サントスル場合ニ於テ該物件關稅未納ノ貨物ナルトキハ其種類竝ニ數量及公賣又ハ引渡ノ場所竝ニ期日ヲ稅關官吏ニ稅關官吏現場ニ在ラサルトキハ收稅官吏ニ通知シ且稅關手續未濟ノ物件ナルコトヲ入札者又ハ拾得者ニ告知スヘシ

第十九條　市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ保管スル物件ヲ公賣シ又ハ其ノ引渡ヲ受クヘキコトヲ告知セントスル場合ニ於テ該物件煙草專賣法第三十條第一項ニ該當スルモノナルトキハ之ヲ公賣シ又ハ之ニ關シ告知スルコトナク左ノ取扱ヲ爲スヘシ

一　水難救護法第十一條第一項、第二十六條又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ依リ公賣セントスル場合ニ於テハ葉煙草ニ在リテハ之ヲ最寄專賣支局又ハ同出張所ニ、其他ノ物件ニ在リテハ之ヲ最寄專賣局製造所又ハ同支所ニ有償ニテ引渡シ因テ受ケタル代價ハ公賣代金ト看做シテ之ヲ取扱フコト

二　水難救護法第二十八條第一項又ハ第三十條第二項ノ規定ニ依リ告知又ハ公賣セントスル場合ニ於テハ該物件ヲ無償ニテ前號ノ例ニ準シ引渡スコト

第二十條　市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ保管スル物件ヲ公賣セントスル場合ニ於テ該物件政府ノ證票アル製造煙草ナルトキハ之ヲ公賣スルコトナク第十一條第一項、第二十六條又ハ第二十九條第二項ノ場合ニ在リテハ有償ニテ、第二十八條第三項又ハ第三十條第二項ノ場合ニ在リテハ無償ニテ最寄專賣局製造所又ハ同支所ニ引渡スヘシ

前項ノ規定ニ依リ有償ニテ物件ヲ引渡シタルトキハ因テ受ケタル代價ハ公賣代金ト看做シテ之ヲ取扱フヘシ

第二十一條　市町村長水難救護法ノ規定ニ依リ物件ヲ保管スル場合ニ於テ該物件煙草專賣法第三十四條第一項ニ該當シ且同法ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得サルモノナルトキハ之ヲ第十九條第一號ノ例ニ準シ無償ニテ引渡スヘシ

第二十二條　前三條ノ規定ニ依リ物件ヲ專賣官署ニ引渡ス爲メニ要スル運搬費ハ該官署ニ於テ之ヲ負擔ス

（第一號書式）

漂流物沈沒品件數表（何年分）

種類	取扱物件			物件ノ價格			所有者ニ引渡シタル件數	拾得者ニ引渡シタル件數
	前年ノ越高	本年ノ受高	翌年ヘ越高	前年ノ越高	本年ノ受高	翌年ヘ越高		
漂流物沈沒品合計								

水難救護法第二十八條第三項又ハ第三十條第二項ニ依リテ公賣シタル件數	
拾得者ニ支給シタル分一金額	
公告、保管、評價及取除公賣費用	
國庫ノ取得ト爲リタル金額	
國庫ヨリ支給シタル金額	

（第二號樣式）

遭難船舶救護取扱表（何年分）

	被救護船數	救護費	公賣代金	國庫補給金
汽船	隻	圓	圓	圓
噸數帆船				
石數帆船				
計				

備考

救護費トハ水難救護法第十三條ニ規定スル費用ヲ謂フ

朝鮮水難救護令

（大正三年四月制令第十二號）
改正 大正十五年六月制令第九號

第一條 水難救護ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外水難救護法ニ依ル但シ同法中市町村長トアルハ鴨綠江及豆滿江ノ漂流材木ニ關シテハ朝鮮總督府營林署長、其ノ他ニ關シテハ警察署長又ハ其ノ職務ヲ行フモノトス

第二條 面長ハ救護ノ事務ニ關シ警察官吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ助ケ警察官吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者現場ニ在ラサルトキハ之ニ代リ其ノ職務ヲ執行スヘシ

第三條 鴨綠江及豆滿江ノ漂流材木ノ拾得者ノ受クル報酬其ノ所有者ノ納付スル金額及其ノ所有者引渡ヲ請求セサル場合又ハ引渡ヲ請求セサル意思ヲ表示シタル場合ニ於ケル材木ノ所有權ノ歸屬ニ關シテハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依ル

附則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮水難救護令施行規則

（大正三年五月朝鮮總督府令第八十三號）
改正 大正十五年六月朝鮮總督府令第五十號

第一章 遭難船舶

第一條 水難救護法第十條ニ定メタル船難報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印スヘシ

一 船舶ノ種類及名稱
二 總噸數又ハ積石數
三 船籍港
四 船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
五 發航港、寄航港、到達港及遭難ノ場所
六 遭難及救護ノ顚末
七 船舶ノ損害
八 死傷者ノ氏名
九 滅失又ハ毀損シタル積荷ノ種類、重量又ハ容積、其ノ荷造ノ種類、箇數、記號及傭船者又ハ荷送人ノ氏名若ハ名稱

第二條　船難報告書ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ船長之ニ認印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ樣字體ヲ存スヘシ

第三條　船長船難報告書ニ認證ヲ受ケムトスルトキハ該報告書二通ヲ提出スヘシ

第四條　警察署長（其ノ職務ヲ行フ者ヲ含ム以下同シ）船難報告書ニ記載シタル事實ヲ正當ナリト認メタルトキハ其ノ一通ノ末尾ニ記載事項ノ相違ナキコトヲ認證スル旨及年月日ヲ附記シ署名捺印ノ上船長ニ還付シ他ノ一通ハ之ヲ保存スヘシ

第五條　警察署長ニ於テ水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ指定スル期間ハ救護ノ終リタル後直ニ救護人ヲ集メテ之ニ告知シ又ハ遲滯ナク一定ノ場所ニ之ヲ掲示スヘシ

第六條　水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ救護費用ノ金額ヲ申立ツルニハ書面又ハ口頭ヲ以テ其ノ金額及之ヲ算出シタル事由ヲ示スヘシ

第七條　警察署長ハ地方習慣上ノ賃錢ヲ基礎トシ各人ノ爲シタル勞務ノ種類、時間ノ長短、危險ノ程度及被害ノ大小ヲ斟酌シテ勞務ノ報酬ヲ定ムヘシ

地方習慣上ノ賃錢ハ警察署長ニ於テ豫メ之ヲ定メ警務部長ノ認可ヲ受ケ其ノ金錢ヲ定率ト爲スヘシ

第八條　海軍艦船其ノ他官廳ノ所有スル船舶ノ救護費用ヲ請求セムトスルトキハ警察署長ハ救護費用計算書ヲ調製シ之ヲ其ノ艦長又ハ船長ニ提出スヘシ

第九條　船長、船舶所有者其ノ他利害關係人ハ救護費用ノ算定ニ關シ警察署長ノ調製シタル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第二章　漂流物及沈没品

第十條　漂流物又ハ沈没品ハ之ヲ拾得シタル地ヲ管轄スル營林署長又ハ警察署長ニ引渡シ航海中拾得シタル場合ニ在リテハ其ノ後最初ニ到著シタル地ノ營林署長又ハ警察署長ニ引渡スヘシ

第十一條　水難救護法第二十五條第二項ニ定メタル公告ハ物件ノ品質及價格ニ準シ掲示又ハ新聞紙掲載其ノ他營林署長又ハ警察署長ノ適當ト認ムル方法ニ依リ品名、數量拾得ノ日時及場所ヲ明示スヘシ

第十二條　水難救護法第二十七條第一項ノ規定ニ依リ所有者ニ於テ物件ノ引渡ヲ申請スルトキハ其ノ物件ニ對スル自己ノ權利ヲ營林署長又ハ警察署長ニ疏明スヘシ

第三章　公賣

第十三條　水難救護法第十一條第一項、第十七條第一項、第二十八條第三項及第三十條第二項ニ規定スル公賣ハ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第十四條　營林署長又ハ警察署長公賣ヲ爲サントスルトキハ豫メ左ノ事項ヲ公告スヘシ

一　物件ノ種類、數量及品質

二　公賣ノ場所及年月日時

公告ノ方法ニ付テハ第十一條ノ規定ニ依ル

第十五條　水難救護法第十七條第一項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ遭難船舶ノ船長又ハ所有者ハ公賣ニ立會フコトヲ得

附　則

本令ハ朝鮮水難救護令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鴨綠江及豆滿江ノ漂流材木ニ關スル件

（大正七年六月朝鮮總督府令第六十八號）

鴨綠江及豆滿江ノ漂流材木ノ拾得者ノ受クル報酬ハ其ノ價格ノ百分ノ十五、其ノ所有者ノ納付スル金額ハ其ノ價格ノ百分ノ二十五トス

前項ノ漂流材木ハ水難救護法第二十五條第二項ノ公告又ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一年内ニ返還ノ請求ナキトキ又ハ返還ノ請求ヲ爲ササル意思ヲ表示シタルトキハ國庫ニ歸屬ス但シ特別ノ協定アル場合ニ於テハ其ノ協定ニ依ル

附　則

本令ハ大正七年制令第十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正七年七月一日ヨリ施行）

水難救護法ノ施行細則ニ關スル件

（大正十二年一月　臺灣總督府令第七號）

明治三十二年法律第九十五號水難救護法ノ施行細則ハ明治三十二年遞信省令第三十五號水難救護法施行細則ニ依ル但シ同規則中市町村長トアルハ市尹街庄長又ハ區長トス

附則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年府令第二十七號臺灣水難救護規則施行細則ハ之ヲ廢止ス

第六輯　港灣

第一章　開港及港灣取締

開港港則

（明治三十一年七月　勅令第百三十九號）
改正　昭和十五年六月　勅令第四百九號

第一條　左ニ記載スル外國通商ヲ許シタル諸港ノ經界ハ左ノ如ク之ヲ定ム

横濱ノ港界ハ十二天鼻ヨリ北四十六度東五海里ニ引キタル一線及該線ノ北東端ヨリ正北ニ引キタル一線以内

神戸ノ港界ハ盧屋川口ヨリ南四十二度三十分西ニ引キタル一線及妙法寺川口ヨリ南八十七度東ニ引キタル一線以内

新潟ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内ニ含マル

夷港ノ港界ハ椎泊村ヨリ北五十里村外堺マデ引キタル一線ト加茂湖東岸港町ヨリ同湖北西岸加茂村マデ引キタル一線トノ内ニ含マル

大阪ノ港界ハ神崎川口東岸ヨリ南西微南ニ引キタル一線ト大和川口南岸ヨリ正西ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内

長崎ノ港界ハ小瀬戸浦ノ南東端ヨリ鼠島ノ外端ヲ經テ蔭ノ尾島長刀埼ニ引キタル一線ト蔭ノ尾島三角點（一五四呎）ヨリ西南ニ向ヒ香燒島ニ引キタル一線及香燒島石燈籠ノ鼻ヨリ深堀村堂ノ埼ニ引キタル一線以内

函館ノ港界ハ阿野間崎ヨリ南方沖合半海哩ノ所ヨリ上磯村有川口ノ東岸マデ引キタル一線内ニ含マル

清水ノ港界ハ眞埼ヨリ正北ニ引キタル一線以内

武豊ノ港界ハ布土村ヨリ正東ニ引キタル一線以内
名古屋ノ港界ハ西突堤燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内
四日市ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内
宇野ノ港界ハ高邊岬（高邊山三角點ヨリ南三十度東）ヨリ下烏島ノ西端及飛洲ヲ經テ蛸埼（五一米三角點ヨリ正東）ニ引キタル一線以内
尾道糸崎ノ港界ハ犬吠山ノ山頂ヨリ岩子島三角點（三九〇呎）ニ引キタル一線、岩子島鶏小島ヨリ向島布刈鼻ニ引キタル一線、向島大磯鼻ヨリ戸崎ニ引キタル一線及向島松ケ鼻ヲ中心トシテ八鏈ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧以内
今治ノ港界ハ蒼社川口ノ東岸ヨリ正北ニ引キタル一線ト大濱燈臺ヨリ南六十度東ニ引キタル一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内
高知ノ港界ハ龍頭埼燈臺ヨリ正東一海里ニ引キタル一線及該線ノ東端ヨリ正北ニ引キタル一線以内
宇部ノ港界ハ宇部岬ヨリ南八十度西ニ引キタル一線及本山鼻ヨリ南七十度東ニ引キタル一線以内

萩ノ港界ハ大瀬鼻ヨリ笠山ノ山頂ニ引キタル一線以内
關門ノ港界ハ蔦ケ巣山ノ山頂ヨリ北四十度西ニ引キタル一線、彦島金刀比羅山ノ山頂ヨリ若松ノ港界迄正西ニ引キタル一線及彦島關門以内
若松ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシテ二海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内
博多ノ港界ハ殘島ノ北端ヨリ滿切ニ引キタル一線及小戸鼻ヨリ殘島ノ南端ニ引キタル一線以内
唐津ノ港界ハ高島ノ北端ヨリ西北西ニ引キタル一線ト同島ノ南東端ヨリ正南ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内
住ノ江ノ港界ハ船津川口ノ西岸ノ南端ヨリ正西ニ引キタル一線以内
口ノ津ノ港界ハ宮崎鼻ヨリ正南ニ引キタル一線ト白間埼ヨリ正東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内
三池ノ港界ハ北突堤燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内
三角ノ港界ハ瀬戸ノ鼻ヨリ大矢野島**コンピラ**鼻マデ際崎ノ鼻ヨリ戸鹿島野埼マデ同島兎鼻ヨリ千束島六四郎鼻マデ大矢野島塔ケ埼マデ引キタル四線以内
鹿兒島ノ港界ハ一丁臺場南端ノ燈臺ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内
嚴島ノ港界ハ虎埼ヨリ耶良埼（一名寢釋迦鼻）ニ引キタル一線以内
那覇ノ港界ハ先原埼ヨリ干ノ瀬ノ北端ニ引キタル一線及安里川口ヨリ干ノ瀬ノ北端ニ引キタル一線以内
濱田ノ港界ハ黑埼ヨリ馬島ノ西端ニ引キタル一線ト馬島ノ北端（千疊敷鼻）ヨリ入道鼻ニ引キタル一線以内
境ノ港界ハ境港燈臺ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内及外ノ江ノ西端ヨリ正北ニ引キタル一線以東
宮津ノ港界ハ片島鼻ヨリ日置埼ニ引キタル一線以内
敦賀ノ港界ハ赤埼ヨリ蛭子埼ニ引キタル一線以内
七尾ノ港界ハ能登島松ケ埼ヨリ南東ニ引キタル一線以西及屈風埼峽以東
伏木東岩瀬ノ港界ハ岩崎三角點（六一米）ヨリ南七十八度三十分東ニ引キタル一線及大村三角點（六・八米）ヨリ正北ニ引キタル一線以内
船川ノ港界ハ生鼻埼ヨリ正南ニ引キタル一線ト南平澤ノ南東角ヨリ正東ニ引キタル線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内
青森ノ港界ハ鼻繰岬ヨリ正西ニ引キタル一線以内
八戸ノ港界ハ日出岩（三・三米）ヨリ正西ニ引キタル一線及同岩ヨリ正南ニ引キタル一線以内
釜石ノ港界ハ鷲ノ巣埼ヨリ鎌ケ埼ニ引キタル一線以内
鹽釜ノ港界ハ花淵埼ヨリ唐戸島ノ南端ニ引キタル一線及唐戸島三角點（三六米）ヨリ寒風澤島長濱天測點ヲ經テ腕埼ニ引キタル一線以内
小樽ノ港界ハ平磯岬ヨリ**カヤシバ**岬ニ引キタル一線以内
留萌ノ港界ハ留萌埼（留萌港南防波堤燈臺ヨリ南三度西千三百五十米）ヨリ北三十度西一海里半ニ引キタル一線及該線ノ北端ヨリ北六十度東ニ引キタル一線以内
根室ノ港界ハ辨天島燈臺ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内
釧路ノ港界ハ燈臺ヨリ正西二海里ニ引キタル一線以北及該線ノ西端ヨリ正北ニ引キタル一線以東
室蘭ノ港界ハ**エンルム**埼ヨリ大黑島ヲ經テ**ホテイシ**埼ニ引キタル一線以内
大泊ノ港界ハ燈竿ヲ中心トシテ二海里半ノ半徑ヲ有スル

圓圈ノ一弧内
眞岡ノ港界ハ導標ノ紅光燈ヲ中心トシテ一海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内

第二條 各船舶ハ入港スルニ當リ其國旗及信號符字ヲ揭グベシ港ヲ通過スル船舶ガ港界内ニ入ラントスルトキ亦同ジ定期郵便船ハ會社旗ヲ以テ信號符字ニ代用スルコトヲ得

右國旗及信號符字又ハ會社旗ハ船舶ノ著港ヲ港長ニ屆出タル後又ハ港ヲ通過スル船舶ガ港界外ニ出タル後ニアラザレバ之ヲ引下スベカラズ

著港屆ハ日曜日及大祭日ヲ除クノ外著港後二十四時間内ニ之ヲ差出スベシ但シ著港屆ヲ差出シタル後ニアラザレバ如何ナル船舶タリトモ稅關手續ノ便利ヲ與ヘザルモノトス

第三條 各船長ハ其著港ニ際シ自由交通ノ許可ヲ受クルマデハ其船舶ト他ノ船舶或ハ陸地トノ間ニ於ケル一切ノ交通ヲ差止ムベシ

第四條 港長ノ端艇ハ港ノ入口近傍ニ出向キ居リ港長ハ各船舶ノ入港スルニ當リ其泊船所ヲ示定スベシ而シテ各船舶ハ已ムコトヲ得ザル場合ヲ除クノ外特許ナクシテ其泊船所ヲ去ルベカラズ但シ港長ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ヲシテ泊船所ヲ移サシムルコトヲ得

第五條 港長ハ其執務ノ間常ニ制服ヲ著ケ其端艇ニハ別紙鏃形ノ如キ旗ヲ揭グベシ

港長ハ何時タリトモ船舶ノ運動繫船ノ適否及碇泊所ニ關スル指揮ガ果シテ實行セラレ居ルヤ否ヲ檢査スルコトヲ得

第六條 如何ナル船舶モ公ケノ航路ニ投錨シ若クハ其他航海ノ自由ヲ障碍スベカラズ

「ヂブ、ブームス」ヲ接ギ出シタル船舶ニシテ其「ヂブブームス」ガ航海ノ自由ヲ障碍スルトキハ港長ノ請求ニ從ヒ之ヲ取込ムベシ

第七條 港界内ニ碇泊シ又ハ運航スル各船舶ハ日沒ト日出ノ間ニハ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ揭グベシ

第八條 暴風雨ノ來ラムトスルトキ或ハ警報信號ヲ揭ゲタルトキハ各船舶ニ於テ直ニ一箇又ハ一箇以上ノ豫備錨ヲ投下スルノ準備ヲ爲スベシ尤モ汽船ハ此外別ニ蒸氣ヲ發生セシムベシ

第九條 常用ニ超過シ爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物料ヲ

積載シタル一切ノ船舶ハ港界外ニ來リ其處ニテ港長ノ指揮ヲ待ツベシ斯ク指揮ヲ待ツ間右船舶ハ日出ト日沒ノ間ニハBノ信號日沒ト日出ノ間ニハ紅燈ヲ前檣ノ頂上ニ揭グベシ

各船舶ハ港長ノ指定シタル場所ニアラザレバ前記ノ物料ヲ積入レ又ハ荷卸スベカラズ

港長ハ港界内ニ於テ前項ノ場所ヲ指定シ難シト認ムルトキハ港界外ニ於テ適當ノ場所ヲ指定スルコトヲ得

前項ニ依リ指定シタル場所ハ港界内ニ在ルモノト看做ス

第十條 休繫中又ハ修繕中ノ船舶及總テ「ヤツト」、倉庫船、貨船及端艇等ハ特ニ港長ノ指定シタル泊船所ニ碇泊スベシ

第十一條 船舶ガ港界内ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ルマデ船鐘ヲ打鳴スベシ且ツ日出ト日沒ノ間ニハNQノ信號ヲ揭ゲ日沒ト日出ノ間ニハ斷ヘズ紅燈ヲ上下スベシ

警察官ノ救援ヲ要スルトキハ日出ト日沒ノ間ニハSTノ信號ヲ揭ゲ日沒ト日出ノ間ニハ藍火若クハ閃火ヲ示スベシ

前記ノ如キ信號ニ用ユル場合ノ外港長ノ允許ヲ得ルニアラザレバ港界内ニ於テ銃砲及烟火等ヲ發スルコトヲ得ズ

第十二條 帝國政府ニ於テ流行病若クハ傳染病（虎列刺、天然痘、黃熱、猩紅熱、「ペスト」ノ類）ノアル地ト布告シタル地ヨリ來著シ又ハ航海中船中ニ該病アリタル船舶ハ港界外ニ來リ日出ト日沒ノ間ニハ黃旗ヲ日沒ト日出ノ間ニハ紅白二燈ヲ上下ニ連ネ前檣ノ頂上ニ揭グベシ又前記ノ船舶ハ當該衞生官吏ノ臨檢ヲ受クベシ

衞生官吏臨檢ノ爲メ其船舶ニ近寄リタルトキハ適當ノ豫防ヲ施シ得ル爲メニ航海中現ニ該病發生ノ有無及該病ノ性質如何ヲ該官吏ニ通知スベシ

右船舶ハ自由交通ノ允許ヲ受クルマデ黃旗若クハ前記ノ燈火ヲ引下スベカラズ且ツ當該衞生官吏ノ允許ヲ得ルニアラザレバ何人タリトモ上陸セシメ又ハ一切他ノ船舶ト交通スルヲ許サズ

前數項ノ規定ハ港界内ニ碇泊スル船舶中ニ於テ前記ノ流行病及傳染病ノ内何病ニテモ發生シタルトキハ之ヲ適用ス

右船舶ハ港長ヨリ其旨命令ニ接スルトキハ其泊船所ヲ移轉スベシ

牛羊等傳染病アル地ヨリ來著シ又ハ航海中該病ヲ發生シ

タル船舶ハ當該衞生官吏ノ允許ヲ得ルニアラザレバ牛羊等又ハ其死體、皮革又ハ骨ヲ陸揚シ又ハ他船ニ積換ユルコトヲ許サズ

條十三條 港界内ニ於テ死體、荷足、灰燼、塵芥等ヲ海中ニ投棄スベカラズ

石炭、荷足其他之ニ類スル物料ヲ積卸スルトキハ其海中ニ脱落スルヲ防グ爲メ必要ノ豫防ヲ爲スベシ

何船舶ニテモ港ニ害アル一切ノ物料ヲ海中ニ投棄シ又ハ怠慢ニ依リ脱落セシメタルトキハ港長ヨリ其旨命令ニ接セバ該船舶ニ於テ之ヲ取除クベシ若シ取除カザルニ於テハ港長ハ該船舶ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシムルコトヲ得

第十四條 船舶出港セムトスルトキハ其旨〔港務局〕ニ届出デ且ツ出帆旗ヲ引揚グベシ

一定ノ時日ニ出帆スル汽船ハ其著港及出帆ニ對シ單ニ一回ノ届出ヲ爲スヲ以テ足レリトス

第十五條 一港内又ハ其附近ノ公ケノ航路ノ妨害トナルベキ總テノ難破物又ハ其他ノ物件ハ港長ノ指定セル時間内ニ其所有主ニ於テ之ヲ取除クベシ若シ港長ノ指定セル時間内ニ此命令ヲ遵行セザルニ於テハ港長ハ所有主ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシメ又ハ破壞セシムルコトヲ得

第十六條 〔港務局〕ハ定期郵便汽船ノ爲メニ適切ニシテ且ツ充分ナル浮標ノ繫船器若干ヲ備ヘ置キ之ヲ使用スル所ノ船舶ヲシテ成規ノ使用料ヲ拂ハシムベシ

第十七條 燈船、信號用浮標又ハ立標ニハ鏈、綱、其他ノ船具ヲ繫グベカラズ

船舶若シ燈船、浮標、立標、埠頭及其他ノ造營物ニ乘掛ケ又ハ之ヲ毀損シタルトキハ其修繕又ハ再設ノ爲メニ必要ノ費用ハ該船舶ニ於テ之ヲ支辨スベシ

第十八條 本則ノ規定ヲ犯シタルトキハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 船舶ニ科スル罰金、使用料又ハ費用ニ付テハ船長モ亦其責ヲ負フモノトス

第二十條 本則ニ依リ船舶ニ科シタル罰金、使用料又ハ費用ヲ完納スルカ或ハ之ニ對シ港長ノ滿足スベキ擔保物ヲ港長ニ差出スニアラザレバ其船舶ノ出港ヲ許サズ

第二十一條 本則ニ於テ港長ト稱スルハ助役及代理者ヲモ包含ス船長ト稱スルハ其名稱ノ何タルヲ問ハズ船舶ヲ指揮監督スル者ノ義ニシテ港ト稱スルハ本則第一條中ニ列記セル諸港ノ一ヲ指ス

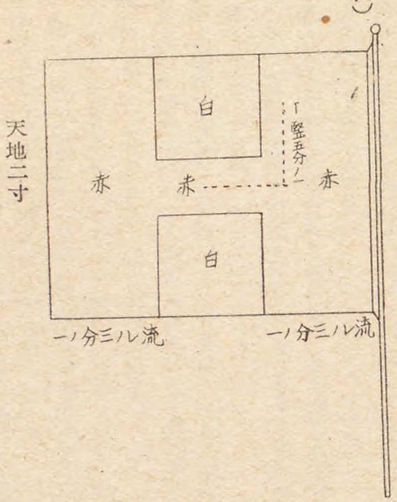
第二十二條 各港ニ於テ其一部分ヲ軍艦ノ碇泊所トシテ取除ケ置クベシ

第二十三條 本則ノ規定中軍艦ニ適用セラルベキモノハ第四條、六條、十二條、二十一條ノ規定及第十三條第一項及二項ノ規定ニ限ル

第二十四條 本則施行ノ時期及場所ハ遞信大臣之ヲ告示ス

本則實施ニ關スル細則ハ遞信大臣之ヲ發布ス

（別紙）



開港港則施行規則

（昭和二年四月遞信省令第七號）

改正 昭和十五年六月遞信省令第三十一號

第一章 錨地

第一條 開港港則ヲ施行スル港ニ於ケル船舶ノ錨地ハ別表第一號表ノ定ムル區域内ニ於テ港長之ヲ指定ス

港長港内ノ實況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ前項ノ區域ニ拘ラズ錨地ヲ指定スルコトヲ得

第二條 入港船舶ハ左ノ各號ニ定ムル場所ニ於テ港長ヨリ錨地ノ指定ヲ受クベシ但シ豫メ港長ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一 横濱ニ在リテハ本牧挂燈浮標ノ内方

二 神戸ニ在リテハ和田岬檢疫所附近但シ大阪方面ヨリ入港スルモノハ同檢疫所附近又ハ第五突堤信號所附近

三 大阪ニ在リテハ港界線附近

四 長崎ニ在リテハ女神外

五 關門ニ在リテハ下關海峽西口ヨリ入港スルモノハ六

連島燈臺附近、同東口ヨリ入港スルモノハ部壔燈臺附近
若松方面ヨリ入港スルモノハ港界線附近
前項ニ掲グル錨地ノ指定ハ特定信號（無線電信又ハ無線電話ヲ含ム）ニ依リ之ヲ爲スコトアルベシ

第二條ノ二 前條及第三十一條ノ四ニ掲グル特定信號及之ヲ行フベキ場所ハ之ヲ告示ス

條三條 錨地ノ指定ヲ受クベキ船舶日沒後到著シタルトキハ日出迄第二條第一項各號ニ掲グル場所ニ於テ假泊スベシ但シ定期郵便船其ノ他ノ船舶ニシテ港長ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 港長ノ指定シタル錨地ヲ變更セムトスルトキハ豫メ港長ノ許可ヲ受クベシ但シ風波、災害其ノ他已ムヲ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
前項但書ノ規定ニ依リ港長ノ許可ヲ受ケズシテ錨地ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由及錨地ヲ港長ニ屆出ヅベシ

第五條 總噸數八百噸未滿ノ內地各港間ノミヲ航行スル船舶ニシテ開港港則第九條第一項若ハ第十二條第一項ニ該當セザルモノハ別表第一號表ノ定ムル區域內ニ碇泊スル場合ニ限リ第二條ノ指定ヲ受クルコトヲ要セズ

雜種船ハ別表第一號表ノ定ムル區域內ニ碇泊スベシ

第六條 總噸數五百噸以上ノ船舶錨泊スルトキハ港長ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外雙錨泊ヲ爲スベシ但シ橫濱神戸及大阪ノ防波堤外又ハ長崎ノ女神外ニ錨泊スルモノハ此ノ限ニ在ラズ
港長必要アリト認ムルトキハ總噸數五百噸未滿ノ船舶ト雖雙錨泊ヲ命ズルコトヲ得前項但書ノ船舶ニ付亦同ジ

第七條 繫船浮標ヲ使用セムトスル船舶ハ港長ノ許可ヲ受クベシ
前項ノ許可ヲ受ケタル船舶ハ繫船浮標使用料ヲ納入スベシ
繫船浮標使用料ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 航路

第八條 船舶ハ別表第二號表ノ定ムル航路及特定條件ニ從ヒ出入又ハ通過スベシ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキ又ハ雜種船ニシテ別表第二號表ノ定ムル場合ニ該當セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 航路內ニ於テハ左ノ所爲ヲ爲スコトヲ得ズ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
一 投錨スルコト
二 被曳船ヲ放ツコト
三 其ノ他船舶航行ノ妨害トナルコト

第三章 航法

第十條 汽船防波堤入口ニ於テ出會ノ虞アルトキハ入港船ハ防波堤外ニ於テ出港船ノ進路ヲ避クベシ

第十一條 汽船ハ港界內及港界附近ニ於テハ他船ニ危害ヲ及ボサザル程度ニ速力ヲ減ジテ航行スベシ
帆船ハ港界內ニ於テハ帆ヲ減ジ又ハ曳船ヲ用ヰテ航行スベシ橫濱、神戸及大阪ノ各港ニ在リテハ航路內、關門港ニ在リテハ港區內及早鞆瀨戸、長崎港ニ在リテハ航路內及女神內ニ於テハ纜航スベカラズ

第十二條 船舶ハ竝列シテ航行スベカラズ

第十三條 航路ヲ橫切ラムトスル船舶ハ航路ヲ航行スル他船ノ進路ヲ避クベシ
航路ニ於テ行逢ヒタル船舶ハ互ニ航路ノ右側ヲ航行スベシ但シ早鞆瀨戸ニ在リテハ內海水道航行規則第八條第一項第二號ノ規定ニ依ル
船舶ハ航路ニ於テ他船ヲ追越スベカラズ但シ關門港ノ航路ニ在リテハ內海水道航行規則第三條ノ規定ニ依ル

第十三條ノ二 神戸港ニ於テ第一航路ヲ航行スル汽船ト第三航路ヲ航行スル汽船出會ノ虞アルトキハ第三航路ヲ航行スル汽船ハ第一航路ヲ航行スル汽船ノ進路ヲ避クベシ

第十四條 雜種船ハ汽船及帆船ノ進路ヲ避クベシ

第十五條 船舶ハ防波堤、埠頭又ハ繫泊船等ノ一端ヲ右舷ニ見テ通航スルトキハ之ニ近寄リ左舷ニ見テ通航スルトキハ之ニ遠ザカリテ航行スベシ

第十六條 本章ニ定ムルモノノ外船舶ノ航法ニ關シテハ海上衝突豫防法ノ定ムル所ニ依ル

第四章 爆發物及危險物

第十七條 開港港則第九條ニ掲グル爆發物及容易ニ燃燒スベキ物件ノ種類ハ別表第三號表ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 爆發質ノ物件ニ付テハ船舶ニ備付ケタル大砲一門毎ニ火藥五十發分門管又ハ爆管七十箇、小銃一挺毎ニ火藥百發分雷管百五十箇竝信號用ノ榴彈、火箭、熔管及救命焰ハ之ヲ常用ト看做ス容易ニ燃燒スベキ物件ニシテ船舶所用ノ目的ヲ證明シ得ルモノ亦同ジ

第十九條 常用ニ超過シタル爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ヲ積卸又ハ運搬セムトスル船舶ハ豫メ港長ノ許可ヲ受クベシ
前項ニ掲グル物件ヲ積載シタル船舶ハ港長ノ指定シタル

場所ニ非ザレバ碇泊又ハ停留スルコトヲ得ズ但シ容易ニ燃燒スベキ物件ヲ積載シタルモノニシテ碇泊ノ期間及場所並積荷ノ種類及數量ヲ具シ港長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ニ掲グル物件ヲ積載シタル船舶ハ晝間ハ赤旗ヲ、夜間ハ紅燈一箇ヲ舷緣上見易キ場所ニ揭揚スベシ

第五章　屆出手續

第二十條　開港港則第二條第三項ニ規定スル着港屆ハ第一號書式ニ、同第十四條第一項ニ規定スル出港屆ハ第二號書式ニ、同條第二項ニ規定スル着發屆ハ第三號書式ニ依リ港長ニ差出スベシ

第二十一條　出港シタル船舶避難、修繕其ノ他事故ノ爲出港後十二時間内ニ歸港シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル屆書ヲ港長ニ差出シ着港屆ニ代フルコトヲ得

第二十二條　船舶ヲ修繕又ハ休繫セムトスルトキハ豫メ其ノ旨港長ニ屆出ヅベシ

前項ノ屆出アリタル場合ニ於テ港長必要アリト認ムルトキハ當該船舶ノ修繕又ハ休繫中相當船員ノ乘組ヲ命ズルコトアルベシ

第二十三條　船舶ヲ進水又ハ船渠ニ出入セシメムトスルトキハ豫メ其ノ旨港長ニ屆出ヅベシ

第二十四條　開港港則第十二條第六項ニ揭グル船舶入港シタルトキ又ハ碇泊中ノ船舶ニ同條第一項ニ揭グル傳染病ノ疑若ハ家畜傳染病ノ疑アルモノ發生シタルトキハ直ニ其ノ旨港長ニ屆出ヅベシ

第二十五條　港界内又ハ港界附近ニ於テ難破又ハ沈沒等ノ事故發生シタルトキハ直ニ其ノ旨港長ニ屆出ヅベシ之ヲ發見シタルトキ亦同ジ

第二十六條　國籍證書ヲ受有スルコトヲ要セザル船舶、平水區域ノミヲ航行スル船舶及内地ニ於ケル一定ノ港ヲ定期ニ航行スルモノニシテ豫メ港長ノ許可ヲ受ケタル船舶ハ第二十條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二十七條　本章ニ規定スル屆出ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船長又ハ船舶所有者之ヲ爲スベシ

第六章　雜則

第二十八條　雜種船、筏等ハ濫リニ之ヲ繫船浮標、船舶ノ船尾若ハ船側ニ繫留セシメ又ハ船舶航行ノ妨害トナルベキ場所ニ碇泊若ハ停留セシムベカラズ

第二十九條　船舶他ノ船舶、筏等ヲ曳航スルトキハ左ノ制限ヲ超ユベカラズ但シ港長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　總噸數三百噸以上ノ船舶ヲ曳クトキハ一艘、總噸數百噸以上三百噸未滿ノ船舶ヲ曳クトキハ二艘、總噸數百噸未滿ノ船舶ヲ曳クトキハ三艘

二　雜種船ヲ曳クトキハ神戸及大阪ノ防波堤内ニ於テハ八艘（五艘以上ヲ曳クトキハ二縱列ト爲スベシ）横濱防波堤内及長崎女神内ニ於テハ五艘、關門ニ於テハ港區内ハ四艘航路内ハ八艘（曳船ノ船首ヨリ最後被曳船ノ船尾迄長三百米ニ達スル迄ハ八艘ヲ超ユルコトヲ得

三　被曳船ヲ竝列シテ曳クトキハ二縱列

四　筏等ヲ曳クトキハ曳船ノ船首ヨリ被曳物件ノ後端ニ至ル迄長百二十米

曳船ト被曳船及被曳船相互間ノ曳索ノ長ハ航行ニ支障ナキ程度ニ止メ濫リニ延長スベカラズ筏等ノ場合ニ付亦同ジ

第三十條　船舶ハ濫リニ左ニ揭グル場所ニ碇泊又ハ停留スベカラズ

一　埠頭、棧橋、運河、船溜ノ入口又ハ船渠ノ附近

二　關門港柁ケ鼻低立標ヨリ二百二十二度二百七十五米ノ地點ニ引キタル線、同地點ヨリ門司區境界線迄零度ニ引キタル線及其ノ線ノ北端ヨリ門司埼燈標ニ引キタル線内ノ水域竝小森江發着信號竿ヨリ門司區境界線迄三百三十二度ニ引キタル線、白木埼防波堤燈臺ヨリ百五十八度ニ引キタル線、同燈臺ヨリ門司區境界線迄三百三十八度ニ引キタル線及門司區境界線内ノ水域

第三十一條　大阪港櫻島棧橋ニ繫留又ハ解纜セムトスル船舶アルトキハ同棧橋ノ信號柱ニ國際信號HRヲ揭揚ス此ノ場合ニ於テハ當該船舶ハ其ノ前檣頭ニ直徑約六十糎ノ黑球一箇ヲ揭揚スベシ

前項ノ船舶ニ對シテハ他ノ船舶ハ成ルベク其ノ進路ヲ避クベシ

第三十一條ノ二　（削除）

第三十一條ノ三　神戸港第四及第五航路ニ依リ殆ド同時ニ出港スル船舶（共ニ總噸數約百噸以上ノ船舶ナル場合ニ限ル）アルトキハ川崎鼻見張所信號柱ニ晝間ニ在リテハ國際信號旗B二旗ヲ連揭シ夜間ニ在リテハ綠燈三箇ヲ縱ニ一米ヅツヲ隔テテ連揭ス此ノ場合ニ於テハ當該船舶ハ川崎鼻ニ於テ出會ノ危險ヲ避クル爲其ノ運航ニ注意スベシ

第三十一條ノ四 神戸ニ入港スル總噸數八百噸以上ノ船舶ハ其ノ錨地ノ指定ヲ受ケタル時ヨリ（第二條但書ノ規定ニ依リ錨地ノ指定ヲ受ケザル場合ニ在リテハ港界線附近ニ來リタル時ヨリ）錨地ニ繫留シ終ル迄特定信號中ノ錨地表示信號ヲ爲スベシ錨地ヲ變更スルトキ之ニ準ズ

第三十一條ノ五 横濱ニ入港スル船舶ニシテ錨地ノ指定ヲ受ケタルモノハ港界線附近ニ來タリタル時ヨリ錨地ニ繫留シ終ル迄別ニ告示スル所ニ依リ信號ヲ爲スベシ

第三十二條 關門ヲ出港スル總噸數八百噸以上ノ船舶ハ其ノ前檣又ハ見易キ場所ニ左ノ信號旗ヲ掲揚スベシ

一 下關海峽東口ヘ向ケ出港セムトスルトキハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニE

二 下關海峽西口ヘ向ケ出港セムトスルトキハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニW

第三十二條ノ二 神戸ヲ出港スル總噸數八百噸以上ノ船舶ハ拔錨ノ時ヨリ防波堤入口ヲ通過シ終ル迄左ノ信號ヲ爲スベシ

錨地ヲ變更スルトキ亦同ジ

一 第一航路ノ防波堤入口ヲ通過セムトスルトキハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニ數字旗1

二 第二航路ノ防波堤入口ヲ通過セムトスルトキハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニ數字旗2

三 第三航路ノ防波堤入口ヲ通過セムトスルトキハ國際信號旗第一代表旗ノ下ニ數字旗3

前項ノ規定ニ依ル信號ヲ爲シタル後已ムヲ得ザル事由ニ因リ通過セムトスル防波堤入口ヲ變更シタルトキハ直ニ信號ヲ變更スベシ

第三十三條 早鞆瀨戸ヲ西行セムトスル汽船ハ前田川口ニ竝ビタル時ヨリ又同瀨戸ヲ東行セムトスル汽船ハ柁ケ鼻ニ竝ビタル時ヨリ孰レモ門司埼ヲ通過スル迄汽笛又ハ汽角ヲ以テ長聲三發ヲ隨時吹鳴スベシ

第三十四條 船舶ハ法令ニ規定アル場合ヲ除クノ外濫リニ汽笛又ハ汽角ヲ吹鳴スベカラズ

第三十五條 船舶ニ搭載セル竹木材ヲ水上ニ卸サムトスルトキ又ハ筏等ヲ繫留若ハ運行セムトスルトキハ港長ノ許可ヲ受クベシ

第三十六條 灰燼、塵芥、動物ノ死體等ヲ處置セムトスルトキハ港長ノ承認シタル塵船ヲ使用スベシ

塵船ヲ使用セムトスル船舶ハ國際信號FTヲ掲揚スベシ

第三十七條 船舶ノ碇泊又ハ航行ノ妨害トナルベキ場所ニ於テ漁撈ヲ爲スベカラズ

第三十八條 港長ハ期間及區域ヲ限リ船舶ノ航行ヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ期間及區域ハ之ヲ告示ス

第三十九條 港界内及港界附近ニ於テ船舶航行ノ妨害トナルベキ總テノ難破物又ハ沈沒物等ハ之ヲ除去スル迄其ノ所有者ニ於テ危險豫防ノ爲必要ノ措置ヲ爲スベシ

第四十條 港界内ニ於テ船舶航行ノ妨害トナルベキ作業ヲ爲サムトスル者ハ豫メ港長ノ許可ヲ受クベシ港界内及港界附近ニ於テ難破物又ハ沈沒物等ヲ引揚ゲムトスル者亦同ジ

第四十一條 船舶ハ港界内及港界附近ニ於テ他船ノ運行ノ妨害トナルベキ探照燈其ノ他類似ノ燈火ヲ濫ニ使用スベカラズ

第四十二條 特設信號ヲ使用セムトスル者ハ港長ノ許可ヲ受クベシ

第四十三條 信號符字ヲ有スル船舶ハ航行中之ヲ掲揚スベシ但シ雜種船ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十四條 船舶ハ夜間航行中絶エズ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ヲ掲揚スベシ

開港港則施行規則

第四十五條 本令ニ於テ雜種船ト稱スルハ汽艇、艀船、端舟及櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ノミヲ以テ運轉スル舟ヲ謂フ

第四十六條 本令第一條、第二條、第四條、第五條、第八條乃至第十六條、第二十四條、第三十六條及第三十八條ノ規定ハ之ヲ軍艦ニ適用ス

第四十七條 報時信號及氣象信號ノ方法ハ之ヲ告示ス

第四十八條 本令ノ規定ハ船舶ニ類似セル形體ヲ有スル工作物ニ之ヲ準用ス

第七章 罰則

第四十九條 第二條、第十九條第一項及第二項、第二十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條、第五條第二項、第七條第一項、第八條、第九條第十九條第三項、第二十二條第一項、第二十三條、第二十八條乃至第三十條、第三十五條、第三十七條、第四十條及第四十四條ノ規定ニ違反シタル者第二十五條ニ規定セル事項ヲ發生セシメ之ヲ屆出デザル者及第三十八條ノ規定ニ依リ港長ノ禁止シタル區域内ヲ航行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五十條 前條ノ規定ニ該當スル者法人ナル場合ニ於テハ

其ノ者ニ適用スベキ罰則ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スベキ者ニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ昭和二年四月二十日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十一年遞信省令第十六號開港港則施行細則、明治四十一年神奈川縣令第五十五號横濱港規程、明治四十一年兵庫縣令第四十五號神戸港規程、大正十年大阪府令第七十八號大阪港規程、明治四十一年福岡縣令第四十七號長崎港規程及明治四十一年福岡縣令第二十六號門司港規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

前項ノ諸規則又ハ規程ニ依リ港長ノ爲シタル處分ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

（別表）第一號表（各港港區表）

港ノ名稱	港區	境界	碇泊スベキ船舶ノ種別
横濱	第一區	北防波堤及東防波堤内ノ水域	汽船、總噸數五百噸未滿ノ帆船及雜種船但シ雜種船ハ沿岸附近ニ限ル
	第二區	横濱北水堤燈臺ヨリ八十五度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ南方ノ水域	軍艦
	第三區	横濱北水堤燈臺ヨリ八十五度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ北方ノ水域中第四區ヲ除キタル水域	汽船、總噸數五百噸以上ノ帆船及爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ヲ搭載セル船舶
	第四區	鶴見埋立地先防砂堤及防波堤沿ヒ港界線迄引キタル線内ノ水域	汽船、帆船、雜種船及容易ニ燃燒スベキ物件ヲ搭載セル船舶
神戸	第一區	第三防波堤南燈臺ヨリ二百七十度ニ引キタル線、第三防波堤、第四防波堤及之ヲ北方ニ延長シタル線内ノ水域	汽船、帆船及雜種船但シ雜種船ハ沿岸附近ニ限ル
	第二區	第三防波堤南燈臺ヨリ二百七十度ニ引キタル線、第二防波堤及第一防波堤防波堤内ノ水域	汽船、帆船及雜種船但シ雜種船ハ沿岸附近ニ限ル
	第三區	第一防波堤東燈臺ヨリ百四十度ニ引キタル線以西ニ於テ第一防波堤外ノ水域	南方ハ主トシテ軍艦並ニ爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ヲ搭載セル船舶、沿岸附近ニハ雜種船
	第四區	新在家ノ東角ヨリ百九十五度ニ引キタル線及第一防波堤東燈臺ヨリ百四十度ニ引キタル線内ニ於テ第一區及第二區外ノ水域	汽船但シ總噸數八百噸未滿ノ汽船ハ大棧橋北側
	第五區	新在家ノ東角ヨリ百九十五度ニ引キタル線以東ノ水域	各種船舶
大阪 港内	第一區	大阪南突堤燈臺ヨリ大棧橋端ニ向ヒ千八百五十米ノ點ニ於テ百六十一度及三百四十一度ニ引キタル線ヨリ西方突堤内ノ水域	
	第二區	埠頭南角立標ヨリ百八十度ニ引キタル線ヨリ第一區境界線ニ至ル水域	
	第三區	尻無川口南岸西角ヨリ二百三十三度ニ引キタル線ヨリ第二區境界線ニ至ル水域	
	第四區	第三區境界線ヨリ南方ノ水域	
大阪 港外	第五區	大阪北突堤燈臺ヨリ二百六十度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ南方ノ水域	軍艦及爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ヲ搭載セル船舶
	第六區	大阪北突堤燈臺ヨリ二百六十度ニ向ヒ港界線迄引キタル線ノ北方ノ水域	汽船、總噸數五百噸未滿ノ帆船及雜種船但シ總噸數八百噸未滿ノ汽船ハ中島川口北端ヨリ稻佐埼ニ引キタル線以北又ハ總噸數五百噸未滿ノ帆船及雜種船ハ沿岸附近ニ限ル
長崎	第一區	小菅立標ヨリ遠見鼻立標ニ引キタル線以北ノ水域	
	第二區	女神立標ヨリ神崎鼻立標ニ引キタル線以北及小瀨戸浦立標ヨリ第一區境界線ニ至ル水域	軍艦、帆船、爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ヲ搭載シ若ハ粉塵ヲ飛散スベキ物件ヲ積卸スル船舶及雜種船但シ總噸數五百噸未滿ノ帆船及雜種船ハ沿岸附近ニ限ル
	第三區	蔭ノ尾島長刀埼立標ヨリ小ケ倉村千本山鼻立標ニ引キタル線以北及小瀨戸浦立標ヨリ鼠島外端ヲ經テ長刀埼立標ニ引キタル線以東第二區境界線ニ至ル水域	汽船、帆船及雜種船但シ總噸數五百噸未滿ノ帆船及雜種船ハ沿岸附近ニ限ル
	第四區	第一區、第二區及第三區以外ノ水域	

關門	門司區	航路ノ南側ニ於テ門司埼燈標以西、新町沖潮流觀測挂燈浮標ヨリ百八十度ニ引キタル線以東ノ水域	軍艦及各種船舶但シ總噸數八百噸未滿ノ船舶及雜種船ハ沿岸附近ニ限ル
	下關區	航路ノ北側ニ於ケル水域	各種船舶但シ總噸數八百噸未滿ノ船舶及雜種船ハ沿岸附近ニ限ル
	田野浦區	航路ノ南側ニ於テ門司埼燈標以東ノ水域	各種船舶及爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ヲ搭載セル船舶但シ總噸數八百噸未滿ノ船舶及雜種船ハ沿岸附近ニ限ル
	小倉區	航路ノ南側ニ於テ新町沖潮流觀測挂燈浮標ヨリ百八十度ニ引キタル線以西ノ水域	各種船舶及爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ヲ搭載セル船舶但シ總噸數八百噸未滿ノ船舶及雜種船ハ沿岸附近ニ限ル

第二號表（各港航路表）

港ノ名稱	航路ノ區域		特定條件
橫濱	橫濱東水堤燈臺ヨリ二百六十五度四百米ノ點、橫濱東水堤燈臺、橫濱外防波堤南燈臺及本牧挂燈浮標ヲ連ヌル線竝ニ橫濱北水堤燈臺ヨリ二百六十五度四百米ノ點、橫濱北水堤燈臺同南緣ヨリ八十五度ニ引キタル線ト北水堤上小出入口燈臺ヨリ橫濱外防波堤北燈臺ニ引キタル線ト交叉點、橫濱外防波堤北燈臺及前記交叉點ヨリ橫濱外防波堤北燈臺ニ引キタル線ノ延長線ト港界線トノ交叉點ヲ連ヌル線ノ間ノ水域	第一航路、第二防波堤南燈臺及第一防波堤東燈臺ヨリ各百四十度及三百二十度ニ引キタル平行線內ニシテ前記燈臺ノ外方ニ於テハ千米其ノ內方ニ於テハ四百米ノ水域竝ニ稅關第四突堤ノ南西端ヨリ百八十度ヘ引キタル線ノ東西兩側各七十五米ノ幅ニシテ距離九百米ノ所ヨリ前記水域トノ會合點ニ至ル迄ノ水域	
神戸	第二航路 第一防波堤西燈臺ヨリ百八十五度三十分及五度三十分ニ引キタル線ノ西側百米ノ幅ニシテ前記燈臺ノ外方ニ於テハ三百米其ノ內方ニ於テハ第二乃至第五航路ノ會合點ニ至ル迄ノ水域	第三航路 第三防波堤南燈臺及第二防波堤北燈臺ヨリ各八十七度及二百六十七度ニ引キタル平行線內ニシテ前記燈臺ノ外方ニ於テハ三百米其ノ內方ニ於テハ第二乃至第五航路ノ會合點ニ至ル迄ノ水域	總噸數二千噸未滿ノ船舶ハ已ムヲ得ザル場合ノ外第一航路ヲ航行スベカラズ
	第四航路 國產波止場及花隈町ニ建設シタル頭部三角形ノ白色立標二基ヲ見通シタル線ノ西側六十米及東側五十米ノ幅ニシテ第二乃至第五航路ノ會合點ニ至ル迄ノ水域但シ第四航路西側線ハ第二航路西側線ノ延長線トノ會合點ヨリ同延長線ニ沿ヒ第五航路ニ至ルモノトス	第五航路 兵庫島上町ニ建設シタル頭部三角形ノ紅色立標二基ヲ見通シタル線ノ北側六十米ノ幅ニシテ第二乃至第五航路ノ會合點ニ至ル迄ノ水域	總噸數二千噸未滿ノ汽船ニシテ中突堤又ハ其ノ附近ニ出入スルモノハ第四航路ニ、兵庫突堤小型船舶用岸壁又ハ其ノ附近ニ出入スルモノハ第五航路ニ依ルベシ 川崎造船所「ガントリークレーン」ノ東端又ハ高濱岸壁ニ設置セル旗竿ニ國際信號HR又ハ夜間紅白線ノ三燈ヲ縱ニ連揭シタルトキハ船舶ハ第四航路以外ヲ航行スベシ
	第六航路 第三防波堤東燈臺及假設第八號挂燈浮標ヨリ各百三十五度及三百十五度ニ引キタル平行線內ニシテ前記燈臺及挂燈浮標ノ外方ニ於テハ第四區境界線ニ至ル迄其ノ內方ニ於テハ三百米ノ水域		
大阪	內港ニ出入スル航路 大阪北突堤燈臺ヨリ二百六十度及六十七度竝大阪南突堤燈臺ヨリ二百六十度及六十四度ニ引キタル線ノ間ニシテ前記燈臺ノ外方ニ於テハ千米其ノ內方ニ於テハ第一區境界線ニ至ル迄ノ水域	安治川筋ニ出入スル航路 前項航路線ノ東側ニ起リ其ノ北線ヲ五十度千九百五十五米其ノ南線ヲ四十八度二千米各延長シタル二線內ノ水域	

爆發物

第三號表（爆發物及容易ニ燃燒スベキ物件表）

長崎	關門
女神以内ニ出入スル航路高鉾島南東端、神崎鼻立標ヨリ境界線ニ沿ヒテ百七十米ノ點ヲ連ヌル線及遠見鼻立標ヨリ境界、燈臺、境界線ニ沿ヒテ三百米ノ點ヲ連ヌル線ト蔭ノ尾島及小菅立標、女神立標ヨリ境界線ニ沿ヒテ百二十米ノ點ヲ連ヌル線ト問ノ水域	左ノ各點ヲ順次連結シタル線内ノ水域 一 鳶ケ巣山頂ヨリ三百二十度二千三百九十米 二 火ノ山下船舶通航信號所ヨリ二百二十度四百米 三 觀音崎突堤燈標ヨリ百五十一度六百米 四 山底ノ鼻燈臺ヨリ九十度二百二十米 五 山底ノ鼻燈臺ヨリ百八十度二百五十米 六 大金山ノ弦岬燈臺ヨリ百八十度二百五十米 七 金刀比羅山鼻燈臺ヨリ百八十度二百七十米 八 金刀比羅山頂ヨリ二百七十度二百七十米 九 高瀬連出シ挂燈浮標ヨリ百七十度二千二百七十米 一〇 新町沖潮流挂燈浮標ヨリ三百三十度六百米 一一 新町沖潮流觀測挂燈浮標ヨリ五十七度千二百米 一二 白木埼燈標ヨリ三百三十度六百米 一三 門司鳶ケ巣山頂ヨリ三百二十度千七十米 一四 一五 一六

火藥（有煙火藥、無煙火藥ノ類）
電酸鹽（雷汞ノ類）
起爆ノ用途ニ供スル窒化物（窒化鉛ノ類）其ノ他起爆劑
ナイトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥（各種ダイナマイトノ類）、棉火藥、硝化棉、鹽素酸鹽類（鹽素酸曹達、鹽素酸加里ノ類）、過鹽素酸鹽類（過鹽素酸加里、過鹽素酸アンモニアノ類）、硝酸鹽類、硝石（硝石、智利硝石、硝酸アンモニアノ類）
芳香系列ノ硝化物ニシテ爆發性ヲ有スルモノ（ナイトロベンヂン、ピクリン酸ノ類）
實包、空包、藥筒ノ類
火藥又ハ爆藥ヲ裝塡シタル彈丸、信管、雷管ノ類
煙火其ノ他火藥又ハ爆藥ヲ使用シタル火工品（玩具用普通火工品ヲ除ク）
壓縮瓦斯類
容易ニ燃燒スベキ物件
原油、揮發油、石油、輕油、重油其ノ他ノ石油類
黃燐、赤燐、硫化燐
カリウム、ナトリウム、マグネシウム、過酸化曹達、エーテル、硫化炭素、コロヂウム、メチールアルコール、ベンゾール、トルオール、ソルベントナフサ、アルコール、アセトン、キシロール、テレピン油、セルロイド
濃硫酸、濃硝酸
生石灰、炭化石灰、燐化石灰
其ノ他「エーベル」又ハ「ペンスキー」閉塞發焰試驗器ヲ用ヒ七百六十粍ノ氣壓ニ於テ攝氏三十五度以下ノ溫度ニテ發焰スルモノ

第一號書式　着港届

一船種
一船名
一國籍
一船籍港
一船舶所有者
一代理店
一總噸數
一登簿噸數
一最初發航地名及年月日
一最終發航地名及年月日
一着港日時
一船員數（内職員　名）
一船客數（其ノ他一二等　名）
一當港下船客數（其ノ他一二等）
一當港揚荷ノ種類及數量
一噸税有效期間

右及届出候也

年　月　日

何税關港務部宛

船長氏名

第二號書式　出港届

一船種
一船名
一國籍
一最終仕向地
一最初仕向地
一當港乘船客數（其ノ他一二等）
一當港積荷ノ種類及數量
一出港日時

右及届出候也

年　月　日

何税關港務部宛

船長氏名

第三號書式　着發届

一船種
一船名
一國籍
一船籍港

一 船舶所有者
一 代理店
一 總噸數
一 登簿噸數
一 最初發航地名及年月日
一 最終發航地名及年月日
一 最終仕向地
一 最初仕向地
一 着港日時
一 出港日時
一 船員數（内職員　名）
一 當港下船客數（一二等　其ノ他）
一 當港乘船客數（一二等　其ノ他）
一 當港揚荷ノ種類及數量
一 當港積荷ノ種類及數量
一 噸稅有效期間

右及屆出候也

年　月　日

何稅關港務部宛

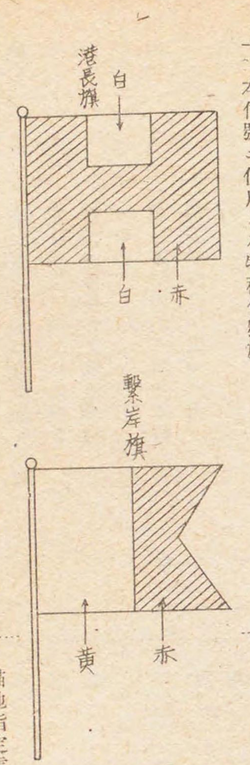
船長氏名

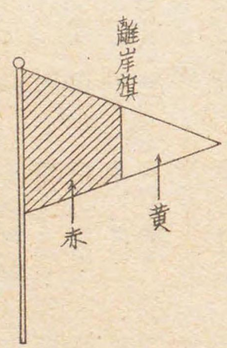
開港港則施行規則第二條ノ規定ニ依ル錨地ノ指定ニ關スル特定信號及之ヲ行フベキ場所

（昭和二年遞信省告示第九百三十七號）

改正　昭和十五年六月遞信省告示第千六百五十六號

一 本信號ニ使用スル特種信號旗





二 特定信號ヲ行フベキ場所

神戸ニ在リテハ和田岬檢疫所又ハ第五突堤信號所及川崎鼻見張所

開港々則施行規則第二條ノ規定ニ依ル錨地ノ指定ニ關スル特定信號及之ヲ行フベキ場所

錨地指定信號

港長旗、A　第一區内ニ錨泊スベシ

同、B　第二區内同

信文

錨地表示信號

回答旗、A

同、B

大阪ニ在リテハ北防波堤關門見張所但シ同所ニ於テ信號ヲ爲スコト能ハザルトキハ黑球一箇ヲ揭揚ス此ノ場合ニ在リテハ港務部廳舍屋上見張所

長崎ニ在リテハ女神見張所

關門ニ在リテハ六連島信號所、部埼信號所、大里信號所

葛葉信號所、稅關廳舍屋上及下關出張所廳舍屋上信號所

三 特定信號

神戸港

（一） 旗旒信號（特種信號旗及國際信號旗ヲ連揭ス）

（イ） 錨地指定竝ニ錨地表示信號

港長旗、	C、	第三區內同	回答旗、	C	同、	7	同	第七番同	同、	7
同、	D	第四區內同	同、	D	同、	8	同	第八番同	同、	8
同、	E	第五區內同	同、	E	同、	9	同	第九番同	同、	9
同、	X	第二區內稅關浮標第十八番ノ南方ニ航路ヲ避ケテ假泊シ檢疫官ノ臨檢ヲ待ツベシ	同、	X	同、	10	同	第十番同	同、	10
同、	Y	第三區內和田岬沖合ニ假泊シ檢疫官ノ臨檢ヲ待ツベシ	同、	Y	同、	11	同	第十一番同	同、	11
同、	Z	第四區內第二防波堤ノ東側ニ航路ヲ避ケテ假泊シ檢疫官ノ臨檢ヲ待ツベシ	同、	Z	同、	12	同	第十二番同	同、	12
同、	1	稅關浮標第一番ニ繫留スベシ	同、	1	同、	13	同	第十三番同	同、	13
同、	2	同	同、	2	同、	14	同	第十四番同	同、	14
同、	3	同	同、	3	同、	15	同	第十五番同	同、	15
同、	4	同	同、	4	同、	16	同	第十六番同	同、	16
同、	5	同	同、	5	同、	17	同	第十七番同	同、	17
同、	6	同	同、	6	同、	18	同	第十八番同	同、	18
同、	M、B	同	同、	M、B	同、	19	同	第十九番同	同、	19
同、	M、C	同	同、	M、C	同、	20	同	第二十番同	同、	20
同、	M、D	同	同、	M、D	同、	21	同	第二十一番同	同、	21
同、	K、A	川崎浮標Aニ繫留スベシ	同、	K、A	同、	22	同	第二十二番同	同、	22
同、	K、B	同	同、	K、B	同、	23	同	第二十三番同	同、	23
同、	K、C	同	同、	K、C	同、	24	同	第二十四番同	同、	24
繫岸旗、	A	稅關突堤繫船岸壁Aニ繫留スベシ	第二代表旗、	A、	同、	25	同	第二十五番同	同、	M、A
同、	B	同	同、	B	同、					
同、	C	同	同、	C	同、					
同、	D	同	同、	D	同、					
同、	E	同	同、	E	同、					
同、	F	同	同、	F	同、					
同、	G	同	同、	G	同、					
同、	H	同	同、	H	同、					
同、	I	同	同、	I	同、					
同、	J	同	同、	J	同、					
同、	K	同	同、	K	同、					
同、	L	同	同、	L	同、					
同、	M	同	同、	M	同、					

同、	N	同	同、	N	同、		
同、	O	同	同、	O	同、		
同、	P	同	同、	P	同、		
同、	Q	同	同、	Q	同、		
同、	R	同	同、	R	同、		
同、	S	同	同、	S	同、		
同、	T	同	同、	T	同、		
同、	U	同	同、	U	同、		
同、	W	同	同、	W	同、		
同、	X	同	同、	X	同、		
同、	Y	同	同、	Y	同、		
同、	Z	同	同、	Z	同、		
繫岸旗、	H、A	兵庫突堤繫船岸壁Aニ繫留スベシ	第二代表旗、	H、A			
同、	H、B	同	同、	H、B			
同、	H、C	同	同、	H、C			

開港々則施行規則第二條ノ規定ニ依ル錨地ノ指定ニ關スル特定信號及之ヲ行フベキ場所

兵庫突堤A、B又ハCニ限リ錨地ノ指定ヲ要セザル船舶ハ錨地表示信號中A、B又ハCノ代リニ回答旗ヲ用フルコトヲ得

繫岸旗、H、D　兵庫突堤繫船岸壁Dニ繫留スベシ　第二代表旗、H、D
同、H、E　同　同、H、E　同
同、H、F　同　同、H、F　同
同、H、G　同　同、H、G　同
同、H、H　同　同、H、H　同
同、H、I　同　同、H、I　同
同、H、J　同　同、H、J　同
同、H、K　同　同、H、K　同
同、H、L　同　同、H、L　同
同、H、M　同　同、H、M　同
同、H、N　同　同、H、N　同
同、H、O　同　同、H、O　同
同、H、P　同　同、H、P　同
同、H、Q　同　同、H、Q　同
同、H、R　同　同、H、R　同
同、H、S　同　同、H、S　同
同、N、A　中突堤繫船岸壁Aニ繫留スベシ　第二代表旗、N、A
同、N、B　同　同、N、B
同、N、C　同　同、N、C
同、N、D　同　同、N、D
同、N、E　同　同、N、E
同、N、F　同　同、N、F
同、N、G　同　同、N、G
中突堤D、E、F又ハGニ限リ錨地ノ指定ヲ要セザル船舶ハ錨地表示信號中D、E、F又ハGノ代リニ回答旗ヲ用フルコトヲ得
繫岸旗、T、A　東神棧橋A側ニ繫留スベシ　第二代表旗、T、A
同、T、B　同　同、T、B
同、M、T　三菱高濱岸壁ニ繫留スベシ　同、M、T
同、M、W　同　和田棧橋同　同、M、W
三菱造船所構内ニ繫留又ハ入渠　同、M、D
川崎造船所構内ニ繫留又ハ入渠　同、K、D

（ロ）離岸信號

繫留場所　離岸信號
稅關突堤繫船岸壁　離岸旗、岸壁名ニ該當スル國際信號旗
兵庫突堤繫船岸壁　同、H、岸壁名ニ該當スル國際信號旗
中突堤繫船岸壁　同、N、岸壁名ニ該當スル國際信號旗
東神棧橋A側　同、T、A
同　B側　同、T、B
三菱高濱岸壁　同、M、T
三菱和田棧橋　同、M、W
（二）揭燈信號（赤色及白色ノ燈四箇ヲ縱ニ連揭ス）

繫留場所　信號　文
稅關突堤繫船岸壁及東神棧橋　赤白白赤　豫定繫岸船ハ直ニ豫定ノ位置ニ繫留スベシ
兵庫突堤繫船岸壁及三菱和田棧橋　白赤赤白　豫定離岸船ハ直ニ離岸スベシ
赤白白白　豫定繫岸船ハ直ニ豫定ノ位置ニ繫留スベシ
白赤赤赤　豫定離岸船ハ直ニ離岸スベシ
中突堤繫船岸壁及三菱高濱岸壁　赤赤白白　豫定繫岸船ハ直ニ豫定ノ位置ニ繫留スベシ
白白赤赤　豫定離岸船ハ直ニ離岸スベシ

注意

一、旗旒信號ニ依リ錨地ノ指定ヲ受ケタル船舶ハ錨地表示信號ヲ揭ゲテ應信スベシ
二、稅關突堤繫船岸壁又ハ東神棧橋ニ繫留又ハ離岸セムトスル船舶ハ第五突堤信號所ノ信號ニ留意スベシ
三、兵庫突堤繫船岸壁、中突堤繫船岸壁、三菱高濱岸壁又ハ三菱和田棧橋ニ繫留又ハ離岸セムトスル船舶ハ川崎鼻見張所ノ信號ニ留意スベシ
四、前二號ノ船舶ニ對シテハ（イ）繫岸ニ際シテハ錨地指定信號（ロ）離岸ニ際シテハ離岸信號（ハ）夜間ハ揭燈信號ニ依リ繫留又ハ離岸スベキ旨指示ス此ノ場合ニ於テ其ノ船舶ハ晝間ニ在リテハ回答旗ヲ揭ゲテ應答スベシ但本號繫岸信號ニ依リ初メテ錨地ノ指定ヲ受ケタル船舶ハ錨地表示信號ヲ以テ回答旗ニ代フルコトヲ得
五、離岸信號ハ岸壁又ハ棧橋ニ繫留中ノ船舶ガ離岸準備全ク整ヒ信號符字ヲ揭ゲタル時揭揚ス

大阪港

開港々則施行規則第二條ノ規定ニ依ル錨地ノ指定ニ關スル特定信號及之ヲ行フベキ場所　五〇九

一　浮標繫留信號

繫船浮標ニ指定スルトキハ港長旗ノ下ニ其ノ指定スベキ浮標番號ニ該當スル國際信號數字旗ヲ連揭シテ之ヲ表示ス受信船舶ハ同一信號ヲ揭ゲテ應信スルモノトス但シ港長旗ノ代リニ船主旗ヲ用ヒ且繫留ノ終了スル迄之ヲ揭ゲ置クベシ

二　岸壁又ハ棧橋繫留信號

繫船岸壁又ハ棧橋ニ指定スルトキハ繫岸旗ノ下ニ其ノ指定スベキ岸壁番號又ハ棧橋番號ニ該當スル國際信號數字旗ヲ連揭シテ之ヲ表示ス

受信船舶ハ同一信號ヲ揭ゲテ應信スルモノトス但シ繫岸旗ノ代リニ國際信號旗Nヲ用ヒ且繫留ノ終了スル迄之ヲ揭ゲ置クベシ

三　錨泊信號

信號		信文
港長旗ノ下ニ國際信號旗	A	第一區一番浮標ノ西方ニ航路ヲ避ケテ錨泊スベシ
同	B	第一區九番浮標ノ南西方ニ航路ヲ避ケテ錨泊スベシ
同	C	第一區南防波堤ニ沿ヒ各浮標ヨリ相當ノ距離ヲ隔テテ錨泊スベシ
同	D	第二區北寄リニ航路ヲ避ケテ錨泊スベシ
同	E	第二區南防波堤ニ沿ヒ各浮標ヨリ相當ノ距離ヲ隔テテ錨泊スベシ
同	F	第四區西寄リニ各浮標ヨリ相當ノ距離ヲ隔テテ錨泊スベシ
同	G	第五區ニ航路ヲ避ケテ錨泊スベシ
同	H	第六區ニ錨泊スベシ
同	I	第一區ニ航路ヲ避ケテ假泊シ指定ヲ待ツベシ
同	J	外港ニ航路ヲ避ケテ假泊シ信號又ハ無線電信ニ依ル指定ヲ待ツベシ
同	K	無線電信ニ依リ港務部ト連絡シテ指定ヲ受クベシ
受信船舶ハ同一信號ヲ揭ゲテ應信スルモノトス但シ港長旗ノ代リニ船主旗ヲ用ヒ且繫留ノ終了スル迄之ヲ揭ゲ置クベシ		

注意

一　第一號繫船岸以南ノ岸壁ニ繫留セントスル船舶ハ同繫船岸信號所ノ信號ニ留意スベシ

二　中央突堤（舊大棧橋）以北ノ棧橋又ハ岸壁ニ繫留セントスル船舶ハ港務部廳舍屋上見張所ノ信號ニ留意スベシ

三　第一及第二號繫船岸ヨリ離岸セントスル船舶ニシテ離岸ノ準備全ク整ヒタルトキハ信號符字ヲ揭ゲテ長聲一發シ第一號繫船岸信號所ノ信號ニ留意スベシ

四　開港港則施行規則第五條ニ該當スル船舶及豫メ港長ノ許可ヲ受ケ錨地ノ指定ヲ要セザル船舶ハ港界附近ニ來リタルトキヨリ錨地ニ繫留シ終ル迄其ノ錨地ニ關シテ規定セラレタル應信信號ニ該當スル特定信號ヲ揭グベシ

五　浮標十八番乃至二十二番ニ繫留スル船舶ハ成ルベク船首ヲ西ニ向ケ其ノ首尾ヲ繫留スベシ

夜間信號

第一號繫船岸以南ノ岸壁ニ繫留又ハ離岸セントスル船舶ニ對シテハ同繫船岸信號所信號柱ノ横架ニ赤色及白色ノ燈四箇ヲ上下ニ約一米ヅツ隔テ、連揭ス

其ノ信號竝ニ信文左ノ如シ

信號	信文
赤白白赤	豫定繫岸船ハ直ニ豫定ノ位置ニ繫留スベシ
白赤赤白	豫定離岸船ハ直ニ離岸スベシ 但シ離岸信號ハ當分ノ間之ヲ行ハズ

開港々則施行規則第二條ノ規定ニ依ル錨地ノ指定ニ關スル特定信號及之ヲ行フベキ場所　五一一

長崎港

信號		信文
港長旗ノ下ニ國際信號旗	A	第一號浮標ニ繫留スベシ
同	B	第二號浮標　同
同	C	第三號浮標　同
同	D	第四號浮標　同
同	E	第五號浮標　同
同	F	第六號浮標　同
同	G	第七號浮標　同
同	H	第八號浮標　同
同	I	第九號浮標　同
同	J	太田尾一號浮標　同
同	K	太田尾二號浮標　同
同	L	西泊灣外浮標　同
同	M	高鉾浮標　同
同	N	西泊灣內繫索浮標　同
同	O	第一區內內方ニ錨泊スベシ
同	P	第二區戸町灣ニ航路ヲ避ケ錨泊スベシ

同　Q　第三區內ニ航路ヲ避ケ錨泊スベシ
同　R　第四區內ニ錨泊スベシ
同　S　出島繫船岸壁Aノ位置ニ繫留スベシ
同　T　出島繫船岸壁B　同
同　U　出島繫船岸壁C　同
同　V　木鉢浦ニ錨泊スベシ

私設繫船浮標ニ指定スルトキハ所屬會社旗ノ下ニ其ノ指定スベキ浮標名ニ該當スル國際信號旗ヲ連揭シテ之ヲ表示シ浮標名ナキトキハ單ニ所屬會社旗ノミヲ揭ゲテ之ヲ表示ス

關門港

關門ニ入港スル船舶ニシテ錨地指定ヲ受クベキ場所ニ到着シタルトキハ目的ノ入港區ヲ表示スル爲內海水道航行規則第十條第三號乃至第六號ニ定ムル信號旗ヲ錨地ノ指定ヲ受クル迄揭揚スベシ

一　門司區

(イ)錨泊信號

信號	信文
港長旗ノ下ニ	A
國際信號旗	

柁ケ鼻南方ニ錨泊スベシ

同　B　葛葉沖ニ錨泊スベシ
同　C　小森江沖ニ錨泊スベシ

受信船舶ハ指定錨地ニ繫留シ終ル迄同一信號ヲ揭グベシ
但シ港長旗ノ代リニ船主旗ヲ用フベシ

(ロ)浮標繫留信號

港長旗ノ下ニ其ノ指定スベキ浮標番號ニ該當スル國際信號數字旗ヲ連揭シテ之ヲ表示ス
受信船舶ハ指定錨地ニ繫留シ終ル迄同一信號ヲ揭グベシ
但シ港長旗ノ代リニ船主旗ヲ用フベシ

(ハ)岸壁繫留信號

繫岸旗ノ下ニ其ノ指定スベキ岸壁番號ニ該當スル國際信號數字旗ヲ連揭シテ之ヲ表示ス
受信船舶ハ指定錨地ニ繫留シ終ル迄同一信號ヲ揭グベシ
但シ繫岸旗ノ代リニM旗ヲ用フベシ

二　下關區

(イ)錨泊信號

信號	信文
港長旗ノ下ニ	S、A
國際信號旗	
同	S、B
同	S、C

觀音崎町沖合ニ錨泊スベシ
巖流島西方ニ錨泊スベシ
彦島弟子待鼻南方ニ錨泊スベシ

受信船舶ハ指定錨地ニ繫留シ終ル迄同一信號ヲ揭グベシ
但シ港長旗ノ代リニ船主旗ヲ用フベシ

(ロ)浮標繫留信號

港長旗ノ下ニ國際信號旗S及其ノ指定スベキ浮標番號ニ該當スル國際信號數字旗ヲ連揭シテ之ヲ表示ス
受信船舶ハ指定錨地ニ繫留シ終ル迄同一信號ヲ揭グベシ
但シ港長旗ノ代リニ船主旗ヲ用フベシ

(ハ)岸壁繫留信號

繫岸旗ノ下ニ國際信號旗S及其ノ指定スベキ岸壁番號ニ該當スル國際信號數字旗ヲ連揭シテ之ヲ表示ス
受信船舶ハ指定錨地ニ繫留シ終ル迄同一信號ヲ揭グベシ
但シ繫岸旗ヲ揭グルニ及バズ

三　田野浦區

(イ)錨泊信號

信號	信文
港長旗ノ下ニ國際信號旗	T

田野浦區ニ錨泊スベシ

受信船舶ハ指定錨地ニ繫留シ終ル迄同一信號ヲ揭グベシ
但シ港長旗ノ代リニ船主旗ヲ用フベシ

四　小倉區

(イ)錨泊信號

信號	信文
港長旗ノ下ニ國際信號旗	K

小倉區ニ錨泊スベシ

受信船舶ハ指定錨地ニ繫留シ終ル迄同一信號ヲ揭グベシ
但シ港長旗ノ代リニ船主旗ヲ用フベシ

開港港則施行規則第四十七條ノ規定ニ依ル報時信號方法

(昭和二年遞信省告示第九百三十八號)
改正　昭和十五年六月遞信省告示第千六百五十七號

報時信號ハ毎日(但シ横濱、神戸、大阪及關門ニ在リテハ日曜日及一般ノ休日トシテ指定セラレタル日ヲ除ク)本邦中央標準時十二時(正午)即綠威平時三時ニ報時球ニ依リ之ヲ執行シ長崎ニ在リテハ更ニ本邦中央標準時二十一時(午後九時)即綠威平時十二時ニ報時燈ニ依リ之ヲ執行ス

報時球

一　報時球ハ時報檣ニ裝置シ球ハ中央ニ白色横線一條ヲ畫シテ赤色ニ檣ハ白色ニ塗裝ス

報時檣ノ位置（水路部刊行海圖ニ依ル）左ノ如シ

横濱ニ在リテハ東經百三十九度三十八分五十五秒北緯三十五度二十六分四十二秒

神戸ニ在リテハ東經百三十五度十一分四十一秒北緯三十四度四十分五十八秒

大阪ニ在リテハ東經百三十五度二十五分五十七秒北緯三十四度三十八分五十四秒

長崎ニ在リテハ東經百二十九度五十二分二十一秒北緯三十二度四十三分四十三秒

關門ニ在リテハ東經百三十度五十七分三十九秒北緯三十三度五十六分二十六秒

二　球ハ常ニ之ヲ檣ノ下部横桁上若ハ之ニ相當スル箇所ニ据置キ正午約五分前檣ノ上部横桁下ニ引揚ゲ正午降下セシム（降下シ始ムル瞬時ヲ以テ正午トス）

三　前項信號ニ過誤アリタルトキハ檣ノ横桁ニ國際信號旗Wヲ掲揚ス但シ此ノ場合長崎ニ在リテハ前項ノ方法ニ準ジ更ニ午後一時ニ信號ヲ執行ス

四　故障ニ依リ報時信號ヲ爲スコトヲ得ザルトキハ檣ノ横桁ニ國際信號旗Dヲ掲揚ス

報時燈

一　報時燈ハ報時檣ニ隣接セル信號柱ニ裝置シ三箇ノ綠燈ヲ以テ三角形ヲ表示ス

二　報時燈ハ之ヲ午後九時約五分前ニ點燈シ引續キ約二分間反覆明滅シ其ノ後不動ト爲シ同九時零分消燈ス但シ不動點燈中午後八時五十八分同時五十九分ノ二回ニ豫備信號トシテ瞬時消燈ス

三　前項信號ニ過誤アリタルトキハ同燈ヲ午後九時零分十秒ヨリ三十秒間反覆明滅シタル後前項ノ方法ニ準ジ更ニ午後九時三十分ニ信號ヲ執行ス

四　故障ニ依リ報時信號ヲ爲スコトヲ得ザルトキハ報時燈ヲ點燈セズ

開港港則施行規則第四十七條ノ四ノ規定ニ依ル氣壓示度信號ノ方法

（昭和二年九月遞信省告示第九百三十九號）

改正　昭和八年十一月遞信省告示第二千四百八十九號

一　氣壓示度ハ國際信號法ニ依リ當日正午時ニ於ケル海面氣壓ヲ表示ス

二　場所及時刻

神戸ニ在リテハ神戸税關港務部屋上ニ設備セル標柱ニ毎日（但シ日曜日及一般ノ休日トシテ指定セラレタル日ヲ除ク）午後零時十五分ヨリ同時三十分迄信號ヲ掲揚ス

長崎ニ在リテハ長崎税關港務部報時觀測所構内ノ報時檣ニ毎日午後零時十五分ヨリ同時三十分迄信號ヲ掲揚ス

開港港則施行規則第四十七條ノ四ノ規定ニ依ル横濱入港船舶ノ錨地信號

（昭和十二年九月遞信省告示第二千四十六號）

錨地信號	信文
回答旗ノ下ニ國際信號旗1	第一區内ニ錨泊
同2	第二區内ニ錨泊
同3	第三區内ニ錨泊
同4	第四區内ニ錨泊
同P	山下町棧橋ニ繫留
同A	新港町岸壁一乃至四號ニ繫留
同B	新港町岸壁五乃至八號ニ繫留
同C	新港町岸壁九乃至十二號ニ繫留
同T	高島町市棧橋ニ繫留
同Y	山内町市横棧橋ニ繫留
同M、A	瑞穗町A、B岸壁ニ繫留

同	回答旗ノ下ニ國際信號旗	M、C	瑞穗町C、D、E、F、G岸壁ニ繫留
同		Y、D	横濱船渠ニ入渠
同		A、D	淺野船渠ニ入渠
同	1同	繫船浮標第一番ニ繫留	
同	2同	第二番	同
同	3同	第三番	同
同	4同	第四番	同
同	5同	第五番	同
同	6同	第六番	同
同	7同	第七番	同
同	8同	第八番	同
同	9同	第九番	同
同	10同	第十番	同
同	11同	第十一番	同
同	12同	第十二番	同
同	13同	第十三番	同
同	14同	第十四番	同
同	15同	第十五番	同
同	16同	第十六番	同
同	17同	第十七番	同
同	18同	第十八番	同
同	19同	第十九番	同
同	20同	第二十番	同
同	21同	第二十一番	同
同	22同	第二十二番	同
同	23同	第二十三番	同
同	24同	第二十四番	同
同	25同	第二十五番	同
同	30同	第四區繫船浮標三十、三十一番間ニ繫留	
同	31同	三十一、三十二番間	同
同	32同	三十二、三十三番間	同
同	33同	三十三、三十四番間	同
同	Q、3	第三區所在ノ繫船岸ニ繫留	
同	A、4	第四區ライジング石油會社及以西ノ繫船岸ニ繫留	
同	B、4	第四區日清製粉會社及三井埠頭間ノ繫船岸(百間運河内ヲ含ム)ニ繫留	
同	C、4	三菱石油會社及以東ノ繫船岸ニ繫留	

開港及開港閉鎖ニ關スル件

(明治三十二年七月)
(勅令第三百四十二號)
改正 昭和十五年
勅令第四百八號

第一條 從來ノ開港(神奈川縣横濱、長崎縣長崎、北海道函館、兵庫縣神戸、新潟縣新潟、新潟縣夷及大阪府大阪)ノ外左ノ諸港ヲ開港トス

廳府縣	港名
靜岡	清水
愛知	武豐、名古屋
三重	四日市
岡山	宇野
廣島	尾道、糸崎
愛媛	今治
高知	高知
山口	宇部、萩
福岡(關門)	若松、博多、三池
福岡	唐津、住ノ江
佐賀	三角
熊本	鹿兒島
鹿兒島	嚴原、口ノ津
長崎	那覇
沖縄	濱田
島根	境
鳥取	宮津
京都	敦賀
福井	七尾
石川	伏木、東岩瀬
富山	船川
秋田	青森、八戸
青森	釜石
岩手	鹽釜
宮城	小樽、留萬、根室、釧路、室蘭
北海道	大泊、眞岡
樺太	

第二條 前條ノ開港ハ二年間ノ輸出入貨物ノ價額五萬圓ニ達セザル場合又ハ其ノ附近ノ地ニ新ニ開港ヲ設クル場合ニ於テ政府之ヲ存置スルノ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ閉鎖スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ大藏大臣ハ閉鎖ノ三月前其ノ時期ヲ公告スベシ

第三條 戰時又ハ事變ニ際シ政府必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ第一條ノ開港ヲ閉鎖スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ大藏大臣ハ豫メ閉鎖ノ時期ヲ公告スベシ

附　則

本令ハ關稅法施行ノ日ヨリ施行ス

横濱、神戸、長崎港ニ開港港則實施ノ件

（明治三十一年九月遞信省告示第二百三十一號）

明治三十一年勅令第百三十九號開港々則ハ來ル十月十日ヨリ横濱港ニ同十一月一日ヨリ神戸港及長崎港ニ之ヲ實施ス

開港港則ヲ大阪港ニ施行ノ件

（大正十年八月遞信省告示第千三百六十三號）

本月二十日ヨリ明治三十一年勅令第百三十九號開港々則ヲ大阪港ニ實施ス

開港港則ヲ關門港ニ實施ノ件

（昭和十五年六月遞信省告示第千六百五十八號）

明治三十一年勅令第百三十九號開港港則ハ昭和十五年七月一日ヨリ關門港ニ之ヲ實施ス

明治三十三年十一月遞信省告示第四百四十九號ハ之ヲ廢止ス

朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶ニシテ戰時陸海軍ノ使用ニ供セラルルモノ內地不開港場ニ寄港スルコトヲ得ルノ件

（大正三年九月遞信省令第二十五號）

朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶ニシテ戰時陸海軍ノ使用ニ供セラルルモノハ陸海軍ノ必要ニ因リ內地ノ不開港場ニ寄港スルコトヲ得

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

横濱、神戸、長崎港ニ開港港則實施ノ件・開港港則ヲ大阪港ニ施行ノ件・開港々則ヲ關門港ニ實施ノ件・朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶ニシテ戰時陸海軍ノ使用ニ供セラルルモノ內地不開港場ニ寄港スルコトヲ得ルノ件・東京港取締規則

東京港取締規則

（大正十三年一月警視廳令第十號）

改正　昭和五年十一月警視廳令第三十九號

第一條 本令ニ於テ東京港ト稱スルハ月島三號地西端ト品川燈臺トヲ連結スル線及燈臺ヨリ南六十八度東（眞方位）ニ引キタル一線以西ニ於テ同燈臺ヲ中心トシテ三海里ノ半徑ヲ以テ畫ケル弧ト永代橋、相生橋、京橋區高橋及同稻荷橋ニ依リ圍マルル水域ヲ云フ

第二條 東京港ノ港內ヲ左ノ六區ニ別チ第一區乃至第四區ヲ內港、第五區及六區ヲ外港ト稱ス

第一區　石川島北端ト越中島北西端トヲ連ヌル線ト相生橋トニ依リ圍マルル水域

第二區　永代橋ヨリ月島三號地西端ニ至ル水域

第三區　月島三號地西端ヨリ品川燈臺ニ至ル澪標內ノ水域

第四區　品川燈臺南方澪標內ノ水域

第五區　品川燈臺南方東側澪標及其ノ延長線ノ東部水域

第六區　前各區以外ノ水域

第三條 左ノ船舶ニ對スル錨地ハ第五區トス
一 爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ヲ積載セル船舶
二 傳染病ノ疑アル患者若ハ病獸ノ發生シタル船舶
第四條 休航船ノ錨地ハ第一區トス但シ東京水上署長（以下單ニ水上署長ト稱ス）ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ
第五條 左ノ水域内ニ於テ碇泊スルコトヲ得ズ
一 （削除）
二 品川燈臺南方ノ兩側澪標延長線ニ依リ圍マルル第六區内ノ水域
第六條 内港ニ碇泊スル船舶ハ河岸又ハ澪標ニ接近シ單列ニ水流ニ沿ヒ船首尾ニ投錨若ハ繫止ヲ爲スベシ
前項ノ船舶ノ水路ニ面スル舷側ニ横付ケスル艀船ハ單列ナルコトヲ要ス
水上署長ハ港内ノ狀況ニ依リ前二項ノ規定ニ拘ラズ船舶ノ繫船又艀船ノ横付ケヲ許可スルコトヲ得
第七條 總噸數百噸以上ノ汽船又ハ帆船ニシテ内港ニ入ラムトスルトキハ水上署長ヨリ錨地ノ指定ヲ受クベシ
前項以外ノ船舶ト雖水上署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ錨地ノ指定ヲ爲スコトヲ得

海軍艦船艇ニシテ内港ニ碇泊セムトスルトキハ水上署長ノ指定ニ依リ其ノ錨地ヲ定ムベシ
第八條 錨地ノ指定ヲ受ケムトスル船舶ハ信號符字ヲ揭揚シ水上署長ノ指揮ヲ受クベシ
前項ノ船舶ニシテ日沒後來著シタルトキハ外港ニ停船シ日出ヲ待ツベシ
第九條 天候其ノ他止ムヲ得ザル事由ニ依リ錨地ノ指定ヲ受ケズシテ碇泊シ又ハ指定セラレタル錨地ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨水上署長ニ屆出ヅベシ
第十條 水上署長ハ港内ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ航行ヲ禁止シ轉錨ヲ命ジ又ハ申請ニ依リ錨地ノ變更ヲ許可スルコトヲ得
第十一條 錨地ノ指定ヲ受ケタル船舶其ノ錨地ニ到著シタルトキハ遲滯ナク別記樣式ニ依ル著發屆ヲ水上署長ニ提出スベシ
第十二條 前條ノ屆出事項中發航豫定時日ヲ變更シタルトキハ其ノ旨水上署長ニ屆出ヅベシ
第十三條 定期船トシテ出入スル船舶ハ豫メ錨地ノ指定ヲ受クルコトヲ得
前項ニ依リ豫メ錨地ノ指定ヲ受ケタル船舶ニ對シテハ著發屆ノ提出ヲ免除ス
第十四條乃至第十七條 （削除）
第十八條 内港ニ於テハ筏ハ汽船ニ曳カレ航行スベシ
第十九條 内港ニ於テハ帆船ハ縫航スベカラズ
第二十條 （削除）
第二十一條 （削除）
第二十二條 内港ニ於テ總噸數五百噸以上ノ船舶ノ旋回スルトキハ周圍ヨリ最モ見得易キ所ニ晝間ニ在リテハ直徑約二尺ノ黑球又ハ黑色形象一個ヲ夜間ニ在リテハ紅燈一箇ヲ揭グベシ
第二十三條 （削除）
第二十四條 （削除）
第二十五條 港内ニ於テ左ノ行爲ヲ爲サムトスルトキハ水上署長ノ許可ヲ受クベシ
一 船舶ニ積載セル竹木ヲ水上ニ下サムトスルトキ又ハ竹木ヲ水上ニ繫留セムトスルトキ
二 難破物又ハ沈沒品ノ引上ヲ爲サムトスルトキ
三 爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物品ヲ運搬陸揚又ハ船積セムトスルトキ
四 特設信號ヲ使用セムトスルトキ

五 船舶ヲ進水セムトスルトキ
六 船舶ヲ休繫艤裝又ハ大修繕ヲ爲サムトスルトキ
第二十六條 （削除）
第二十七條 （削除）
第二十八條 船舶内ニ於テ傳染病ノ疑アル患者若ハ病獸發生シタルトキハ直ニ之ヲ水上署長ニ屆出テ其ノ指揮ヲ受クベシ
第二十九條 第三條各號ノ一ニ該當スル船舶ハ前檣頭ニ夜間ハ紅燈一箇ヲ晝間ハ第一號ニ該當スルモノニ在リテハ萬國船舶信號旗Bヲ第二號ニ該當スルモノニ在リテハQヲ揭グベシ
第三十條 船舶ガ港内ニ於テ火ヲ失シタルトキハ號鐘ヲ亂打シ且晝間ハNMノ信號旗ヲ揭ゲ夜間ハ絕エズ紅燈ヲ上下スベシ
第三十一條 （削除）
第三十二條 （削除）
第三十三條 港内ニ於テハ遊船ノ徘徊、短艇ノ競漕又ハ游泳ヲ爲スコトヲ得ズ
第三十四條 信號ヲ以テ錨地ヲ指定スルトキハ特定信號ニ依ル

前項ノ特定信號ハ別ニ之ヲ定ム

第三十五條 本令及水上取締規則ニ定ムルモノノ外船舶ノ點燈、航方ノ信號ニ關シテハ海上衝突豫防法ノ規定ニ依ル

第三十六條 本令ノ規定ニ違反シ若ハ本令ニ基キ發スル命令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

第三十七條 本令ノ施行期日ハ別ニ之ヲ定ム（大正十四年三月警視廳令第十二號ヲ以テ大正十四年四月一日ヨリ施行）

様　式

著　發　屆

一、船舶ノ種類及名稱
一、船舶所有者
一、船　籍　港
一、總　噸　數
一、積荷ノ種類及數量
一、發航地及發航ノ年月日
一、指定錨地及錨地著年月日
一、發航豫定時日及仕向地

東京水上警察署長宛　　船　長

名古屋港取締規則

（大正元年愛知縣令第二十三號）
改正　昭和十三年九月愛知縣令第七十一號

第一章　總　則

第一條 明治四〇年勅令第三三號名古屋港區域ヲ內港及外港ニ區分ス

內港ハ東西兩突堤ヲ以テ抱擁シタル水面ノ區域トス

外港ハ內港ニ屬セザル水面ノ區域トス

第二條 內港ヲ分テ航路及碇泊所トス

一　航路ハ添付圖面點線ノ區域トス（圖面ヲ略ス以下同ジ）

二　碇泊所ハ之ヲ二區ニ分チ第一區ハ添付圖面鎖線ノ區域ニシテ總噸數五〇噸以上ノ汽船ノ碇泊所トシ第二區ハ第一區ノ區域外ニシテ總噸數五〇噸未滿ノ汽船及帆船並雜種船ノ碇泊所トス

第三條 第二區碇泊所ニ碇泊スベキ船舶ハ特ニ棧橋長ノ許可ヲ受ケ揚荷若ハ積荷ヲ終ルマデ第一區碇泊所內ニ碇泊スルコトヲ得

第四條 第一區碇泊所ニ碇泊スベキ船舶ハ西突堤燈臺外ニ於テ棧橋長ヨリ碇泊場ノ指定ヲ受クベシ

第一區碇泊所ニ碇泊ノ船舶ハ許可ヲ得ズシテ碇泊場ヲ變更スルコトヲ得ズ但シ風波其ノ他ノ災害ノ爲メ避難セントスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但シ書ノ事故止ミタルトキハ速ニ所定ノ位置ニ移錨スベシ

第五條 船舶輻輳ノ場合港內ノ秩序保持ノ爲メ必要ナルトキハ水上警察署ハ第二區碇泊所ニ碇泊スル船舶ニ對シ碇泊場ヲ指定スルコトアルベシ

第六條 警察官ニ於テ必要ト認ムルトキハ碇泊中ノ船舶ニ臨檢シ又ハ一時船舶ノ航行ヲ停止セシムルコトアルベシ

第七條 船舶ハ次ニ揭グル場所ニ於テ碇泊又ハ停留スルコトヲ得ズ

一　航　路
二　棧橋ノ附近
三　河口及澪筋

名古屋港取締規則

次ニ揭グル事項ニ該當スル場合ハ前項ニ依ラザルコトヲ得

一　港內ノ工事ニ從事スルトキ
二　沈沒品ノ引上ニ從事スルトキ
三　遭難船舶ノ救助ニ從事スルトキ
四　災害ノ爲運轉ノ自由ヲ得ザルトキ

前項各號ノ一ニ該當スル船舶航路內ニ碇泊若ハ停船中ハ海上衝突豫防法第四條第一項ニ依リ船燈又ハ形象ヲ揭グベシ

第八條 棧橋ハ鐵棧橋ノ全體及其ノ附屬器具ヲ總稱ス

埠頭ハ張石全部建築物及其ノ他ノ地上物件ヲ總稱ス

共同物揚場ハ其ノ附屬物件ヲ包含スルモノトス

第九條 本則ニ依リ許可ヲ受ケタル行爲ニシテ必要アリト認メタルトキハ縣ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ其効力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ若ハ制限ヲ加ヘ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命ズルコトアルベシ

本則若ハ許可ノ條件ニ違反シタル行爲ニ付テハ其ノ違反ニ因リテ生ジタル事實ヲ更生セシメ若ハ其ノ因リテ生ズル損害ヲ防グ爲必要ナル設備ヲ命ズルコトアルベシ

第二章　港灣取締

第十條　港内ニ於テ次ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スベカラズ

一　標識浮標、立標、燈竿、燈臺、量水標、測量標、澪杭其ノ他ノ標杭、橋梁、運河堤塘、護岸、水刻、突堤等ニ船舶又ハ桴筏ノ類ヲ繫留シ及棧橋、繫船浮標ニ桴筏ノ類ヲ繫留スルコト

二　桴筏竹木ノ類ヲ放置スルコト

三　各種ノ浮標、立標、標杭ヲ破壞、汚損、變更、移轉又ハ遮蔽シ若ハ之ニ攀躋シ又ハ船舶、桴筏其ノ他ノ物ヲ衝突セシムルコト

四　石塊ノ類ヲ以テ錨ニ代用スルコト

五　荷足、竹木、金屬、土砂、瓦石、塵芥、灰燼、汚穢物ヲ放棄スルコト

六　傳染病患者ノ排泄物及之ニ接觸シタル衣類、器物若ハ之ヲ洗滌シタル汚水等ヲ投棄スルコト

七　突堤、護岸、堤塘及其等ノ捨石等ニ附著スル介藻ノ類ヲ採取スルコト但シ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニアリズ

八　端艇其ノ他船舶ノ競漕ヲ爲スコト但シ水上警察署ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニアラズ

九　銃砲及煙火等ヲ發スルコト但シ祝砲及海上衝突豫防法ニ依リ信號ニ用ユル場合又ハ特ニ水上警察署ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラズ

十　特ニ規定アル場合ヲ除ク外猥リニ汽笛ヲ吹鳴スルコト

十一　突堤及護岸上ニ於テ船舶及桴筏ヲ引曳スルコト

十二　突堤、護岸、堤塘及其等ノ法先十間以内ニ於テ掘鑿スルコト

十三　第七條第一項各號ノ場所及第一區碇泊所若ハ其ノ附近ニ於テ捕魚、採藻及引網等ヲ爲スコト

十四　桴筏繫留用棧橋ニ船舶ヲ繫留スルコト

第十一條　港内ニ於テ次ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスルモノハ其ノ位置、方法、期限等ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ水上警察署ノ許可ヲ受クベシ

一　竹木ヲ立テ又ハ足場其ノ他一時ノ工作場ヲ設ケントスルトキ

二　潛水機其ノ他機械類ヲ用ヒ沈没物件ヲ引揚ゲントスルトキ

三　日本形二〇〇石積以上西洋形二〇噸以上ノ船舶ヲ進水セントスルトキ

四　施餓鬼又ハ船行列ヲ爲サントスルトキ

五　船燎ヲ爲サントスルトキ

六　桴筏竹木ヲ一時繫留セントスルトキ

前項第一號及第六號ノ場合ハ其ノ所有者若ハ管理者ノ住所氏名ヲ記載シタル標札ヲ見易キ箇所ニ附著スベシ

第十二條　銃砲火藥類取締法施行規則第二十八條ニ依リ倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ベキ數量ヲ超過スル火藥類ヲ積載スル船舶ハ外港ニ碇泊スベシ但シ特ニ水上警察署ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラズ

前項ノ船舶港内ニ碇泊又ハ航行スルトキハ晝間ニ在リテハBノ信號旗夜間ニ在リテハ紅燈ヲ前檣ニ揭グベシ

第十三條　内港ニ入港セントスル汽船ハ西突堤燈臺ニ出港セントスル汽船ハ築地低燈ニ向ヒ晝間ニ在リテハ國旗及信號符字ヲ揭ゲ夜間ニ在リテハ汽笛長聲ヲ三發シ燈臺並低燈ヨリノ信號ニ依リ入港又ハ出港スベシ但シ總噸數五十噸以下ノ汽船第二區碇泊所ニ碇泊スルガ爲東突堤船通ヨリ入港又ハ出港スルモノハ此ノ限ニアラズ

西突堤燈臺ニ在リテハ次ノ信號ヲ爲スモノトス

一　出港船アリ又ハ航路ニ支障アルトキハ晝間ニ在リテハ赤旗夜間ニ在リテハ紅燈ヲ揭グ

二　入港差支ナキトキハ晝間ニ在リテハ綠旗夜間ニ在リテハ綠燈ヲ揭グ

築地低燈ニ在リテハ次ノ信號ヲ爲スモノトス

一　入港船アリ又ハ航路ニ支障アルトキハ晝間ニ在リテハ赤旗夜間ニ在リテハ紅燈ヲ揭グ

二　出港差支ナキトキハ晝間ニ在リテハ綠旗夜間ニ在リテハ綠燈ヲ揭グ

第十四條　前條ノ國旗及信號符字ハ汽船ノ著港ヲ水上警察署ニ屆出タル後ニアラザレバ之ヲ引下スコトヲ得ズ

出港セントスル汽船ハ其ノ旨水上警察署ニ屆出デ且出帆旗ヲ引揚グベシ

第十五條　入港セントスル船舶ハ「ヤード」ヲ旋回シ「ヂブブーム」ヲ引入レ端艇ヲ取入ルベシ但シ他ノ船舶ノ障碍トナラザル場合ハ此ノ限ニアラズ

前項ノ船舶ハ船首兩錨及船尾ニ船舶ヲ止メ得ルニ足ル强力ナル大索ヲ結著シタル豫備錨ヲ用意スル等相當ノ準備ヲ爲スベシ

第十六條　船舶ハ第一區碇泊所ニ於テハ双錨ヲ投ジテ碇泊スベシ

第十七條 著港シタル船舶總噸數五〇噸以上積石數五〇〇石以上ノモノハ其ノ船舶ノ種類、船主、船名、國籍、船籍港名、總噸數、登簿噸數、發港地名、寄港地名、發航年月日時竝揚荷積荷ノ種類及數量ヲ記シ出港ノトキハ船名及出港年月日時、出向地名ヲ記シ船長又ハ其ノ代理者ヨリ水上警察署ニ屆出ヅベシ

定期ニ航海スル船舶ハ豫メ前項ノ屆出ヲ爲シ以後之ヲ省略スルコトヲ得

第十八條 船舶ハ港内ニ於テ次ノ行爲ヲ爲スベカラズ

一 二隻以上連結スルコト

二 他船ノ後部ニ接近シテ航行スルコト

三 他船ト竝行シテ航行スルコト

四 他船ノ前路ヲ横切ルコト

五 他船ニ危害ヲ加フル如キ速力ヲ以テ航行スルコト

六 前各號ノ外他船ノ碇泊又ハ航行ノ妨害トナルベキコト

港内ニ於テ急行セントスル船舶ハ其ノ合圖ヲ爲スベシ

港内ヲ航行スル船舶若ハ桴筏ニ於テ前項ノ合圖ヲ受ケタルトキハ適宜其ノ航路ヲ讓ルベシ

港内ニ於テ船舶互ニ行逢フトキハ其ノ逆潮ノモノヨリ又小形船舶桴筏ト行逢フトキハ小形船舶ヨリ其ノ航路ヲ讓ルベシ

第十九條 港内ヲ航行スルトキハ汽船ハ速力ヲ減ジ帆船ハ帆ヲ減ジ若ハ曳船ヲ用ヒテ除行スベシ

第二十條 港内ニ碇泊シ又ハ航行スル船舶ハ日沒ヨリ日出マデノ時間ハ海上衝突豫防法ニ依リ船燈ヲ揭グベシ

第二十一條 通船、端艇及艀船又ハ小蒸汽船ハ止ムヲ得ザル場合ノ外他船ノ後部ニ接シテ繫留スベカラズ但シ船側ニ繫留スル場合ト雖モ竝列シテ船舶航行ノ妨害ヲ爲スベカラズ

艀船ハ汽船ノ舷側ニ接シテ四隻以上竝行繫留スベカラズ

第二十二條 船舶、桴筏、竹木ノ繫留ヲ忽ニシ又ハ他ニ引曳セラルル船舶、桴筏ノ操舵ヲ忽ニスベカラズ

第二十三條 船舶ノ繫留ニ際シテハ必要以外ニ其ノ綱索ヲ延長スベカラズ

第二十四條 港ノ妨害トナルベキ難破物又ハ沈沒品ハ當該船舶又ハ其ノ所有者ニ於テ直ニ之ヲ除却スベシ

第一〇條第四號及第五號ノ行爲ヲナシタルトキ亦同ジ

第二十五條 西突堤燈臺及築地低燈ニ在リテハ晝間ノ漲潮時中白球一箇ヲ揭グルモノトス

第二十六條 警察官ノ臨船ヲ求メントスル船舶ハ晝間ニ在テハGノ信號旗ヲ揭ゲ夜間ニ在リテハ藍火又ハ閃火ヲ示スベシ

第二十七條 塵芥、灰塵等ヲ取棄テンガ爲塵船ヲ要スル船舶ハFノ信號旗ヲ揭グベシ

第二十八條 船舶港内ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ルマデ船錘ヲ打鳴シ且晝間ニ在リテハNMノ信號旗ヲ揭ゲ夜間ニ在リテハ紅燈ヲ上下スベシ

第二十九條 船舶航行ノ妨害若クハ危險ノ虞アル場所ニ膠著、沈沒又ハ顚覆シタル船舶物件ハ當該船舶所有者ニ於テ之ヲ除却スベシ但シ之ヲ除却スル迄ハ相當ノ標識ヲ附シ夜間ハ點燈スベシ

第三十條 許可ヲ受クルニアラザレバ船舶ニ積載セル竹木ヲ港内水上ニ卸スコトヲ得ズ

石炭、荷足、其ノ他之ニ類スル物件ヲ揚卸スルトキハ脫落ヲ防グ爲豫メ必要ナル裝置ヲ爲スベシ

第三十一條 港内ニ於テ曳船ヲ爲ス汽船ハ次ノ制限ニ依ルベシ

一 航路、第一區碇泊所及第一區碇泊所大瀨子橋間ニ在リテハ曳船ノ船尾ト最後ノ被曳船ノ船尾トノ距離四〇〇尺以内トス

二 前號以外ノ區域ニ在リテハ曳船ノ船尾ト最後ノ被曳船ノ船尾トノ距離六〇〇尺以内トス

第三十二條 前條曳船ニ要スル曳綱ノ長サハ曳船ト被曳船第一船トノ距離一〇〇尺以内トシ其ノ以下相互間ノ距離ヲ七〇尺以内トス

第三章 棧橋及繫船浮標取締

第三十三條 許可ヲ受クルニアラザレバ船舶ヲ棧橋又ハ繫船浮標ニ繫留スベカラズ

第三十四條 棧橋ニ繫留スルコトヲ得ルハ次ニ揭グル船舶ニ限ル

一 汽船

二 汽船以外ノ船舶ニシテ特ニ許可ヲ受ケタルモノ

第三十五條 棧橋上ニ於テ次ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スベカラズ

一 銃砲火藥類取締法施行規則第二條ノ火藥類竝ニ他物ヲ汚染スベキモノト認ムル貨物ノ揚卸ヲ爲スコト

二 諸車物品ヲ放置シ又ハ荷造其ノ他ノ作業ヲ爲スコト

三 轉轍機其ノ他備付ノ器具ニ猥リニ手ヲ觸ルルコト

四 不潔ノ行爲ヲ爲スコト

第三十六條 棧橋ヨリ揚卸スベキ荷物ハ速ニ陸揚、運搬又ハ船積ヲ爲シ棧橋上ニ停置スベカラズ

第三十七條 棧橋上ニハ棧橋使用料ヲ納付シタル船客、荷主、送迎人、荷物及船客取扱人ノ外入ルコトヲ許サズ但シ次ニ掲グル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一 棧橋ヲ管理スル官吏吏員

二 港灣取締ニ從事スル官吏吏員

三 特ニ許可ヲ受ケタル者

第三十八條 船舶棧橋ニ發著ノ際ハ微速力ヲ以テ操縱スベシ

第三十九條 二船以上同時ニ棧橋ニ繫留セントシ又ハ棧橋ヨリ離隔セントスルトキハ棧橋ヲ傷害セザル樣互ニ避讓スベシ

第四十條 棧橋ニ繫留中及發著ノ際ハ舷外ト棧橋トノ間ニ相當ノ「フエンダー」ヲ用ヒ摩擦ヲ防備スベシ

第四十一條 故意、怠慢又ハ船舶操縱ノ不注意ニ因リ棧橋及繫船浮標ヲ毀損、亡失セシメタルトキハ其ノ費用ヲ以テ修繕又ハ新調セシムルコトアルベシ

第四十二條 次ノ場合ニ於テハ一時棧橋及繫船浮標ニ船舶繫留ヲ停止シ又ハ離隔セシムルコトアルベシ

一 天候險惡又ハ其ノ虞アルトキ

二 棧橋及繫船浮標ニ故障アルトキ

三 縣ニ於テ必要アルトキ

第四章 埠頭及物揚場取締

第四十三條 埠頭及共同物揚場ハ一般ニ共同スルモノトス但シ必要アル場合ハ縣ニ於テ之ヲ專用スルコトアルベシ

第四十四條 銃砲火藥類取締法施行規則第二條ノ火藥類、石灰、糞尿肥料骨、襤褸其ノ他ノ不潔物ハ縣ニ於テ特ニ指定シタル場所ニ於テ揚卸スベシ其ノ區域ハ標柱ヲ以テ之ヲ區劃ス

第四十五條 埠頭及共同物揚場ハ使用者互ニ便宜ヲ與ヘ他ノ妨害ヲ爲スベカラズ

第四十六條 埠頭及共同物揚場ニ於テ次ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スベカラズ

一 不潔ノ行爲ヲ爲スコト

二 物品ヲ洗滌シ又ハ干物ヲ爲スコト

三 魚介ノ類ヲ捕獲スルコト但シ介類ニ限リ特ニ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニアラズ

四 荷主ノ使用ニ屬スルモノノ外牛馬ヲ繫ギ諸車物品ヲ放置シ又ハ荷造其ノ他ノ作業ヲ爲スコト

五 物品ヲ陳列シテ賣買ヲ爲スコト

第四十七條 埠頭及共同物揚場ニハ陸揚又ハ船積ノ物品ヲ五時間以上留置クコトヲ得ズ但シ其ノ物品ノ種類ニヨリ五時間內ニ他ニ運搬スルコト能ハザル事由アルモノハ水上警察署ノ認可ヲ得テ五日以內ノ期間ニ限リ之ヲ留置スルコトヲ得

前項但書ニヨリ認可ヲ受ケタル物品ニハ其ノ認可ヲ受ケタルモノノ住所氏名及認可ヲ受ケタル年月日ヲ標榜シ置クベシ

第四十八條 水上警察署ハ前條ノ認可ヲ與ヘタル後ト雖モ埠頭又ハ共同物揚場ノ公用ニ妨害アリト認ムルトキハ期限ヲ指定シ留置物品ノ撤去ヲ命ズルコトアルベシ

第四十九條 埠頭及共同物揚場ニ陸揚又ハ船積ノ物品ヲ堆積スルモノハ顚倒セザル樣相當ノ裝置ヲ爲スベシ

第五十條 埠頭及共同物揚場ヲ使用スルモノハ常ニ淸潔ニ掃除シ炎天及風日ニハ時々撒水スベシ

第五十一條 埠頭及物揚場ニ於テ運搬スル物品ハ墜落、漏出、又ハ飛散セシムベカラズ

第五十二條 故意怠慢又ハ船舶操縱ノ不注意ニ因リ埠頭及共同物揚場ヲ毀損、亡失セシメタルトキハ其ノ者ノ費用ヲ以テ修繕又ハ新調セシムルコトアルベシ

第五十三條 重大ナル物品ヲ揚卸セントスルトキハ埠頭又ハ共同物揚場ヲ毀損セザル樣豫メ相當ノ設備ヲ爲スベシ

前項ノ設備ヲ缺キ埠頭又ハ共同物揚場ニ毀損ヲ生ゼシメタル者ハ其ノ者ノ費用ヲ以テ原形ニ復スベシ

第五十四條 埠頭又ハ共同物揚場ニ於テ夜間陸揚又ハ船積ヲ爲ストキハ標燈ヲ揭出スベシ

第五十五條 埠頭及物揚場ヲ私設セントスルトキ若ハ修理ヲ爲サントスルトキハ現場ノ圖面及仕樣書ヲ添ヘ許可ヲ受クベシ

第五十六條 私有埠頭及物揚場ニハ其ノ場所、區域並ニ所有者若ハ借地人ノ住所氏名ヲ記載セル標柱ヲ建設スベシ

第五十七條 埠頭又ハ共同物揚場以外ノ官有地又ハ縣有地ニ於テ陸揚又ハ船積ヲ爲シ又ハ貨物竹木、瓦石ノ類ヲ置クコトヲ得ズ但シ借地ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニアラズ

第五章 桴筏取締

第五十八條 桴筏ハ次ノ區域ヲ通航スルヲ許サズ

一 航路

二 第一區域碇泊所

第五十九條 港外ヨリ來ル桴筏ハ西突堤船通並埋立地運河内ヲ通航スベシ

前項ノ運河内通航ノ場合ハ橋脚中央部ノ經間ヲ通航スルモノトス

第六十條 桴筏ニハ見易キ所ニ持主ノ住所、氏名ヲ記シ又ハ之ヲ記シタル木札ヲ附著スベシ

第六十一條 桴筏繫留所ヲ設ケントスルトキハ其ノ場所、繫留方法、期限等ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ縣ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ場所、期限並許可年月日ヲ記載セル標柱ヲ建設スベシ

第六十二條 （削除）

第六十三條 桴筏ノ繫留ニハ梭櫚、麻其ノ他强靭ナル繫繩ヲ用ヒ天候不穩ノ虞アルトキハ特ニ番人ヲ附シ散逸ヲ防グベシ

第六十四條 桴筏ハ共同物揚場ニ猥リニ繫留スベカラズ

第六十五條 桴筏ハ長サ二〇間幅二間三尺以上ノモノヲ通航セシムベカラズ曳船ヲ用ヒタルトキト雖モ亦同ジ

第六十六條 桴筏ニハ完全ニ操縱シ得ル水夫二名以上ヲ附スベシ

第六十七條 桴筏ト船舶ト連續通航スルトキハ二間以上ノ距離ヲ取リ桴筏連續通航スルトキハ四間以上ノ距離ヲ取ルベシ

第六十八條 桴筏ニシテ夜中通航スルトキハ點燈スベシ

第六章 罰則

第六十九條 本則又ハ本則ニ基キテ爲シタル命令ニ違背シタルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

第七十條 前條ノ場合船舶内ニ於テハ海員ノ所爲ト雖モ船長若ハ船長ノ事務ヲ行フ者其ノ責ニ任ズ

第七十一條 本則ニ違背シタル者ト雖モ法律命令ニ明文アルモノハ其ノ正條ニ從フ

第七章 附則

第七十二條 本規則ハ大正二年一月一日ヨリ施行ス

若松港則

（昭和九年十二月福岡縣令第四十一號）

第一章 錨地及航路

第一條 若松港ノ區分、境界、碇泊船舶ノ種類及特定條件ハ別表第一號表ニ之ヲ定ム

第二條 總噸數三百噸以上ノ船舶ノ錨地ハ若松水上警察署長（以下警察署長ト稱ス）之ヲ指定ス

警察署長ハ港界内ノ狀況其ノ他ノ事由ニ依リ必要アリト認ムルトキハ別表第一號表ノ區域ニ拘ラズ錨地ヲ指定シ又ハ其ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第三條 錨地ノ指定ハ特別ノ場合ヲ除クノ外若松港特定信號ニ依リ之ヲ行フ

第四條 船舶ハ繫船浮標、岸壁及棧橋ニ繫留スルモノノ外濫ニ單錨ニテ碇泊シ又ハ投錨セズシテ放泊スベカラズ繫船浮標ニ繫留スル汽船ハ其ノ船首及船尾ヲ之ニ繫留スベシ但シ船首及船尾ヲ繫留スルコト能ハザル事由ニ依リ船尾ノミヲ以テ繫留スルトキハ雙錨ヲ投ズベシ

第五條 港界内ニ於ケル航路ノ區分及水域ハ別表第二號表ニ之ヲ定ム

第六條 航路内ニ於テハ碇泊、停船其ノ他船舶航行ノ妨害トナルベキ行爲ヲ爲スベカラズ但シ支航路内ノ岸壁又ハ浮棧橋ニテ船客ノ乘降又ハ貨物ノ積卸ヲ爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二章 入港、出港、轉錨

第七條 總噸數三百噸以上ノ船舶入港セントスルトキハ二時間前ニ船長又ハ其ノ取扱店主ニ於テ警察署長ニ屆出ヅベシ（別記第一號樣式）但シ特別ノ事由ニ依リ第一號樣式ニ據ルコト能ハザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 若松燈臺以南ノ水域ニ入ラントスル總噸數百噸以上ノ汽船ハ一ノ瀨浮標以東ニ於テ晝間ニ在リテハ國旗及船名符字信號ヲ揭ゲ夜間ニ在リテハ更ニ汽笛又ハ汽角ヲ長聲二發スベシ

第九條 總噸數百噸以上ノ出入汽船ハ港口信號所前及港内錨地間ニ於テ汽笛又ハ汽角長聲三發ヲ適宜吹鳴シツツ航行スベシ

特殊水域ニ出入スル總噸數三百噸以上ノ船舶ハKPKノ信號ヲ揭ゲベシ

第十條　總噸數五百噸以上ノ船舶若松燈臺以南ノ水域ニ出入シ又ハ其ノ水域内ニ於テ轉錨セントスルトキハ若松港特定信號ニ依リ進退スベシ但シ一定ノ繫船所ヲ有スル定期航路船ニシテ警察署長ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ（別記第二號様式）

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル定期航路船ハ前方見易キ箇所ニ直徑〇・六米以上ノ黑球一箇ヲ掲ゲベシ

第十一條　入港容認信號、出港容認信號又ハ轉錨容認信號ヲ掲ゲタル後十五分間以内ニ運航ヲ開始セザルトキハ其ノ容認ヲ取消スコトアルベシ

第十二條　總噸數五百噸以上ノ船舶ハ夜間入港スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシテ警察署長ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ（別記第三號様式）

一　一定ノ繫船所ヲ有スル船舶

二　直ニ牧山鐵道岸壁又ハ新川岸陸ニ繫留スル船舶

三　直ニ特殊水域ニ入港スル船舶

四　急速入港ヲ要スル船舶

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル船舶ハ白紅ノ二燈ヲ上下ニ連ネ前檣ニ之ヲ掲ゲベシ

第十三條　總噸數百噸以上積石數二百七十八立方米以上（一千石以上）ノ船舶入港シタルトキハ直ニ別記第四號様式ニ依リ、出港セントスルトキハ二時間前ニ別記第五號様式ニ依リ、三百噸以上ノ汽船轉錨セントスルトキハ二時間前ニ別記第六號様式ニ依リ警察署長ニ屆出ヅベシ但シ特殊水域内ニ於ケル汽船ノ轉錨前適宜ノ時間ニ屆出ヅルコトヲ得

定期航路船ハ其ノ出入港日時ヲ豫メ一箇月分取纒メ屆出ヲナシ出入港ノ場合ニ於ケル屆出ヲ省略スルコトヲ得（別記第七號様式）

前二項ノ豫定日時ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ警察署長ニ屆出ヅベシ（別記第八號様式）

第十四條　總噸數三百噸以上ノ船舶出港セントスルトキハ三十分前ニ出帆旗ヲ半揭ノ位置ニ引下シ汽笛又ハ汽角長聲一發シ出帆準備ヲ了シタルトキ出帆旗ヲ取下シ船名符字信號ヲ揭ゲ汽笛又ハ汽角長聲二發ノ後航行ヲ開始スベシ但シ夜間ニ在リテハ出帆旗及船名符字信號ノ揭揚ヲ省略スルコトヲ得

第十五條　總噸數三百噸以上ノ船舶轉錨セントスルトキハ三十分前ニ若松港特定信號ニ定ムル轉錨信號ヲ揭ゲベシ

第十六條　總噸數百噸以上積石數二百七十八立方米以上（一千石以上）出入船舶ニシテ便乘者アルトキハ直ニ警察署長ニ屆出ヅベシ（別記第九號様式）

第三章　航　法

第十七條　港界内ニ於ケル船舶ノ航法ハ海上衝突豫防法ニ規定スルモノノ外本章ノ規定ニ依ルベシ

第十八條　港界内ニ於ケル船舶ハ他船ニ危害ヲ及ボスノ虞ナキ低速度、減帆、曳船其ノ他適當ナル方法ヲ以テ航行スベシ

第十九條　雜種船ハ航路内航行中ノ汽船又ハ帆船ノ進路ヲ避クベシ

第二十條　出入船舶ハ他船航行ノ妨害トナルベキ虞アル物件ヲ舷外ニ突出スルコトヲ得ズ

第二十一條　帆走船ハ航路ニ於テ縫航スベカラズ

航路ヲ横切ラントスル船舶ハ航路ニ從ヒ航行スル他船ノ進路ヲ避クベシ

船舶ハ航路ニ於テ濫ニ他船ト竝航シ又ハ追越スベカラズ

第二十二條　總噸數五百噸以上ノ船舶ハ航路ノ中央部ヲ航行シ其ノ他ノ船舶ハ防波堤、埠頭棧橋又ハ碇泊船ノ一端ヲ右舷ニ見テ通航スルトキハ之ニ近寄リ、左舷ニ見テ通航スルトキハ之ニ遠ザカリテ航行スベシ但シ已ムヲ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條　雜種船夜間港界内ヲ航行スルトキハ船上見易キ箇所ニ危險防止上有效ナル白燈又ハ紅綠兩色燈一箇ヲ揭ゲベシ

第四章　曳　船

第二十四條　濱築港船入場入口以南ニ於テ曳船ヲナス汽船ハ警察署長ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外左ノ制限ヲ超ユ曳船スベカラズ

被曳船種別		同上積載重量噸數	被曳船隻數
帆船		二百噸以上	二隻
		二百噸以上 二百噸未滿	三隻
		百噸未滿	二列四隻
倉庫船	曳船馬力	三百噸以上 百五十馬力以上	三隻
		三百噸以上 百五十馬力未滿	二隻
被曳船	曳船馬力	三百噸未滿 六十馬力以上	三隻
		三百噸未滿 六十馬力未滿	二隻
艀船		二百噸以上 二百噸未滿	二列六隻
艤船			六隻（三隻以上ヲ縱列トナスベシ）曳クトキハ二

本則ニ於テ帆船ト稱スルハ船首ニ「ヂブブーム」船尾ニ傳馬吊ヲ備ヘ帆走裝置完全ニシテ目的地迄自由ニ獨航シ得ルモノヲ謂ヒ、倉庫船ト稱スルハ操舵器ノミヲ有シ被曳航ヲ主トシ全然帆走裝置及機械力ニ依ル運航ノ設備ナク獨走シ得ザルモノヲ謂ヒ、被曳船ト稱スルハ操舵器ヲ有シ被曳航ヲ主トシ機械力ヲ以テ運航スル裝置ナキモ檣一本ヲ有シ或程度ノ獨走ヲ爲シ得ルモノヲ謂ヒ、艀船ト稱スルハ胴船型ニシテ帆走裝置ノ有無ニ拘ラズ船首ニ「ヂブブーム」船尾ニ傳馬吊ヲ備ヘザルモノヲ謂ヒ、艨船ト稱スルハ帶型ニシテ吃水淺ク櫓竿ヲ以テ運航スルモノヲ謂フ

第二十五條 港界内ニ於テ曳船ヲ爲ス場合ノ曳綱ノ長ハ曳船ト第一被曳船間ニ在リテハ二十米ヲ、被曳船相互間ニ在リテハ十米ヲ超ユベカラズ但シ曳綱ノ長ハ船舶相互間ノ距離ニ依ル

第二十六條 曳船ノ方法ニ依ラザル艨船ニシテ連結航行スル場合ハ四隻ヲ超ユベカラズ

前項ノ場合ニ於テハ一隻ニ付操縱者一人以上乘組ムベシ

第五章 爆發物及危險物ノ運搬積卸

第二十七條 港界内ニ於テ爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ノ運搬若クハ積卸ヲ爲サントスルトキハ警察署長ノ許可ヲ受クベシ（別記第十號樣式）但シ當該船舶ノ燃料ニシテ常用量ヲ超エザルモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場合ニ於テ警察官吏現場ニ臨檢スルトキハ其ノ指示ニ從フベシ第一項ノ規定ニ於ケル爆發物及容易ニ燃燒スベキ物件ノ種類ハ開港港則施行規則別表第三號表ニ依ル

第二十八條 港界内ニ於テ鎔銑ヲ運搬若クハ積卸セントストキハ警察署長ノ許可ヲ受クベシ（別記第十一號樣式）

前項ノ船舶ハ其ノ船體ヲ赤色トシ、晝間ニ在リテハB旗ヲ、夜間ニ在リテハ紅燈ヲ前檣ノ頂ニ掲ゲ一時間六浬以内ノ速度ヲ以テ航行スベシ

第六章 雜則

第二十九條 若松港特定信號ハ之ヲ告示ス

若松港特定信號ハ中央信號所（若松水上警察署屋上）港口信號所又ハ牧山信號所ニ於テ之ヲ行フ

第三十條 港界内ニ於テ特定信號ヲ使用セントスルトキハ警察署長ノ許可ヲ受クベシ（別記第十二號樣式）

第三十一條 船舶ハ法令ニ規定アル場合ノ外濫ニ汽笛汽角ヲ吹鳴シ、信號ヲ爲シ又ハ燈火ヲ用フベカラズ

第三十二條 總噸數三百噸未滿ノ帆船、雜種船等ハ濫ニ繫船浮標、總噸數三百噸以上ノ汽船ノ舷側若ハ船尾ニ繫留シ又ハ自船碇泊水域内ト雖他船航行ノ妨害トナルベキ場所ニ碇泊停船スベカラズ

第三十三條 航船標識、繫船浮標其ノ他ノ工作物ヲ損傷シ又ハ損傷スルガ如キ行爲ヲ爲スベカラズ

前項ノ物件ヲ損傷シタル者又ハ損傷其ノ他異狀ヲ發見シタル者ハ直ニ警察署長ニ屆出ヅベシ

第三十四條 港界内又ハ港界附近ニ於テ灰燼、塵芥、荷足、動物ノ死體等ヲ投棄スベカラズ港界内ニ於テ石炭、雜貨荷足等ノ積卸ヲ爲ストキハ海中ニ脫落シ又ハ飛散スルヲ防グニ適當ナル設備ヲ爲スベシ

第三十五條 港界内ノ航路ニ於テ漁撈及水泳ヲ爲スベカラズ

第三十六條 廢船、難破船其ノ他ノ物件ニシテ船舶ノ航行碇泊等ノ妨害トナルベキモノハ警察署長ノ指定シタル時間内ニ其ノ所有者ニ於テ之ヲ除去スベシ

第三十七條 港界内又ハ港界附近ニ於ケル左ノ各號ノ場合ハ直ニ警察署長ニ屆出ヅベシ但シ船舶内ノ事故ハ船長之ガ屆出ノ義務アルモノトス

一 變死體ヲ發見シタルトキ
二 變死變傷事件發生シ又ハ之ヲ覺知シタルトキ
三 海難事故（火災、難破、沈沒、衝突）發生シ又ハ之ヲ發見シタルトキ
四 傳染病若クハ其ノ疑アル患者發生シ又ハ之ヲ覺知シタルトキ

第三十八條 港界内ニ於ケル左ノ各號ノ場合ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外警察署長ノ許可ヲ受クベシ但シ他官廳ノ許可ヲ受ケタル者ハ着手前屆出ヅベシ（別記第十三號樣式）

一 船舶ノ製造艤裝、休繫、大修繕、解體（別記第十四號樣式）其ノ他水面ノ一時的使用（別記第十五號樣式）
二 多數竹木ノ積卸、筏ノ結構、運搬又ハ繫留（別記第十六號樣式）
三 棧橋、標識、繫船所、燻場、波止場、石垣、板柵、足場、繫船杭、波除杭、石垣根留等ノ設置、大修理又ハ改造（別記第十七號樣式）
四 進水式（別記第十八號樣式）端艇競漕、施餓鬼、其ノ他演技（別記第十九號樣式）
五 工事又ハ測量ニ從事スルトキ（別記第二十號樣式）

六　難破船、沈沒品其ノ他引揚ニ從事スルトキ（別記第二十一號樣式）

七　其ノ他警察署長ニ於テ必要ト認ムル事項

前項第五號又ハ第六號ノ場合ニ在リテハ若松港特定信號ニ依リ他船ノ航行スベキ方向ヲ表示スベシ

第三十九條　警察官吏ハ取締上必要アリト認ムルトキハ船舶ニ臨檢シ又ハ一時停船ヲ命ジ其ノ他臨機ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十條　本則ニ於テ雜種船ト稱スルハ汽艇、艀船、被曳船、艤船、倉庫船、端舟、發動機船其ノ他主トシテ櫓櫂ノミヲ以テ航行スル船ヲ謂フ

第四十一條　願出又ハ屆出ニシテ船舶ニ關スルモノハ特別ノ規定アル場合ノ外船長又ハ取扱店主之ヲ爲スベシ

第四十二條　本則ハ船舶ニ類似ノ形體ヲ有スル工作物ニ之ヲ準用ス前項工作物ハ雜種船ノ繫留箇所ニ繫留スルコトヲ得

第七章　罰則

第四十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　第一條ノ規定ニ依ル別記第一號表ノ碇泊區域及特定條件ニ違反シ又ハ第二條ノ規定ニ依ル警察署長ノ錨地指定若クハ變更ノ命ニ從ハザル者

二　第四條第六條第八條乃至第十條第十二條乃至第十六條第十八條乃至第二十八條第三十條乃至第三十八條第四十一條ノ規定ニ違反シタル者

三　第三十九條ノ規定ニ依ル臨檢ヲ拒ミ又ハ處分ニ從ハザル者

第四十四條　船舶內ニ在リテハ船員ノ所爲ト雖船長又ハ其ノ事務ヲ行フ者其ノ責ニ任ズ

第四十五條　本章ノ規定ニ該當スル者法人ナルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ法人ノ代表者ニ之ヲ適用ス

附則

本令ハ昭和十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記樣式略ス）

別表第一號表

區分	碇泊船舶ノ種類	境界	特定條件
外港		本港東境界線迄ノ水域	若松沿岸ニハ船舶其ノ他ノ物件ヲ碇泊又ハ繫留スベカラズ但シ港口信號所前ヨリ若松魚市場横ニ至ル間ノ距岸二十二米及同魚市場ヨリ若松市渡船場ニ至ル間ノ距岸十三米以內又ハ警察署長ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ
本港 第一區	戸畑埠頭沖ニ定置セル黑白色浮標ヨリ新川岸壁ニ至ル百九十一度三十分ノ線上同岸壁ヨリ距岸八十五米ノ地點ト本港及內港境界線上牧ノ地點ト西端ヨリ距岸八十五米ノ水域ハ總噸數三百噸未滿ノ汽船帆船雜種船其ノ他ノ水域ハ總噸數三百噸以上ノ汽船	若松市渡船場ノ標柱ヨリ中島西端ヲ經テ戸畑市渡船場ノ標柱ニ至ル連絡線以西內港トノ境界線迄ノ水域	總噸數三百噸以上ノ汽船ト雖荷物ノ積卸其ノ他ノ作業ヲ爲サントスルトキハ岸壁ニ繫留スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ帆船雜種船ハ其ノ運航ヲ妨グベカラズ
本港 第二區	總噸數三百噸未滿ノ汽船帆船雜種船但シ本區內ノ繫船浮標ハ總噸數三百噸以上ノ汽船ノ專用トス	本航路ノ南側境界線以南ノ水域 本航路ノ北側境界線以北ノ水域	稅關棧橋以東ニハ帆船ヲ繫留スベカラズ若松埠頭東端ヨリ東方稅關棧橋ニ至ル距岸三十六米以內ハ荷物ノ積卸ノ外繫留スベカラズ繫船浮標ニ繫留スル汽船ノ外各繫船浮標ノ連結線ヨリ若松側ヘ向ヒ二十七米以內ニ碇泊スベカラズ
內港		金比羅山下標柱ト牧山鼻標柱トノ連結線以西ノ全水域但シ八幡製鐵所構內水域ヲ特殊水域トス	

別表第二號表

區分		水域
本航路		一、黑色及赤色浮標ニ依リ區劃シタル水域 二、若松貨物渡船場沖ニ定置セル赤色浮標ヨリ其ノ西方ニ定置セル各赤色浮標ヲ通過シ本港內港ノ境界線上北岸壁ヨリ百十米ノ地點ニ至ル連結線ヲ北側トシ同地點ヨリ百二十度ノ線ヲ西側トシ中島西端ヨリ戸畑埠頭沖ニ定置セル黑白色浮標（同埠頭北端ヨリ二百七十六度ノ線上百二十七米ノ地點）トノ連結線及同浮標ヨリ二百三十八度ノ線上九百五十米ヲ南側トシ前記九百五十米ノ地點ヨリ百九十一度ノ線ヲ東側トスル水域 三、八幡製鐵所岸壁ニ至ル航路
支航路	第一支航路	若松稅關棧橋ヨリ百七十四度ノ線ヲ本航路迄延長シタル線ノ兩側各九米ノ水域
	第二支航路	枝光行巡航船棧橋ヨリ百四十七度ノ線ヲ本航路迄延長シタル線ノ兩側各九米ノ水域
	第三支航路	若松埠頭東端ヨリ百二十一度ノ線ヲ本航路迄延長シタル線ト同埠頭西端ヨリ百四十四度ニ引キタル線上十八米ノ地點ヨリ第十五號繫船浮標ニ至リ更ニ同浮標ヨリ百七十二度ノ線ニ延長シ本航路ニ至ル線內ノ水域
	第四支航路	若松側舊棧橋三井物產株式會社起重機中央ヨリ百三十六度十五分ノ線ヲ本航路迄延長シタル線ノ兩側各九米ノ水域
	第五支航路	若松側舊棧橋西クレーン中央ヨリ百四十八度四十五分ノ線ヲ本航路迄延長シタル線ノ兩側各九米ノ水域
	第六支航路	東洋製鐵株式會社船入場入口南端ヨリ二百五十度五分ノ線ヲ第七支航路迄延長シタル線ノ兩側各二十米ノ水域
支航路	第七支航路	戸畑渡船場棧橋ノ先端ト戸畑埠頭北端ヨリ六度ニ引キタル線上六十九米ノ地點トノ連結線以北本港ト外港トノ境界線迄及本航路境界線ニ圍マレタル水域
	第八支航路	戸畑埠頭南端ヲ起點トシ北方九十一米ヨリ合同水產專屬使用沖一番繫船浮標ヲ經テ定置黑白色浮標ニ至リ更ニ本航路ニ沿フコト九十一米ニシテ新川岸壁東端ニ引キタル線內ノ水域
	第九支航路	新川岸壁東端ヨリ三百二十一度ノ線上九十五米ノ地點ト同地點ヨリ二百三十九度三十分ノ線上五十五米ノ地點ト更ニ同地點ヨリ二百九十七度ノ線上七十三米ノ地點ト同地點ヨリ百九十一度三十分ノ線上七十三米ノ地點ト及二百三十九度三十分ノ線上二百三十六米ノ地點ト同地點ヨリ百五十二度ノ線ヲ新川岸壁ニ引キタル地點トヲ連結シタル線內ノ水域
	第十支航路	牧山鐵道岸壁東端ト第十一號繫船浮標トノ連結線上距岸二十米ノ地點ヨリ赤色浮標（同岸壁東端ヲ西ヘ距タル五十五米ノ地點ヨリ垂線上距岸六十二米ノ地點）及第十二號第十三號繫船浮標ヲ經テ同岸壁ノ西端ニ至ル線內ノ水域
航路	第十一支航路	本港、內港、境界線ヨリ藤木第四船入場西南端ニ至ル間黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域
	第十二支航路	新棧橋東端第五航路浮標ヨリ前田渡船場ニ至ル間黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域
	第十三支航路	前田埋立地先東北端ヨリ城山埋立地西北端ニ至ル間黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域
	第十四支航路	十二番航路浮標ヨリ宮丸渡船場東端ニ至ル線ノ西側二十米ノ水域
	第十五支航路	濱築港船入場內黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域

大阪府水路取締規則

（昭和十一年十二月
大阪府令第九十八號）

第一章　通　則

第一條　本令ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル

一　水路トハ船舶ノ自由ニ航行シ得ル河川、運河及港灣ノ水域ヲ謂フ

二　航路トハ水路ノ内船舶ノ航行ノ用ニ供スル水域ヲ謂フ但シ安治川ニ在リテハ澪筋ノ中央ヨリ左右ヘ各二十米、木津川及尻無川櫨ノ渡下流ニ在リテハ澪筋ノ中央ヨリ左右ヘ各十五米ノ水域ヲ謂フ

第二條　警察署長ハ危險防止上其ノ他交通保全ノ爲必要アリト認ムルトキハ水路ノ通行ヲ禁止シ若ハ制限シ又ハ本令ニ依リテ爲シタル許可ヲ取消シ若ハ制限スルコトヲ得

第三條　船舶ハ危險豫防其ノ他交通上ノ必要ニ基ク警察官吏ノ指示又ハ標示ニ從フベシ

第四條　法令ニ依リ海技免狀受有者ヲ乘組マシムルコトヲ要セザル船舶ハ十六歳以上ノ者ニ非ザレバ之ヲ操航スルコトヲ得ズ但シ手漕ボート、傳馬船ノ類ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ船舶長十五米又ハ幅五米ヲ超ユルトキハ十六歳以上ノ者二名以上ニテ之ヲ操航スベシ

第二章　航　法

第五條　船舶ハ航路ノ右側ヲ航行スベシ

第六條　船舶航路ノ交叉セル場所ニ於テ左方ニ轉向セントスルトキハ大廻リヲ爲シ右方ニ轉向セントスルトキハ小廻リヲ爲スベシ

第七條　櫓櫂ノミヲ以テ航行スル船舶水流其ノ他ノ關係ニ依リ操船上危險ノ虞アル場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

前項ニ依リ航行スル船舶ハ前二條ニ依リ航行スル船舶ノ進路ヲ避クベシ

第八條　櫓櫂ノミヲ以テ航行スル船舶航路ノ交叉セル場所ニ於テ原動機ヲ用ヒ航行スル船舶ト互ニ進路ヲ横切リ衝突ノ虞アルトキハ原動機ヲ用ヒテ航行スル船舶ノ進路ヲ避クベシ

第九條　他船ヲ追越サントスルトキハ掛聲其ノ他ノ合圖ヲ爲スベシ但シ原動機ニ依リ運航スル船舶ニ在リテハ長聲一發ニ續ク短聲一發ノ汽笛、汽角、號角其ノ他ノ信號ヲ爲スベシ

第十條　船舶ハ濫リニ竝列若ハ競爭シテ航行スベカラズ

第十一條　船舶航行中行違ヒ難キ場合ハ水流ニ遡行スル船舶ニ於テ避讓スベシ

第十二條　船舶航路ヲ横切ラントスルトキハ安全ナルコトヲ確メタル後航行スベシ

第十三條　船舶ハ他船及沿岸工作物ニ危害ヲ及ボスノ虞アル速度竝ニ方法ヲ以テ航行スベカラズ

第十四條　船舶ハ左ノ各號ノ場所ニ於テハ徐行スベシ

一　渡船場附近

二　航路ノ交叉セル場所

三　航路ノ曲角

四　橋梁下

五　前各號ノ外交通上危險ヲ生ズル虞アル場所

第十五條　船舶ハ航行中帆又ハ積荷等ノ爲進路ヲ見透シ難キトキハ見張人ヲ置クベシ

第十六條　河川及運河ニ於テハ帆走スベカラズ但シ安治川築地渡下流、淀川毛馬閘門上流、新淀川木津川落合下ノ渡下流、尻無川福崎渡下流及神崎川ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條　船舶ハ錨ヲ船胸ニ垂下スベカラズ

總噸數百噸以上ノ船舶河川及運河航行中ハ投錨準備トシテ左舷錨ヲ水面下ニ垂下シ置クベシ

第十八條　船舶衝突其ノ他事故ヲ生ジタルトキハ直ニ停船スベシ

前項ノ場合ニ於テ人ヲ傷害シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキハ直ニ被害者ノ救護其ノ他適當ナル措置ヲ爲シ双方遲滯ナク其ノ旨所轄警察署ニ屆出ヅベシ

第三章　船燈、信號

第十九條　船舶夜間航行中ハ海上衝突豫防法第十條ニ規定スル白燈ヲ船尾ニ掲グベシ但シ同法第七條ノ船舶ハ相當ノ光力ヲ有スル白色燈ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

海上衝突豫防法第七條第三號、第四號ニ該當スル船舶夜間航行中ハ同條第三號ニ規定スル燈火ヲ其ノ前方ニ掲グベシ但シ手漕ボート、傳馬船ノ類ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條　曳船水路ノ狀況ニ依リ海上衝突豫防法第三條ニ規定スル檣燈ヲ上下ニ連掲シ難キ場合ハ之ヲ檣燈ノ位置ニ相當ノ間隔ヲ保チ水平ニ掲グルコトヲ得

第二十一條　船舶ハ碇泊中海上衝突豫防法第十一條ノ規定

ニ依ル碇泊燈ヲ掲グベシ但シ原動機ヲ用フル五噸未滿ノ船舶及櫓櫂ノミヲ以テ運航スル船舶ニシテ航路ニ接近セザルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 汽船及帆船轉回スルトキハ晝間ニ在リテハ見易キ箇所ニ國際信號旗Rヲ夜間ニ在リテハ前檣ノ頂部ニ周圍ヲ照射スベキ紅燈一箇ヲ掲グベシ但シ總噸數二十噸未滿ノモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 原動機ヲ用ヒテ航行スル船舶ハ航路ノ曲角又ハ前方ヲ見透シ難キ場所ニ於テハ汽笛、汽角、號角其ノ他ニ依リ長聲一發ノ發聲信號ヲ爲シ曳船中ハ長聲一發ニ續ク短聲二發ノ發聲信號ヲ爲スベシ

第二十四條 本令ニ定ムルモノノ外船舶ノ航法、船燈、信號ニ關シテハ海上衝突豫防法ノ定ムル所ニ依ル

第四章　碇泊、繫留

第二十五條 船舶碇泊シタルトキハ看守ヲ怠ルベカラズ

第二十六條 船舶ハ橋梁、標柱、檢潮器及其ノ保護杭ニ繫留シ又ハ之ニ障害ヲ及ボス虞アル行爲ヲ爲スベカラズ

第二十七條 船舶ハ左ノ各號ノ場所ニ繫留スベカラズ但シ警察官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　航路

二　水路ノ交叉セル場所ノ曲角

三　橋梁下

四　入津料取立所前

五　渡船場及消防船又ハ救命艇碇泊所附近

第二十八條 共同荷揚場前ニハ現ニ貨物積卸中ノ船舶ノ外ハ繫留スベカラズ但シ他船ノ貨物積卸ノ障害トナラザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 船舶ハ繫留中ノ他船ヲ航路ニ突出セシムル虞アル方法ニ依リ繫留スベカラズ

第三十條 交通保全ノ爲必要アリト認ムルトキハ區域又ハ期間ヲ定メ船舶ノ碇泊ヲ制限スルコトアルベシ

前項ノ制限ヲ爲シタルトキハ告示ス

第五章　水路ノ保全

第三十一條 水路ニ土石、石炭殼、塵芥、油類及之ヲ含ム淦水其ノ他交通上支障ヲ生ズル虞アル物件ヲ投棄スベカラズ

第三十二條 水路ニ於ケル難破船其ノ他交通上支障ヲ生ズルノ虞アル物件ハ所有者又ハ占有者ニ於テ速ニ除去スベシ

前項ノ難破船其ノ他ノ物件ニハ水面上ニ晝間ハ赤旗、夜

間ハ赤色ノ燈火ヲ掲出シ除去シ終ル迄之ヲ保持スベシ

第三十三條 船舶ハ法令ニ規定スル場合ヲ除クノ外濫リニ汽笛、汽角又ハ號角ヲ吹鳴スベカラズ

第三十四條 船舶ハ船體不相當ナル人員又ハ物件ヲ堵載スベカラズ但シ分割スベカラザル物件ニシテ出發地所轄警察署ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十五條 水路ニ於テ左ノ各號ノ行爲ヲ爲サントスルトキハ其ノ目的、方法、期間及區域又ハ場所ヲ具シ所轄警察署長ノ許可ヲ受クベシ

一　總噸數二十噸以上ノ船舶ヲ解體、修繕、休航、艤裝等ノ爲五日以上繫留セントスルトキ

二　神輿渡御又ハ川施餓鬼ノ類ヲ爲サントスルトキ

三　競漕其ノ他ノ催物ヲ爲サントスルトキ

四　前名號ノ外交通上支障ヲ生ズルノ虞アル行爲ヲ爲サントスルトキ

第三十六條 水路ニ於テ左ノ各號ノ行爲ヲ爲サントスルトキハ其ノ目的、方法、期間及區域又ハ場所ヲ具シ所轄警察署ニ屆出ヅベシ

一　總噸數二十噸以上ノ船舶ヲ上架又ハ進水セントスルトキ

二　難破船其ノ他ノ物件ノ引揚作業ヲ爲サントスルトキ

第三十七條 他ノ法令ニ基キ水路占用ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ目的、區域、期間及占用者ノ住所氏名ヲ見易キ個所ニ標示スベシ

第三十八條 船舶ハ他ノ船舶又ハ建造物ニ蔦口類ヲ鈎シテ航行スベカラズ

第三十九條 大阪市及堺市ノ水路ニ在リテハ游泳場以外ノ場所ニ於テ游泳スベカラズ

第六章　曳航

第四十條 船舶ヲ曳航セントスルトキハ他船ノ運航ヲ妨害セザル樣相當ナル速度ヲ保持シ且左ノ制限ニ依ルベシ

一　淀川天滿橋上流ニ在リテハ小型艀船（テントウ船、劍先船、上荷船及之ニ類スル船舶竝ニ手漕ボート、傳馬船ノ類ヲ謂フ以下之ニ倣フ）ハ十隻以内船鑑札規則適用船、猪牙船、達磨船及之ニ類スル船舶ハ五隻以内總噸數二十噸以上ノ船舶ハ一隻

二　新淀川及神崎川（西島閘門筋ヲ除ク）ニ在リテハ小型艀船ハ五隻以内船鑑札規則適用船、猪牙船、達磨船及之ニ類スル船舶ハ三隻以内總噸數二十噸以上ノ船舶ハ二隻以内

三　淀川天滿橋下流、堂島川又ハ土佐堀川ヲ經テ安治川口ニ至ル間、木津川、尻無川臨港鐵道橋下流、岩崎運河、木津川運河及三軒家堀割紡績大橋下流ニ在リテハ小型艀船ハ三隻以内船鑑札規則適用船、猪牙船、達磨船及之ニ類スル船舶ハ二隻以内總噸數二十噸以上ノ船舶ハ一隻

四　西道頓堀川深里橋下流、寢屋川、三十間堀川、中津川、六軒屋川、傳法川、正蓮寺川、長堀川、東横堀川（九之助橋以南ヲ除ク）、天保山運河、大正運河、千歳運河、八幡屋運河及住友堀割ニ在リテハ小型艀船ハ二隻以内船鑑札規則適用船、猪牙船、達磨船及之ニ類スル船舶ハ一隻

前項第四號ノ河川運河ニ於テ總噸數二十噸以上ノ船舶ヲ曳航セントスルトキハ出發地所轄警察署長ノ許可ヲ受クベシ

第四十一條　前條以外ノ河川、運河ニ於テ一時曳航セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ出發地所轄警察署長ノ許可ヲ受クベシ

一　日時

二　航行區域

三　被曳船ノ種類、船數及其ノ最大積量

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ曳船航行中許可證ヲ携帶スベシ

第四十二條　船舶河川運河内ニ於テ他船ヲ曳航スルトキハ曳船ト被曳船トノ間隔ヲ十米以内ニ保持スベシ

第七章　筏

第四十三條　船舶ニ依リ筏ヲ曳航セントスルトキハ他船ノ運航ヲ妨害セザル樣相當ナル速度ヲ保持シ且左ノ制限ニ依ルベシ

一　木津川中口町南端下流、三軒家堀割紡績大橋下流、三十間堀川及大正運河ニ在リテハ筏ノ長六十米、幅四米以内

二　尻無川中ノ渡下流ニ在リテハ筏ノ長四十米、幅四米以内

三　淀川（安治川ヲ除ク）木津川中口町南端上流、新淀川、神崎川、尻無川臨港鐵道橋下流中ノ渡ニ至ル間、岩崎運河、木津川運河及千歳運河ニ在リテハ筏ノ長二十米、幅四米以内

前項以外ノ河川ニ於テ筏ヲ曳航セントスルトキハ出發地所轄警察署長ノ許可ヲ受クベシ但シ筏ノ長十五米、幅二・五米ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十四條　曳航ニ依ラザル筏ノ運航ハ長十五米、幅二・五米ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十五條　安治川ニ於テハ曳航ニ依ルノ外筏ヲ運航スベカラズ

第四十六條　筏ヲ五日以上繫留セントスルトキハ目的、期間及區域ヲ具シ所轄警察署長ノ許可ヲ受クベシ

第四十七條　第三條、第四條第一項、第五條乃至第十三條、第十八條、第十九條第一項但書、第二十六條、第二十七條、第二十九條、第三十條及第三十八條ノ規定ハ之ヲ筏ニ準用ス

第八章　罰則

第四十八條　第二條ノ規定ニ基ク禁止又ハ制限ニ違反シタル者、第三條、第十條、第十八條、第二十六條乃至第二十八條、第三十一條、第三十二條、第三十五條、第三十八條及第四十條乃至第四十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第四十九條　第四條乃至第六條、第七條第二項、第八條、第九條、第十一條乃至第十七條、第十九條、第二十一條乃至第二十三條、第二十五條、第二十九條、第三十四條、第三十六條、第三十七條及第三十九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第三十條ノ規定ニ基ク制限ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第五十條　前二條ニ規定セル違反行爲ヲ教唆又ハ幇助シタル者ハ正犯ニ準ジ之ヲ處罰ス

附則

第五十一條　第三十五條第三號ノ規定ハ沿岸海上ニ之ヲ適用ス

第五十二條　本令ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

開港取締規則

（大正四年七月朝鮮總督府令第七十二號）

改正　大正十四年朝鮮總督府令第百二十五號

第一條　開港ノ港界左ノ如シ

仁川港　猫角ヨリ大目尾島ノ北端ニ向ケ引キタル延長線

勿淵島ノ東端ヲ基準トシテ南微西二分ノ一西ニ引キタル一線納島ノ南端ヨリ西四分ノ三南ニ引キタル一線及市街ノ南東ニアル百二十八呎山頂ヨリ納島ノ東端ニ引

キタル一線内
群山港　所雉串ヨリ南四分ノ三東ニ引キタル一線、堂末ヨリ後望山山頂ニ引キタル一線及龍堂ヨリ前望山挂燈立標ニ向ケ引キタル一線以内
木浦港　南角ヨリ高下島二百六十四呎山頂ニ引キタル一線、高下島二百四十呎山頂ヨリ四十二呎島ノ山頂ヲ經テ對岸ニ引キタル一線及牙山山頂ヨリ三鶴島ノ東端ヲ經テ務安半島ニ引キタル一線内
釜山港　富民洞南端ヨリ絶影島大風浦ニ向ケ引キタル一線及廣蟾末ヨリ浮鳳末ニ引キタル一線以内
鎭南浦港　猪島百七十七呎山頂ヨリ北二分ノ一西ニ引キタル一線及望達里崎ヨリ北二分ノ一西ニ引キタル一線以内
新義州港　下端洞（海圖ノ威化洞ニ當ル）目標ヨリ北微西二分ノ一西ノ對岸小沙河川口右岸ニ引キタル一線及三橋川川口目標ヨリ西ニ引キタル一線以内
龍巖浦港　辰串嘴目標ヨリ永島頂上ニ引キタル一線、永島頂上ヨリ馬鞍島頂上ヲ經テ延長シタル一線及三橋川川口目標ヨリ西ニ引キタル一線以内
多獅島港　獅子島二百五十呎山頂ヨリ加次島頂上ニ引キタル一線、加次島頂上ヨリ水運島頂上目標ニ引キタル一線、水運島頂上目標ヨリ永島頂上ニ引キタル一線及永島頂上ヨリ辰串嘴目標ニ引キタル一線以内
元山港　連島里百三十六呎山頂ヨリ陽日川川口右岸ニ引キタル一線以内
清津港　高秫山端ヨリ二百六十七度ニ引キタル一線以内
城津港　沙津端ヨリ對岸厚里津山山頂ニ引キタル一線以内
雄基港　琵琶項島東端ヨリ雄基山千三百三十一呎山頂ニ引キタル一線以内
羅津港　城亭端ヨリ小草島南端ニ向ケ引キタル一線及其ノ延長線以内

前項ノ方位ハ眞方位トス

第二條　船舶ハ開港ヲ出入スルニ當リ其ノ所屬國旗及信號符字ヲ揭揚スヘシ

入港ノ船舶ハ入港屆ヲ提出シタル後ニ非サレハ前項ノ國旗及信號符字若ハ船主旗ヲ引下スヘカラス

出港屆ヲ提出シタル船舶ハ出帆旗ヲ揭揚スヘシ

第三條　入港屆ハ第一號書式ニヨリ著港後二十四時間内ニ出港屆ハ第二號書式ニ依リ出港前ニ之ヲ警察署長ニ提出スヘシ但シ一定ノ日時ニ著發スル船舶ニシテ特ニ警察署長ノ許可ヲ受ケタルモノハ第三號書式ニ依リ著發屆ヲ提出スルヲ以テ足ル

第四條　一定ノ港津間ニ往復スル沿海通航船ニ付テハ船主ハ豫メ警察署長ノ許可ヲ受ケ入港及出港ニ關スル屆出ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第五條　入港船舶ハ下船スル船客ノ住所、職業、氏名、年齡、船室等級、乘船地及行先地ヲ記載シタル下船客名簿ヲ入港屆又ハ著發屆ニ添附スヘシ

警察署長必要ト認ムルトキハ出港セムトスル船舶ニ對シ前項ニ準シタル事項ヲ記載シタル乘船客名簿ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第六條　出港シタル船舶ガ避難修繕其ノ他ノ事故ノ爲出港後十二時間内ニ歸港シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル屆書ヲ警察署長ニ提出シ入港屆ニ代フルコトヲ得

第七條　入港シタル船舶ノ船長ハ警察署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他船又ハ陸地トノ間ニ於テ交通ヲナシ又ハ爲サシムヘカラス

第八條　警察署長必要ト認ムルトキハ港界内ニ在ル船舶ノ碇泊所ヲ指定シ又ハ碇泊所ノ變更ヲ命スルコトヲ得

前項ニヨリ指定ヲ受ケ又ハ變更ヲ命セラレタル船舶ハ警察署長ノ許可ヲ受クルニ非ラサレハソノ碇泊所ヲ變更スルコトヲ得ス但シ天候ソノ他已ムヲ得サル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ遲滯ナク警察署長ニ屆出ツヘシ

第九條　港界内若クハ其ノ附近ニ碇泊シ又ハ航行スル船舶ハ日沒ヨリ日出迄海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ揭クヘシ

第十條　船舶ハ港界内又ハ其ノ附近ニ於テ他船ノ航行若クハ碇泊ヲ妨碍スヘカラス

警察署長ハ船舶ノ接キ出シタル「チブ」、「ブームス」カ他船ノ航行ヲ妨碍スルノ虞レアリト認ムルトキハ之ヲ取込マシムルコトヲ得

第十一條　船舶港界内ヲ航行スルトキハ其ノ速力ヲ減シ又ハ曳船ニ依リ除行スヘシ但シ汽艇ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　港界内ニ於テ汽艇又ハ櫓櫂ヲ以テ航行スル舟ハ汽船、帆船ノ航路ヲ避クヘシ

第十二條ノ二　道知事必要アリト認ムルトキハ前二條ノ規定ニ拘ラス別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十三條 港界内ニ於テ曳船ヲ爲サントスルトキハ警察署長ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外艀船又ハ端舟ハ五艘水船又ハ倉船ハ二艘、航洋船ハ一艘ヲ超ユルコトヲ得ス警察署長取締上必要ト認ムルトキハ被曳船ノ船數ヲ特ニ制限スルコトヲ得

曳船ハ航路内ニ於テ被曳船ヲ放ツヘカラス

第十四條 港界内ニ於テ船舶二艘以上連航スルトキハ相當ノ距離ヲ保ツヘシ

船舶ハ濫ニ二艘以上竝列シテ航行シ又ハ航路内ニ於テ濫ニ他船ノ前路ヲ横切リ若ハ追越スヘカラス

第十五條 港界内ニ於ケル岬角、埠頭、棧橋、防波堤ノ突端又ハ碇泊所ノ一端ヲ回航スル船舶ハ之ヲ右舷ニ見テ航行スルトキハ小廻ヲナシ左舷ニ見テ航行スルトキハ大廻ヲナスヘシ

第十五條ノ二 汽船防波堤入口ニ於テ出會ノ虞アルトキハ入港船ハ防波堤外ニ於テ出港船ノ進路ヲ避クヘシ

第十六條 警察署長必要ト認ムルトキハ總噸數五百噸以上ノ船舶ニ對シ港界内ニ於テ雙錨泊ヲ命スルコトヲ得

第十七條 港界内ニ在ル船舶ハ暴風雨襲來ノ虞アルトキハ豫備錨ヲ投下スルノ準備ヲ爲シ尙汽船ニ在リテハ蒸氣ヲ發生セシムヘシ

第十八條 港界内ニ於ケル船舶ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ又ハ警察署長ノ許可ヲ受ケタルモノヲ除クノ外航路内ニ碇泊又ハ停船スヘカラス

一 港内ノ工事ニ從事スル船舶

二 難破物又ハ沈沒品ノ引揚ニ從事スル船舶

三 遭難船舶ノ救助ニ從事スル船舶

四 運轉ノ自由ヲ有セサル船舶

前項ノ船舶ハ航路内ニ碇泊又ハ停船中ハ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ依リ運轉自由ヲ得サル船舶ノ掲クヘキ船燈又ハ形象ヲ掲クヘシ但シ總噸數二十噸未滿ノ船舶ニシテ警察署長ニ於テ特ニ標示ノ方法ヲ指示シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條ノ二 船舶ハ濫リニ左ニ掲クル場所ニ碇泊又ハ停船スヘカラス

一 埠頭、棧橋、船溜ノ入口又ハ船渠ノ附近

二 港界内ニ於テ道知事ノ定メタル水域

第十九條 港界内又ハソノ附近ニ於テ船舶ヲ艤裝、修繕又ハ休繫セントスル者ハ豫メ其ノ旨ヲ警察署長ニ屆出ツヘシ前項ノ場合ニ於テ警察署長必要ト認ムルトキハ該船舶

乘組員一部ノ殘留ヲ命スルコトヲ得

第十九條ノ二 港界内ニ於テ艀船營業ヲ爲サントスル者ハ警察署長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ警察署長ノ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキモ亦同シ

一 港界内ニ於テ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ運搬セムトスルトキ

二 港界内又ハ其ノ附近ニ於テ難破物又ハ沈沒品ノ引揚ヲ爲サムトスルトキ

三 港界内又ハ其ノ附近ニ於テ法令ノ規定ニ依ルニ非スシテ特設信號ヲ用ヒムトスルトキ

四 港界内又ハ其ノ附近ニ於テ五噸以上ノ船舶ヲ進水セムトスルトキ

五 港界内又ハ其ノ附近ニ於テ端艇ノ競漕會ヲ催サムトスルトキ

第二十一條 火藥類又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ常用ヲ超過シテ積載シ入港スル船舶ハ港界外ニ於テ檣頭其ノ他賭易キ場所ニ日出ヨリ日沒迄ハ國際信號ノB旗、日沒ヨリ日出迄ハ紅燈ヲ揭ケ警察署長ノ指揮ヲ待ツヘシ但シ信號旗及紅燈ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ赤旗ヲ國際信號ノB旗ニ、赤色安全燈ヲ紅燈ニ代用スルコトヲ得

第二十二條 前條ニ於テ火藥類ト稱スルハ銃砲火藥類取締令施行規則第二十三條ニ規定スル火藥類ヲ謂ヒ船舶ニ設備スル大砲一門毎ニ火藥百發分、雷管百五十箇及信號用ノ榴彈、火一挺毎ニ火藥百發分、雷管百五十箇、小銃箭、焔管救命焔以外ノモノヲ常用外火藥類ト看做シ、容易ニ燃燒スヘキ物件ト稱スルハ生石油、（「ブルマ」油「ロウク」油、「ラシグーン」油ヲ含ム）石油、「ナフタ」「テレビンチン」油、「エーテル」「ベンウオール」、石油「ベンチン」、「アセトン」、酒精及硫化炭素ノ類其ノ他華氏九十五度以下ノ熱度ニ依リ發火スヘキ氣體ヲ發スルモノヲ謂ヒ船舶所用ノ目的ヲ證明シ得ルモノヲ除クノ外ハ常用外ト看做ス

第二十三條 常用外ナル火藥類又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ積卸セムトスル船舶ハ其ノ品名數量ヲ警察署長ニ屆出テ其ノ指定シタル場所ニ於テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十四條 常用外ナル火藥類又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ニ付警察署長港界内ニ於テ積卸ノ場所ヲ指定シ難シト認ムルトキハ港界外ニ於テ適當ノ場所ヲ指定スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テ其ノ指定シタル場所ハ港界内ニ在ルモノト看做ス

第二十五條 港界内又ハ其ノ附近ニ於テ海難其ノ他變災發生シタル船舶ハ其ノ旨ヲ警察署長ニ屆出ツヘシ

第二十六條 前條ノ船舶他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スルトキハ間斷ナク汽笛、汽角又ハ霧中號角ヲ吹鳴シ且晝間ハ國際信號ノNC旗ヲ掲ケ夜間ハ星火ヲ發スル榴彈、火箭其ノ他發火信號ヲ爲スヘシ但シ火災ノ場合ニ在リテハ救援ノ來ル迄號鐘ヲ打鳴シ且晝間ハ國際信號ノNM旗ヲ掲ケ夜間ハ絕ヘス紅燈ヲ上下スヘシ

前項以外ノ場合ニ於テ警察官吏ノ救援ヲ要スルトキハ晝間ハ國際信號ノST旗ヲ掲ケ夜間ハ藍火又ハ閃光ヲ示スヘシ

第二十七條 船舶ハ前條ニ掲ケタル非常信號ニ用ウル場合ヲ除クノ外警察署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ港界内又ハ其ノ附近ニ於テ濫ニ銃砲若ハ煙火ヲ發シ其ノ他爆發物ヲ使用スルコトヲ得ス

船舶ハ本令若ハ海上衙突豫防ニ關スル法令其ノ他特別ノ規定アル場合又ハ慣例ニ依リ用ウル場合ヲ除クノ外港界内又ハソノ附近ニ於テ濫リニ汽笛、汽角若ハ霧中號角ヲ吹鳴スルコトヲ得ス

港界内又ハ其ノ附近ニ於テ濫リニ船舶ノ航行ノ妨害ト爲ルヘキ探照燈其ノ他之ニ類似ノ燈火ヲ用フヘカラス

第二十八條 船舶ニ積載スル竹木ヲ港界内ノ水上ニ卸シ又ハ筏若ハ水面ニ浮ヒタル竹木ヲ港界内ニ繫留シ又ハ運搬セムトスルトキハ豫メ警察署長ニ屆出ツヘシ

第二十九條 港界内ニ於テ濫ニ動物ノ死體、荷足、灰燼、塵芥、瓦礫等ヲ河海中ニ投棄スヘカラス

港界内ニ於テ濫ニ他ノ船舶ニ船舶其ノ他ノ物件ヲ繫留スヘカラス

港界内船舶ノ碇泊又ハ航行ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ濫リニ漁撈ヲ爲スヘカラス

港界内ニ於テ石炭、荷足其ノ他之ニ類スル物件ヲ積卸スル船舶ハ其ノ河海中ニ脫落スルコトヲ豫防スル爲メ必要ナル措置ヲ爲スヘシ

第三十條 警察署長ハ港界内又ハ其ノ附近ニ於テ他船ノ航行ヲ妨ケ若ハ航行ニ危險ノ虞アル漂流物、沈沒品其ノ他ノ物件ヲ其ノ所有者又ハ其ノ物件ヲ投棄若ハ脫落セシメタル者ヲシテ除去セシムルコトヲ得

第三十一條 船舶カ燈船、浮標、立標、埠頭又ハ其ノ他ノ工作物ヲ毀損シタルトキハ其ノ修繕若ハ再設費用ヲ支辨スヘシ

第三十一條ノ二 本令ニ規定スルモノノ外開港内ニ於ケル船舶航行ノ取締ニ關シ必要ナル事項ハ道知事之ヲ定ム

道知事第十二條ノ二若ハ前項ノ規定ニ依リ必要ナル事項ヲ定メ又ハ第十八條ノ二第二號ノ規定ニ依ル水域ヲ定メントスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第三十二條 本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第三十三條 本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニシテ船舶ニ係ル規定ニ付テハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者其ノ責ニ任ス

船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ船舶ノ乘組員カ本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル場合ニ於テ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十四條 本令又ハ他ノ法令ニ依リ罰金、科料又ハ使用料ノ納付若ハ費用ノ支辨ヲ命セラレタル船舶ハ之ヲ完納スルカ又ハ當該官廳ニ於テ相當ト認ムル擔保物ヲ提供スルニ非サレハ警察署長ニ於テ其ノ出港ヲ差止ムルコトヲ得

前項ニ規定スル擔保物ハ金錢又ハ國債證券ニ限ル

第三十五條 廢船其ノ他船舶ニ等シキ形態ヲ有スル工作物ニハ本令中船舶ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十六條 第八條、第十條、第十五條ノ二又ハ第二十九條ノ規定ハ內外國軍艦ニ之ヲ準用ス

第三十七條 第二條ノ規定ハ沿海區域以下ヲ航行スル帆船及平水區域ノミヲ航行スル船舶ニ之ヲ適用セス

第二條乃至第六條、第十九條及第二十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿ノ船舶及櫓櫂ヲ以テ航行スル舟ニ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ大正四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

（書式略ス）

咸鏡北道雄基開港ノ件

（大正十年五月　朝鮮總督府令第九十一號）

從來ノ開港ノ外咸鏡北道雄基ヲ開港トス

附　則

本令ハ大正十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

咸鏡北道羅津開港ノ件

（昭和十年十月　朝鮮總督府令第百三十三號）

從來ノ開港ノ外昭和十年十一月一日ヨリ咸鏡北道羅津ヲ開港トス

平安北道多獅島ヲ開港トスルノ件

（昭和十四年五月　朝鮮總督府令第七十五號）

從來ノ開港ノ外平安北道多獅島ヲ開港トス

附　則（昭和十四年八月十日ヨリ施行）

本令施行ノ期日ハ別ニ之ヲ定ム

黃海道海州ヲ開港トスルノ件

（昭和十五年七月　朝鮮總督府令第百六十三號）

從來ノ開港ノ外黃海道海州ヲ開港トス

附　則

本令ハ昭和十五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮ト內地、臺灣、樺太又ハ南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル件

（大正十二年三月　制令第六號）

改正　昭和三年七月　制令第四號

第一條　內地、臺灣、樺太又ハ南洋群島ヨリ朝鮮ニ貨物又ハ旅客ヲ輸送スル船舶朝鮮各港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時間內ニ稅關ニ入港屆ヲ爲シ其ノ貨物ノ內其ノ港ニ於テ陸揚シ又ハ他船ニ積換ウヘキモノノ積荷目錄ヲ提出スヘシ

前項ノ船舶ハ稅關ノ認許ヲ得タル場合ヲ除クノ外前項ノ積荷目錄ヲ提出シタル後ニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限リニ在ラス

第二條　朝鮮ヨリ內地、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ貨物又ハ旅客ヲ輸送スル船舶朝鮮各港ヨリ出港セムトスルトキハ船長ハ出港一時間前迄ニ稅關ニ出港屆ヲ爲シ其ノ港ヨリ內地、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ輸送スル貨物ノ積荷目錄ヲ提出スヘシ

第三條　船長積荷目錄ノ訂正補足ヲ爲スニハ稅關ノ認許ヲ受クルコトヲ要ス

第四條　左ニ揭クル物品ノ移出ハ開港又ハ朝鮮總督ノ指定スル港ニ由リ之ヲ爲スヘシ

一　朝鮮出港稅令ニ依リ出港稅ヲ課スヘキ物品又ハ之ト同種ノ物品ニシテ出港稅ヲ課セサルモノ

二　朝鮮ニ於テ內國稅ノ免除又ハ交付金ノ交付ヲ受クル爲稅關ノ移出免許ヲ受ケムトスル物品

三　大正九年制令第十九號ニ依リ其ノ移出ヲ條件トシテ移入稅ノ免除ヲ得タル物品又ハ其ノ加工品若ハ製造品

咸鏡北道雄基開港ノ件・咸鏡北道羅津開港ノ件・平安北道多獅島ヲ開港トスルノ件・黃海道海州ヲ開港トスルノ件・朝鮮ト內地、臺灣、樺太又ハ南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル件（朝鮮）　五五三

第五條　左ニ揭クル物品ノ移入ハ開港又ハ朝鮮總督ノ指定スル港ニ由リ之ヲ爲スヘシ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　朝鮮ニ於テ內國稅ヲ課スヘキ物品

二　朝鮮出港稅令ニ依リ其ノ移入ヲ條件トシテ出港稅ノ免除ヲ得タル物品

三　內地、臺灣又ハ樺太ニ於テ內國稅ノ免除若ハ拂戾又ハ交付金ノ交付ヲ受クル爲稅關ノ移入免許ヲ受ケムトスル物品

四　大正九年制令第十九號ニ依リ移入稅ヲ課スヘキ物品

前項但書ノ規定ニ依リ貨物ヲ陸揚シ又ハ他船ニ積換ヘタルトキハ船長ハ直ニ其ノ事由ヲ稅關ニ屆出ツヘシ

第六條　前二條ノ規定ハ郵便物ニ付之ヲ適用セス

第七條　稅關長必要アリト認ムルトキハ第一條又ハ第二條ノ船舶ト陸地トノ交通ノ場所ヲ指定スルコトヲ得

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ船長ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第一條第一項又ハ第二條ノ貨物ト符合セサル積荷目錄ヲ提出シタルトキ

二　第一條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

三　第二條ノ積荷目錄ヲ提出セスシテ出港シタルトキ

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第一條第一項ノ規定ニ違反シ所定ノ時間内ニ入港屆ヲ爲ササルトキ

二 第二條ノ規定ニ違反シ所定ノ時間内ニ出港屆ヲ爲ササルトキ

三 第五條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

第十條 第七條ノ規定ニ依リ稅關長交通ノ場所ヲ指定シタル場合ニ於テ其ノ場所ニ由ラスシテ交通シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十一條 第八條又ハ第九條ノ規定ニ該當スルトキハ船長ハ不注意ニ出テタルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十二條 第四條及第五條ニ揭クル物品ノ移出入ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外關稅法第二十四條乃至第二十七條、第二十九條乃至第六十條、第七十六條、第七十七條、第八十條乃至第八十二條ノ四、第百條ノ規定、保稅倉庫法、保稅工場法及大正九年法律第五十三號第八條ノ規定ヲ準用ス

第十三條 本令違反事件ノ調査及處分ニ關シテハ關稅法第七章及大正九年法律第五十三號第八條ノ規定ヲ準用ス

第十四條 第一條乃至第三條及第五條第二項ノ規定中稅關トアルハ稅關所在地外ニ在リテハ稅關監視署、稅關及稅關監視署所在地外ニ在リテハ警察署トス

第十五條 稅關及稅關監視署所在地外ニ於テハ警察官吏ハ第一條及第二條ノ船舶ニ乘込ミ貨物ノ檢査其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十六條 本令中船長ニ適用スヘキ規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス

第十七條 本令中船舶、船長、船舶ニ依ル移出、船舶ニ依ル移入及海路運送竝ニ之ニ關スル犯則事件ノ調査處分及處罰ニ付テノ規定ハ航空機、航空機ノ長、航空機ニ依ル移出、航空機ニ依ル移入及航空機ニ依ル移入手續未濟ノ貨物ノ運送竝ニ之ニ關スル犯則事件ノ調査處分及處罰ニ付之ヲ準用ス但シ本令中開港トアルハ航空法第三十四條ノ飛行場、港トアルハ航空機ノ著陸又ハ離陸ノ地、入港又ハ入港屆トアルハ著陸又ハ著陸屆、出港又ハ出港屆トアルハ離陸又ハ離陸屆トス

附 則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前大正九年制令第十九號ニ依リ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ニシテ本令中之ニ相當スル規定アルモノハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

大正十二年制令第六號施行規則

（大正十二年三月朝鮮總督府令第四十八號）

改正 昭和十年十月朝鮮總督府令第百三十一號

第一條 船舶ノ入港屆及出港屆ハ左ノ事項ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ積荷目錄ノ餘白ニ記載シテ之ヲ爲スコトヲ得

一 入港屆記載事項

船舶ノ名稱、船種、船籍港、登簿噸數及總噸數又ハ積石數、仕出港、入港ノ日時、朝鮮外ヨリ輸送セル旅客ノ數

二 出港屆記載事項

船舶ノ名稱、船種、船籍港、登簿噸數及總噸數又ハ積石數、仕向港、出港ノ日時、朝鮮外ニ輸送スル旅客ノ數

前項ノ入港屆及出港屆ニハ稅關ノ要求アルトキハ旅客ノ住所、氏名、乘込地及上陸地ヲ記載シタル船客名簿ヲ添附スヘシ

第二條 積荷目錄ニハ船舶ノ名稱貨物ノ船荷證券番號、仕出地、仕向地、記號及番號、包裝種別、箇數、品名、數量、價格及大正十二年制令第六號第一條第一項ノ場合ニ在リテハ荷受人、同令第二條ノ場合ニ在リテハ荷送人ヲ記載シ尙同令第一條第一項ノ貨物ニシテ經由港ニ於テ移入免許ヲ得タルモノ又ハ同令第二條ノ貨物ニシテ經由港ニ於テ移入免許ヲ得テ移出セムトスルモノニ付テハ移入免許ヲ得タル港名又ハ移出免許ヲ得ムトスル港名ヲ附記スヘシ

關稅法第三十九條ニ依リ運送スル外國貨物ニ付テハ前項ノ積荷目錄ニハ其ノ箇數ノミヲ記載スルヲ以テ足ル

積荷目錄ハ同時ニ二通ヲ提出スヘシ

第三條 大正十二年制令第六號第四條及第五條ノ規定ニ依リ指定スル港左ノ如シ

慶尙南道蔚山郡方魚津
慶尙南道馬山府馬山浦
慶尙南道昌原郡鎭海
慶尙南道統營郡統營
全羅南道麗水郡麗水
全羅南道濟州島濟州
慶尙北道迎日郡浦項
慶尙北道鬱陵島道洞

咸鏡南道咸州郡西湖津
黃海道海州郡龍塘浦

第四條 郵便局ハ移入郵便物ノ到著シタルトキハ移入郵便物目錄ヲ作リ當該稅關ニ通知スヘシ
稅關官吏郵便物ヲ檢査スルトキハ郵便局員立會ノ上之ヲ行フヘシ
內國稅又ハ移入稅ヲ課スヘキ郵便物ヲ名宛人ニ交付スルコト能ハサルトキハ郵便局ハ其ノ理由ヲ記載シ稅關ニ通知スヘシ

第五條 前各條ニ規定スルモノヲ除クノ外大正十二年制令第六號ノ施行ニ關シテハ關稅法及大正九年法律第五十三號施行規則第三十條乃至第五十二條、第六十四條乃至第七十七條及第七十九條乃至第八十六條ノ規定保稅倉庫法施行規則竝ニ保稅工場法施行規則ヲ準用ス但シ第三條ニ揭ケタル港ニ於テハ稅關長ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ關稅法及大正九年法律第五十三號施行規則第三十一條又ハ同第七十七條第二項ノ特許手數料ヲ低減スルコトヲ得

第六條 本令中、船舶、船長及海路運送竝ニ之ニ關スル犯則事件ノ調査及處分ニ付テノ規定ハ航空機、航空機ノ長

航空機ニ依ル移入手續未濟ノ貨物ノ運送竝ニ之ニ關スル犯則事件ノ調査及處分ニ付之ヲ準用ス但シ船舶ノ名稱トアルハ航空機ノ登錄記號、船種トアルハ航空機ノ種類及型式、船籍港トアルハ航空機ノ定置場、登簿噸數及總噸數又ハ積石數トアルハ航空機ノ人及貨物ノ積載力、仕出港又ハ仕向港トアルハ仕出地又ハ仕向地、船客名簿トアルハ旅客名簿、經由港トアルハ航空機ノ經由シタル著陸又ハ離陸ノ地、港名トアルハ著陸又ハ離陸ノ地名トシ航空機及之ニ積卸ヲ爲ス貨物ニ關スル特許手數料ハ左ノ割合ニ依ル

臨時開廳特許手數料

日出ヨリ日沒迄	一時間迄每ニ	二圓五十錢
日沒ヨリ午後十二時迄 同		五圓
午後十二時ヨリ日出迄 同		九圓

貨物搬入、搬出及取扱特許手數料

日出ヨリ日沒マテ	一時間迄每ニ	五十錢
日沒ヨリ午後十二時迄 同		一圓
午後十二時ヨリ日出迄 同		二圓

派出檢査特許手數料

檢査ニ要スル時間一時間迄每ニ 一圓

附則

本令ハ大正十二年制令第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ保稅地域ニ在ル貨物ノ敷料又ハ使用料ニ付テハ第五條ノ規定ニ依ルヘキモノヲ除クノ外從前ノ例ニ依ル

鴨綠江及豆滿江沿岸ニ於ケル外國船舶ノ出入及運送ニ關スル件

（大正十二年一月 朝鮮總督府令第十二號）

第一條 外國船舶ハ戎克船又ハ端舟其ノ他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ若ハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟ニ限リ道知事ノ許可ヲ受ケ左ニ揭クル場所ニ出入シ又ハ運送ヲ爲スコトヲ得
一 平安北道新義州府ヨリ上流鴨綠江沿岸但シ新義州府ト義州郡九龍浦トノ間ノ沿岸ヲ除ク
鴨綠江及豆滿江沿岸ニ於ケル外國船舶ノ出入及運送ニ關スル件（朝鮮）
二 咸鏡北道慶興郡鷹西面土里ヨリ上流豆滿江沿岸
前項ノ許可ノ期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 前條ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 申請者及船舶所有者ノ國籍、住所、氏名及年齡
二 船舶ノ種類、船名總噸數、又ハ積石數
三 船籍地
四 寄港地
五 航行區域
六 航行期間

第三條 第一條ノ許可ヲ與ヘタルトキハ附錄雛形ノ許可證ヲ交付ス
許可證ハ船內見易キ箇所ニ之ヲ標示スヘシ

第四條 第二條第四號乃至第六號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ道知事ノ許可ヲ受クヘシ
第二條ノ規定ハ前項ノ許可申請ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ申請書ニ許可書ヲ添附スルコトヲ要ス

第五條 第二條第一項第一號乃至第三號ノ事項ヲ變更シタルトキハ十日內ニ道知事ニ屆出テ許可證ノ書換ヲ受クヘシ

第六條 道知事許可ヲ受ケタル者法令ニ違反シ又ハ公益上

必要アリト認ムルトキハ許可ヲ取消シ又ハ取締上必要ナル指示命令ヲ爲スコトヲ得

第七條　本令ニ依リ道知事ニ提出スル申請書又ハ屆書ハ主タル寄港地ヲ管轄スル警察官署ヲ經由スヘシ

第八條　第三條第二項、第四條第一項、第五條ノ規定若ハ第六條ニ依ル指示命令ニ違反シ又ハ虛僞ノ申請ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年警務總監部令第二號ハ之ヲ廢止ス

許可書雛形（材料木製）

船舶出入（運送）許可證

船種	國籍
船名	住所 氏名
（積總噸數又ハ石數）	年齡
船籍地名	
寄港地名	

右鴨綠江（又ハ豆滿江）ノ沿岸前記ノ場所ニ出入（運送ニ從事）スルコトヲ許可ス

本許可證ノ有効期間ハ許可ノ日ヨリ　箇月トス

大正　年　月　日

官署名　印

船舶法第一條等ノ日本船舶ノ不開港出入ニ關スル件

（大正十二年三月　朝鮮總督府令第六十三號）

船舶法第一條又ハ臺灣船籍規則第一條ノ日本船舶ハ不開港ニ出入シ又ハ各港ノ間ニ於テ運送ヲ爲スコトヲ得但シ傳染病豫防上必要アリト認メ朝鮮總督ニ於テ其ノ最初ノ寄港地ヲ指定シタル場合ニ於テハ指定地以外ニ寄港スルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ違反シタルトキハ船長又ハ船長ニ代リテ其ノ職ヲ行フ者ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年朝鮮總督府令第六十三號ハ之ヲ廢止ス

清津漁港管理規則

（昭和十年十二月　朝鮮總督府令第百四十三號）

第一條　左ニ掲クル船舶以外ノ船舶ニシテ二十噸以上ノモノ清津漁港（第一表ノ水面）ニ入港セントスルトキハ道知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　國又ハ公共團體ノ所有ニ屬スル船舶

二　漁船

三　水産製品又ハ漁獲物ノ運搬用船舶

四　水産製品ノ製造又ハ漁業ニ必要ナル物品ノ運搬用船舶

五　造船業ニ必要ナル物品ノ運搬用船舶

六　港内ノ工事ニ從事スル船舶

七　清津漁港ノ附帶地域（第二號表ノ土地）ニ於ケル工事ニ必要ナル物品ノ運搬用船舶

八　海難救護ニ從事スル船舶

第二條　道知事清津漁港ノ保全上、港内ノ工事上其ノ他必要アリト認ムルトキハ船舶ノ入港ヲ禁止又ハ制限スルコ

トヲ得

第三條 清津漁港ノ附帶地域ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ道知事ノ許可ヲ受ケ之ヲ占用スルコトヲ得

一 漁業ノ經營上必要アルトキ

二 造船業ノ經營上必要アルトキ

三 漁獲物又ハ水産品ノ製造、取引、保管又ハ運搬ノ爲必要アルトキ

四 前各號ノ外道知事ニ於テ特ニ清津漁港ノ利用上必要アリト認ムルトキ

第四條 前條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル者ハ道知事ノ定ムル所ニ依リ料金ヲ納付スヘシ

第五條 第三條ノ規定ニ依ル許可ノ期間ハ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條 第三條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ道知事ニ提出スベシ

一 申請人ノ氏名及住所（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地竝ニ代表者ノ氏名及住所）

二 占用セントスル土地ノ位置及面積

三 占用ノ目的

四 占用ノ期間

前項ノ申請書ニハ事業計畫書及圖面（占用セントスル土地ノ一般圖、平面圖、求積圖及工作物ヲ設置スル場合ニ在リテハ其ノ構造圖）ヲ添附スヘシ

第七條 相續又ハ法人ノ合併ニ因リ第三條ノ規定ニ依ル許可ニ因リテ生スル權利義務ヲ承繼シタル者ハ遲滯ナク相續又ハ合併アリタルコトヲ證スル書類ヲ添附シ道知事ニ之ヲ屆出ツヘシ

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ道知事ハ占用ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ許可ヲ取消シ其ノ効力ヲ制限シ其ノ條件ヲ變更シ施設シタル工作物其ノ他ノ物件ヲ變更若ハ除却セシメ原狀回復ヲ爲サシメ又ハ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲サシムルコトヲ得

一 引續キ一年以上占用ノ許可ヲ受ケタル土地ヲ其ノ目的ノ用ニ供セサルトキ

二 本令又ハ本令ニ依リテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ違反シタルトキ

三 清津漁港ノ附帶地域ノ保全上又ハ工事上必要アルトキ

四 法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ爲必要アルトキ

五 前各號ノ外道知事ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキ

第九條 第一條ノ規定又ハ第二條ノ禁止若ハ制限ニ違反シタルトキハ當該船舶ノ船長又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

船長又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ船舶ノ乘組員カ第一條ノ規定又ハ第二條ノ禁止若ハ制限ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附　則

本令ハ昭和十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號表（清津漁港）

新輸城川導水堤ノ南端ト其ノ東側防波堤ノ南端トヲ連結シタル線内ノ水面（別圖ノ通）

第二號表（清津漁港附帶地域）

清津漁港ノ周圍ノ土地（別圖ノ通）

（別圖省略）

臺灣開港規則

（昭和二年十一月臺灣總督府令第六十二號）

改正　昭和十一年三月臺灣總督府令第二十二號

第一條 本令ニ於テ開港ト稱スルハ基隆、高雄、花蓮港、淡水及安平ノ各港ヲ謂フ

前項ノ開港ノ港界左ノ如シ

基　隆

萬人推鼻ヨリ北東微東二分ノ一東ニ向ヒ中山ノ西北端ニ引キタル一線及尖山鼻ヨリ南西微南ニ向ヒテ引キタル一線以内ノ水面

高　雄

高雄燈臺ヲ中心トシ二浬ノ半徑ヲ以テ劃リタル圓弧内ノ水面

花蓮港

米崙山ノ山頂ヲ中心トシ二浬ノ半經ヲ以テ劃リタル圓弧内ノ水面

淡　水

淡水燈臺ヲ中心トシ二浬ノ半經ヲ以テ劃リタル圓弧内

ノ水面

安平

安平燈臺ヲ中心トシ二浬ノ半經ヲ以テ劃リタル圓弧内ノ水面

第二條 船舶ハ開港ヲ出入スルニ當リ其ノ所屬國ノ國旗及信號符字ヲ掲クヘシ但シ定期郵便船ハ會社旗ヲ以テ信號符字ニ代用スルコトヲ得

船舶出港セントスルトキハ豫メ出帆旗ヲ掲クヘシ

第三條 船舶入港シタルトキハ遲滯ナク第一號樣式ノ入港屆ヲ出港セントスルトキハ第二號樣式ノ出港屆ヲ港務部長ニ提出スヘシ

第四條 港務部長必要アリト認ムルトキハ船舶ニ水先人ヲ乘船セシムルコトヲ得此ノ場合ト雖船舶ノ指揮ハ船長ノ責任トス

第五條 港務部長必要アリト認ムルトキハ船舶ノ出入順序又ハ碇泊所ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ指定ヲ受ケタル船舶ハ港務部長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ順序又ハ碇泊所ヲ變更スルコトヲ得ス

但シ避難其ノ他已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ遲滯ナク之ヲ港務部長ニ屆出ツヘシ

第六條 爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ常用ニ超過シテ積載シタル船舶入港シタルトキハ港内所定ノ場所ニ於テ港務部長ノ指揮ヲ待ツヘシ

前項ノ船舶ハ日出ヨリ日沒迄ノ間ハBノ信號旗ヲ日沒ヨリ日出迄ノ間ハ紅燈一箇ヲ前檣ノ頂上ニ掲クヘシ

第一項ニ於テ爆發物ト稱スルハ火藥（有煙火藥、無煙火藥ノ類）雷酸鹽（雷汞ノ類）起爆ノ用途ニ供スル窒化物（窒化鉛ノ類）其ノ他ノ起爆劑「ナイトログリセリン」及之ヲ主トスル爆發藥（各種「ダイナマイト」ノ類）綿火藥、硝化綿、鹽素酸鹽類（鹽素酸曹達、鹽素酸加里ノ類）過鹽素酸鹽類（過鹽素酸加里、過鹽素酸「アンモニア」ノ類）硝酸鹽類（硝石、智利硝石、硝酸「アンモニア」ノ類）芳香系列ノ硝化物ニシテ爆發性ヲ有スルモノ（「ナイトロベンジン」「ピクリン」酸ノ類）實包、空包藥包、藥筒ノ類、火藥又ハ爆藥ヲ裝塡シタル彈丸、信管雷管ノ類、煙火其ノ他火藥又ハ爆藥ヲ使用シタル火工品（玩具用普通火工品ヲ除ク）及壓縮瓦斯類ヲ謂ヒ容易ニ燃燒スヘキ物件ト稱スルハ原油、揮發油、石油、輕油、重油其ノ他ノ石油類、黃燐、赤燐、硫化燐「カリウム」「ナトリウム」「マグネシウム」過酸化曹達、「エーテル」硫化炭素「コロヂウム」「メチールアルコホル」「ベンゾール」「トルオール」「ソルベントナフサ」「アルコホル」「アセトン」「キンロール」「テレピン」油、「セルロイド」濃硫酸、濃硝酸、生石灰、炭化石灰、燐化石灰、其ノ他「エーペル」又ハ「ペンスキー」閉塞發焰試驗器ヲ用ヰ七百六十粍ノ氣壓ニ於テ攝氏三十五度以下ノ溫度ニテ發焰スルモノヲ謂フ

爆發物ハ船舶ニ備附ケタル大砲一門毎ニ火藥五十發分、導火管類七十箇、小銃一挺毎ニ火藥百發分、雷管百五十箇及船舶相當量ノ信號用榴彈、火箭、焰管、救命焰ヲ除クノ外之ヲ常用ニ超過シタルモノト看做ス

容易ニ燃燒スヘキ物件ハ船舶所用ノ目的ヲ證明シ得ルモノノ外之ヲ常用ニ超過シタルモノト看做ス

第七條 入港シタル船舶ハ港務部長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ船舶又ハ陸地ト交通ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 港内ニ於テ碇泊又ハ航行スル船舶ハ日沒ヨリ日出迄ノ間ハ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ掲クヘシ

第九條 暴風ノ徵アルトキハ碇泊中ノ船舶ハ標流防止及運轉ノ準備ヲ爲スヘシ

第十條 船舶ハ公ノ航路ニ投錨シ又ハ他ノ船舶ノ航行ヲ妨クヘカラス

第十一條 船舶爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ノ積卸ヲ爲サントスルトキハ港務部長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ港務部長前項ノ場所ヲ指定スルニ當リ港内ニ適當ノ場所ナキトキハ港外ニ於テ之ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ指定シタル場所ハ當該船舶ニ付テハ之ヲ港内ト看做ス

第十二條 船舶港内ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ル迄船鐘ヲ打鳴シ且日出ヨリ日沒迄ノ間ハNQノ信號旗ヲ掲ケ日沒ヨリ日出迄ノ間ハ紅燈ヲ上下スヘシ

第十三條 船舶ニ於テ警察官ノ救援ヲ要スルトキハ日出ヨリ日沒迄ノ間ハSTノ信號旗ヲ掲ケ日沒ヨリ日出迄ノ間ハ藍火若ハ閃火ヲ示スヘシ

第十四條 船舶ハ港務部長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ港内ニ於テ銃砲又ハ煙火等ヲ發スルコトヲ得ス

第十五條 繫留ノ爲設置シタル浮漂其ノ他ノ營造物ニ非サルモノニ船舶其ノ他ノ物件ヲ繫留スヘカラス

第十六條 燈船、浮標、立標、埠頭其ノ他ノ營造物ヲ毀損シタル船舶ハ其ノ復舊ニ要スル費用ヲ支辨スヘシ

第十七條 在港中ノ船舶ハ屍體、荷足、灰燼、塵芥、其ノ他船舶ノ航行又ハ碇泊ヲ妨クヘキ物件ヲ水中ニ投棄スヘカラス

船舶石炭、荷足其ノ他海底ニ堆積スル物件ヲ積卸セントスルトキハ之カ水中ニ脱落スルヲ防ク爲必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第十八條 前條ノ物件ヲ港内又ハ其ノ附近ノ水中ニ投棄シ又ハ過失ニ依リ脱落セシメタル船舶ハ州知事又ハ廳長ノ指定スル期間内ニ之ヲ取除クヘシ

船舶前項ノ義務ヲ履行セサルトキハ州知事又ハ廳長ハ該船舶ノ費用ヲ以テ之ヲ取除クコトヲ得

第十九條 港内又ハ其ノ附近ニ於テ船舶ノ航行又ハ碇泊ニ妨害トナルヘキ難破物其ノ他ノ物件ハ州知事又ハ廳長ノ指定スル期間内ニ其ノ所有者之ヲ取除クヘシ

所有者前項ノ義務ヲ履行セサルトキハ州知事又ハ廳長ハ所有者ノ費用ヲ以テ之ヲ取除キ又ハ破壞スルコトヲ得

第二十條 港内ニ於テ船舶ノ艤裝、修繕又ハ休繫セントスルトキハ兼メ之ヲ港務部長ニ屆出テ碇泊所ノ指定ヲ受クヘシ

第二十一條 本令ニ依リ罰金若ハ科料ニ處セラレ又ハ費用ヲ納付スヘキ船舶之ヲ完納セサルトキハ州知事又ハ廳長ノ適當ト認ムル擔保ヲ提供スルニ非サレハ出港スルコトヲ得ス

第二十二條 本令ノ規定ニシテ船舶ニ係ルモノハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス

船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ船舶ノ乘組員カ本令ニ違反シタル場合ニ於テ自已ノ指揮ニ出テサル故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十三條 州知事又ハ廳長必要ト認ムルトキハ期間及區域ヲ限リ船舶ノ航行及碇泊ヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ期間及區域ハ之ヲ告示ス

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第二條、第三條、第五條第二項、同條第三項、第六條第一項、同條第二項、第七條乃至第十條、第十一條第一項、第十二條、第十四條、第十五條、第十七條、及第二十條ニ違反シタル者

二 第四條ノ水先人ノ乘船ヲ拒ミタル者

三 第五條第一項ノ指定又ハ第二十三條ノ禁止ニ違反シタル者

第二十五條 本令中港務部長トアルハ安平港ニ付テハ所轄ノ警察署長トス

第二十六條 第二條、第三條、第六條乃至第九條、第十一條乃至第十三條、第十六條、第十八條第二項、第十九條第二十一條、第二十二條及第二十四條ノ規定ハ之ヲ軍艦ニ適用セス

附則

本令施行ノ期日ハ別ニ之ヲ定ム（昭和四年臺灣總督府令第七號ヲ以テ同年三月一日ヨリ施行）

當分ノ内淡水港及安平港ニハ本令中第二條第二項、第四條及第二十條ノ規定ヲ適用セス

基隆港内取締規則及高雄港内船舶出入及運航規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號樣式

入港屆

一 船種
一 船名
一 國籍
一 船籍港
一 船舶所有者
一 代理店又ハ取扱店
一 總噸數
一 登簿噸數
一 最初發航地及年月日
一 最終發航地及年月日
一 入港日時
一 船員數　名（内職員　名）
一 船客數　一二等其ノ他
一 噸稅有効期間

右及屆出候也

年　月　日

船長氏名

何港務部長殿

明細書

一 吃水　前　呎
　　後　呎
二 船ノ長サ　呎
三 貨物ノ種類及噸數

陸揚
通過
四上陸人
一等 男 人
二等 男 人
三等 男 人
其ノ他 男 人
女 人
計 人

五 常用超過爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件アラハ其ノ品名及數量並陸揚地
六 豫定出港日時及仕向地
七 碇泊錨地ノ位置及檢疫錨地ノ交叉角

第二號樣式

出港屆

一 船種
一 船名
一 國籍
一 最終仕向地
一 最初仕向地
一 出港日時

右及屆出候也

年 月 日

船長 氏名

何港務部長殿

明細書

一 吃水 前 呎
後 呎
二 當港積荷種類及噸數
三 當港ヨリ乘船客
一等 男 人
女 人
二等 男 人
女 人
三等 男 人
女 人
其ノ他 男 人
女 人
計 人

花蓮港港規則

（昭和十五年一月 臺灣總督府令第九號）

第一章 總則

第一條 本令ニ於テ花蓮港港トハ臺灣開港規則第一條第二項ノ規定ニ依ル花蓮港ノ港界及之ニ隣接スル土地ニシテ港ノ利用ニ必要ナル區域ヲ謂フ

前項ノ港界ノ區劃及港ノ利用ニ必要ナル區域ハ別記第一號表ニ依ル

第二條 本令ニ於テ雜種船トハ總噸數百噸未滿ノ船舶ヲ謂フ

第三條 本令中船舶ニ關スル規定ハ船舶ニ類似セル形體ヲ有スル工作物ニ之ヲ準用ス

第四條 花蓮港港ニ於テハ保稅地域ヲ除クノ外交通局總長ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ旅客又ハ公衆ニ對シ寄附ヲ乞ヒ、物品ノ購買ヲ求メ、物品ヲ配付シ其ノ他演說勸誘等ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第二章 水面ノ管理

第五條 內港ニ入港セントスル船舶ハ外港附近ニ於テ長短二聲ノ汽角ヲ吹鳴シ港務部長ヲ入港順序及碇泊所ノ指定其ノ他ノ指揮ヲ受クベシ但シ雜種船ニシテ雜種船區ニ入港スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 雜種船ニハ臺灣開港規則第七條ノ規定ヲ適用セズ

第七條 臺灣開港規則第六條第一項ノ船舶入港シタルトキハ外港ニ於テ港務部長ノ指揮ヲ待ツベシ

第八條 船舶日沒後入港シタルトキハ日出迄外港ニ於テ假泊スベシ但シ雜種船及港務部長ノ許可ヲ受ケタル船舶ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 雜種船以外ノ船舶ハ內港ニ於テハ繫船設備ニ依リテ碇泊スベシ但シ已ムコトヲ得ザル事由ニ依リ港務部長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 漁船ハ臺灣開港規則第三條ノ規定ニ拘ラズ入港シタルトキハ遲滯ナク別記第一號樣式ノ入港屆ヲ、出港セントスルトキハ別記第二號樣式ノ出港屆ヲ港務部長ニ提出スベシ

第十一條 內港ヨリ出港セントスル船舶ハ出帆三十分前ヨリ信號符字ヲ揭ゲ解纜開始ノ直前ニ長短二聲ノ汽笛又ハ汽角ヲ吹鳴シ港務部長ノ指揮ヲ受クベシ但シ雜種船ハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 雜種船ハ特定信號ニ依ル警戒旗揭揚中ハ水道ニ出入スルコトヲ得ズ

第十三條 港務部長必要アリト認ムルトキハ船舶ノ航行停止又ハ出入順序若ハ碇泊所ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

港務部長必要アリト認ムルトキハ船舶ノ繫留、解纜又ハ轉繫ニ關シ曳船ノ使用ヲ命ズルコトヲ得

第十四條 船舶ハ左ノ各號ノ場合ニ於テハ臺灣開港規則第十條ノ規定ニ拘ラズ公ノ航路又ハ水道ニ投錨又ハ停留スルコトヲ得

一 衝突其ノ他急迫ノ危險ヲ避ケントスルトキ

二 運轉自由ヲ得ザルトキ

三 人命又ハ船舶ノ救助ニ從事スルトキ

四 測量若ハ浚渫作業又ハ航路標識ノ工事ニ從事スルトキ

五 難破物、沈沒物等ノ引揚其ノ他海中ノ工事ニ從事スルトキ

前項第三號又ハ第四號ノ場合船舶ハ最見易キ場所ニ晝間ハ黑球又ハ黑色ノ形象一箇ヲ夜間ハ紅燈一箇ヲ揭グベシ

第一項第五號ノ場合船舶ハ最見易キ場所ニ晝間ハ紅色ノ方旗一流ヲ、夜間ハ紅燈一箇ヲ揭グベシ

第十五條 水道又ハ內港ニ於テハ船舶ハ他船ニ危害ヲ及ボサザル程度ニ速力ヲ減ズベシ帆船ニ在リテハ帆ヲ用ヒテ航行スベカラズ

第十六條 船舶ハ竝列シテ航行シ又ハ濫ニ他船ヲ追越スベカラズ

雜種船ハ雜種船以外ノ船舶ノ進路ヲ避クベシ

第十七條 雜種船水道ヲ通過スルトキハ右舷ヲ護岸ニ近寄セテ航行スベシ

第十八條 船舶他ノ船舶、筏等ヲ曳航スルトキハ左ノ制限ヲ超ユベカラズ但シ港務部長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 曳船ノ船首ヨリ被曳船又ハ被曳物件ノ後端ニ至ル迄ノ延長六十メートル以內ニシテ單縱列ナルコト

二 被曳船ハ雜種船ニ在リテハ三隻以內、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ一隻ナルコト

船舶以外ノ物件ヲ曳航スル船舶水道ヲ通過セントスルトキハ前項第一號ノ制限ニ依ルノ外港務部長ノ許可ヲ受クベシ

第十九條 雜種船、筏等ハ荷役等ノ爲碇泊中ノ船舶ノ舷側ニ一列ニ繫留スル場合ヲ除クノ外其ノ船尾又ハ舷側ニ繫留スベカラズ但シ港務部長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 左ノ各號ノ場合ニ於テハ港務部長ノ許可ヲ受クベシ

一 遊漁、漁撈又ハ潛水作業ヲ爲サントスルトキ

二 竹木材ヲ水上ニ卸サントスルトキ

三 筏等ヲ繫留又ハ運行セントスルトキ

四 其ノ他船舶航行ノ妨ト爲ルベキ一切ノ作業ヲ爲サントスルトキ

第二十一條 船舶ハ法令ニ規定アル場合ヲ除クノ外濫ニ汽笛又ハ汽角ヲ吹鳴スベカラズ

第二十二條 左ノ各號ノ場合ニ於テハ港務部長ハ本令ニ基キテ爲シタル許可ヲ取消シ又ハ之ニ制限ヲ加フルコトヲ得

一 臺灣開港規則若ハ本令又ハ之ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

二 公益上必要アリト認メタルトキ

第三章 設備ノ管理

第一節 岸壁、護岸及物揚場

第二十三條 港務部長第二章ノ規定ニ依リ船舶ノ入港、碇泊、出港等ニ付指揮ヲ爲サントスルトキハ豫メ臺灣總督府交通局花蓮港埠頭出張所（以下埠頭出張所長ト稱ス）ニ協議スベシ

岸壁ニ繫留シタル船舶ヲ轉繫セシムル必要アルトキハ埠頭出張所長ハ港務部長ニ對シ當該船舶ノ碇泊所ノ變更ヲ求ムベシ

埠頭出張所長ハ船舶ニ對シ其ノ繫留ニ付必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 岸壁ニ於テ船舶ヲ繫留スベキ位置ハN旗ヲ以テ之ヲ標示ス

第二十五條 船舶ガ岸壁繫留中ニ於テ失火其ノ他ノ事由ニ因リ港灣設備、貨物其ノ他ノ物件ニ危險又ハ障碍ヲ及ボス虞アルトキハ埠頭出張所長ハ當該船舶又ハ其ノ附近ノ船舶ニ對シ臨機ノ處置ヲ命ズルコトアルベシ

第二十六條 前條ノ場合ニ於テ船舶ガ命令ニ從ハザルトキハ埠頭出張所長ハ當該船舶ノ危險及費用ノ負擔ニ於テ必要ナル處置ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 岸壁ニ繫留中ノ船舶ハ蒸氣、汚水又ハ汚物ヲ陸上ニ排出スベカラズ

前項ノ規定ニ違反シタル船舶ハ埠頭出張所長ノ指示ニ從

ヒ適當ナル處置ヲ爲スベシ

第二十八條 岸壁、護岸及物揚場ニハ貨物其ノ他ノ物件ヲ放置スベカラズ

岸壁、護岸及物揚場ニ放置セラレタル貨物其ノ他ノ物件ハ交通局總長ニ於ケ所有者ノ費用ヲ以テ之ヲ撤出、撤去又ハ處分スルコトヲ得

前項ノ處分ニ依リ得タル金額ハ其ノ所有者ガ花蓮港港ノ使用ニ依リテ負擔スベキ義務アル費用ニ之ヲ充當スルコトヲ得

第二節　上家野積場及船揚場

第二十九條 上家ハ船舶積卸貨物ヲ入ルル爲一般ニ之ヲ使用スルコトヲ得但シ左ノ貨物ハ此ノ限ニ在ラズ

一　爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件

二　他ノ貨物ヲ汚損スル虞アルモノ

三　燃料、木材、石材、鐵材其ノ他粗雜品及濶大物

第三十條 野積場ハ船舶積卸貨物ノ置場トシテ一般ニ之ヲ使用スルコトヲ得但シ爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ハ此ノ限ニ在ラズ

野積場ハ交通局總長之ヲ指定ス

第三十一條 上家又ハ野積場ヲ使用セントスル者ハ別記第三號樣式ノ申込書ヲ埠頭出張所長ニ提出シ同時ニ貨物ノ現實ノ提供ヲ爲スベシ

上家又ハ野積場ノ使用ハ前項ノ申込ノ順序ニ依ル

第三十二條 上家ニ入レタル貨物又ハ野積場ニ置キタル貨物ヲ引取ラントスル者ハ別記第四號樣式ノ撤出屆ヲ埠頭出張所長ニ提出シ積荷明細書ニ撤出承認印ノ押捺ヲ受クベシ

第三十三條 上家及野積場ニ於ケル貨物ニ付テハ埠頭出張所長ハ其ノ保管ノ責ニ任ゼズ

第三十四條 上家及野積場ニ於ケル貨物ノ置場ハ埠頭出張所長之ヲ指定ス

埠頭出張所長必要アリト認ムルトキハ前項ノ置場ヲ變更スルコトアルベシ此ノ場合ノ荷繰費ハ貨主ノ負擔トス

第三十五條 上家ニ入レタル貨物又ハ野積場ニ置キタル貨物ハ其ノ當日ヨリ起算シ七日以内ニ之ヲ引取ルベシ

第三十六條 前條ノ期間ヲ經過スルモ引取ラレザル貨物ハ埠頭出張所長ニ於テ貨主ノ費用ヲ以テ之ヲ倉庫業者ニ寄託スルコトアルベシ

前項ノ規定ニ依リ貨物ヲ寄託シタルトキハ埠頭出張所長ハ遲滯ナク其ノ旨貨主ニ通知スベシ

第三十七條 上家又ハ野積場ニ出入セントスル者ハ埠頭出張所長ノ許可ヲ受クベシ埠頭出張所長前項ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ者ニ對シ一定ノ徽章ヲ佩用セシムルコトアルベシ

第三十八條 船揚場ハ船舶ノ手當、修理、避難等ノ爲一般ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第三十九條 船揚場ヲ使用セントスル者ハ埠頭出張所長ニ其ノ旨申出デ其ノ指揮ヲ受クベシ但シ避難ノ爲急ヲ要スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テハ船舶ヲ引揚ゲタル後其ノ旨埠頭出張所長ニ屆出ヅベシ

埠頭出張所長必要アリト認ムルトキハ船舶ノ置場ヲ變更セシムルコトアルベシ

第四十條 上家、野積場又ハ船揚場ノ一部ヲ繼續シテ使用セントスル者ハ別記第五號樣式ノ使用許可願ヲ交通局總長ニ提出シ其ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ上家、野積場又ハ船揚場ニ工作物ノ築造其ノ他ノ設備ヲ爲サントスルトキハ願書ニ其ノ設計仕樣書及圖面ヲ添附スベシ

第三節　其ノ他諸設備

第四十一條 左ノ設備ハ埠頭出張所ニ於テ之ヲ爲シ各其ノ項ノ規定ニ依リ之ヲ運用ス

曳船

一　船舶ノ出入、繫留、解纜又ハ轉繫ノ爲使用セシム

二　使用セントスル船舶ハ豫メ別記第六號樣式ノ曳船使用許可願ヲ埠頭出張所長ニ提出シ其ノ許可ヲ受クベシ

三　被曳船ノ船側ニ至リタルトキヨリ當該船舶ノ指揮ニ屬ス

四　作業中ニ生ジタル自他ノ損害ハ曳船從事員ノ故意又ハ重大ナル過失ニ基因セルコトノ證明セラレタル場合ヲ除クノ外曳船ヲ使用シタル船舶ノ負擔トス

歩板

一　旅客ヲ運送スル船舶ニ使用セシメ無料トス

二　使用セントスル船舶ハ埠頭出張所長ノ許可ヲ受クベシ

三　裝備及監視ハ使用船舶ノ責任トス

起重機

一　交通局總長ノ指定スル者ヲシテ取扱ハシム

二　使用料其ノ他運用ニ關スル規定ハ交通局總長ノ認